SONY

2-055-844-**02**(1)

カメラ編　デジタルビデオカメラレコーダー　DCR-HC1000

カメラ編

取扱説明書

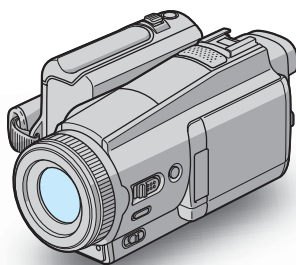
はじめにお読みください

早分かりガイド

詳しくは

デジタルビデオカメラレコーダー

HANDYCAM

DCR-HC1000

InfoLITHIUM TM F SERIES

⚠警告　**電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。**
この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

はじめにお読みください

お買い上げいただきありがとうございます。

カセットメモリー付きのミニDVカセットのおすすめ
本機はDV方式のビデオカメラレコーダーです。ミニDVカセットでのみ使えます。本機では、タイトルサーチ（52ページ）・日付サーチ（53ページ）・タイトルやカセットラベルの作成（72、73ページ）ができるカセットメモリー付きのミニDVカセットを推奨しています。
カセットメモリー付きミニDVカセットには CIIIマークが付いています。

本機で使える“ メモリースティック"について
本機は、標準の“ メモリースティック ”の約半分の大きさの“ メモリースティック　デュオ ”のみ使えます（121ページ）。
“ メモリースティック　デュオ ”には MEMORY STICK DUO マークがついています。

録画・録音について
- 必ず事前にためし撮りをし、正常に録画・録音されていることを確認してください。
- 万一、ビデオカメラレコーダーや記録メディアなどの不具合により記録や再生がされなかった場合、画像や音声などの記録内容の補償については、ご容赦ください。
- あなたがビデオで録画・録音したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

液晶パネル、ファインダーおよびレンズについて
- 液晶パネルやファインダーは有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れる、または白や赤、青、緑の点が消えないことがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されませんので安心してお使いください。
- 液晶パネルやファインダー、レンズを太陽に向けたままにすると故障の原因になります。窓際や屋外に置くときはご注意ください。
- 直接太陽を撮影しないでください。故障の原因になります。夕暮れ時の太陽など光量の少ない場合は撮影できます。

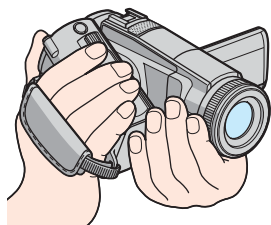
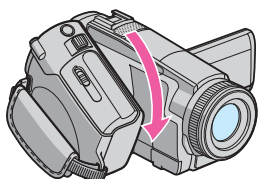
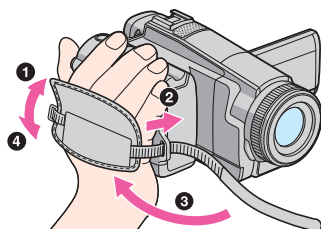
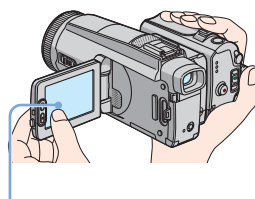
他機との接続についてのご注意
USBケーブルやi.LINKケーブルなどで本機とパソコンをつなぐ場合、端子の向きを確認してつないでください。無理に押し込むと、端子部が破損することがあります。また、本機の故障の原因となります。

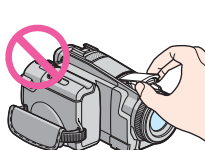
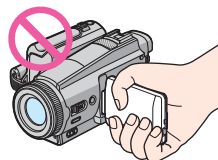
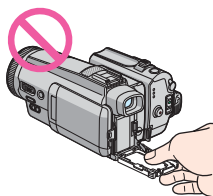
本書について
液晶パネルやファインダーの映像を説明するのにスチルカメラによる写真を使っています。実際に見えるものとは異なります。

電波障害自主規制について

> この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
> 取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本機の扱いかたについて

- 本機は正しく構えて使ってください。

- 使いやすい角度にマルチアングルグリップを回転させてお使いください。

- マルチアングルグリップを勢いよく回したり、衝撃を与えないでください。画像・音声が乱れるなどの不具合が生じることがあります。
- グリップベルトをしっかりとしめて使ってください。

- タッチパネルは、液晶パネルの背面を手で支えながら、画面上のボタンに指で軽くタッチして（触れて）使ってください。

液晶画面のボタンをタッチ

- 液晶パネルを開閉するときや角度を調節するときに、液晶横のボタン類を誤って押さないでください。
- 次の部分をつかんで持ち上げないでください。

フラッシュ　　液晶パネル

バッテリーカバー

目次

テープだけで使える機能です。
"メモリースティック　デュオ"だけで使える機能です。

早分かりガイド

準備する

撮る

見る

次のページへつづく➡

目次（つづき）

進んだ使いかた

メニューで設定する

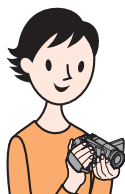
ダビングや編集をする

困ったときは

その他

各部のなまえ・索引

本書以外の説明書もご覧ください。

・ パソコンで編集するとき など ⇨ パソコン編

早分かりガイド

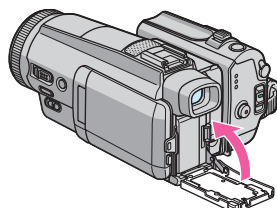
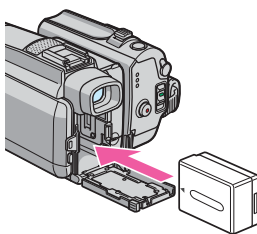
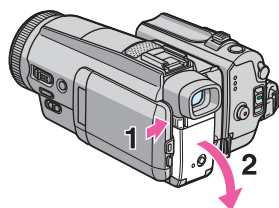
動画を撮る

1 充電されたバッテリーを取り付ける。

⇨充電のしかたは13ページ

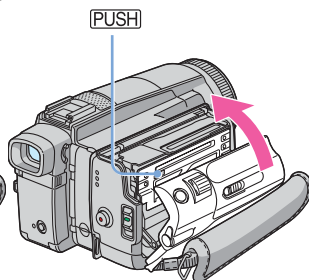
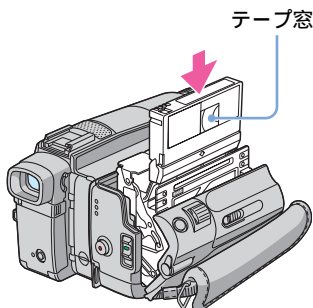
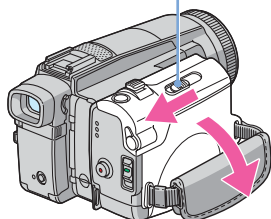
❶ **1の方向に押しながら、バッテリーカバーを開ける。**

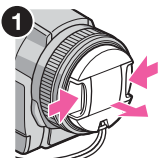
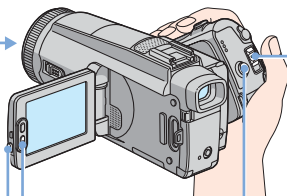
❷ **バッテリーを「カチッ」というまで矢印の方向に入れる。**

❸ **バッテリーカバーを閉める。**

2 カセットを入れる。

❶ **⌐開く／カセット取出しつまみを矢印の方向へずらしたまま、カセットカバーを開ける。**
カセット入れが自動的に出てきます。

❷ **テープ窓を外側にして、カセットの背の中央を押して入れる。**

❸ **PUSH マークを押す。**
カセット入れが自動的に収納されたらカセットカバーを閉める。

3 液晶画面を見ながら撮影する。

お買い上げ時には日付・時刻の設定がされていません。⇨設定のしかたは18ページ

❶ **レンズキャップをはずす。**

❷ **OPENボタンを押しながら、液晶パネルを開ける。**

❸ **緑のボタンを押しながら、電源スイッチを下にずらし、撮る-テープランプを点灯させる。**

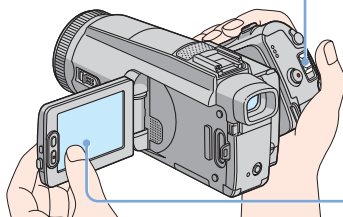
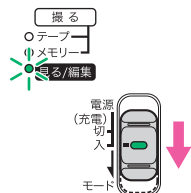
電源が入ります。

❹ **録画スタート／ストップボタンを押す。**

撮影が始まります。
もう一度押すと止まってスタンバイ（撮影待機）になります。

液晶画面の横のスタート／ストップボタンでも操作できます。

4 液晶画面で見る。

❶ **電源スイッチを繰り返し下にずらし、見る／編集ランプを点灯させる。**

❷ **◀◀（巻戻しボタン）をタッチして、巻き戻す。**

❸ **▶II（再生ボタン）をタッチして、再生する。**

■を押すと再生が止まります。

電源を切るには電源スイッチを上にずらして「（充電）切」にします。

静止画を撮る

1　充電されたバッテリーを取り付ける。

⇨充電のしかたは13ページ

❶ 1の方向に押しながら、バッテリーカバーを開ける。

❷ バッテリーを「カチッ」というまで矢印の方向に入れる。

❸ バッテリーカバーを閉める。

2　“メモリースティック　デュオ”を入れる。

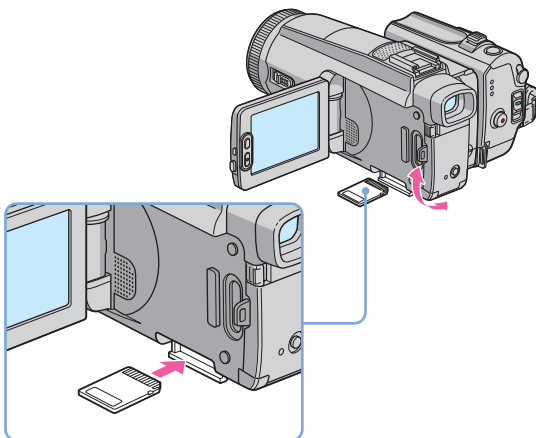
❶ “メモリースティック デュオ”カバーを開ける。

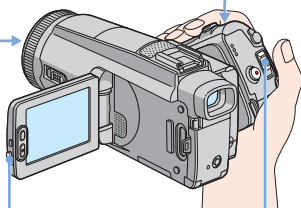
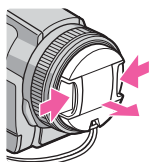
❷ “メモリースティック デュオ”を図のように端子面を上にして、「カチッ」というまで押し込む。

❸ “メモリースティック デュオ”カバーを閉める。

3　液晶画面を見ながら撮影する。

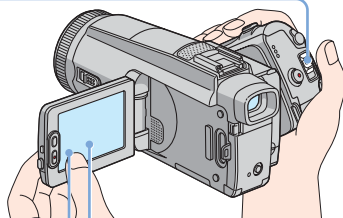
お買い上げ時には日付・時刻の設定がされていません。⇨設定のしかたは18ページ

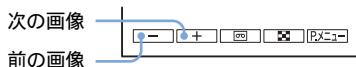
❶ **レンズキャップをはずす。**

❷ **OPENボタンを押しながら、液晶パネルを開ける。**

❸ **緑のボタンを押しながら、電源スイッチを撮る-メモリーランプが点灯するまで、繰り返し下にずらす。**
電源が入ります。

❹ **フォトボタンを軽く押す。**
「ピピッ」と鳴ってピントが合います。

❺ **フォトボタンを深く押す。**
「カシャッ」というシャッター音とともに“メモリースティックデュオ”に静止画が記録されます。

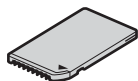
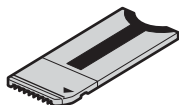
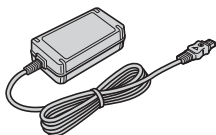
4　液晶画面で見る。

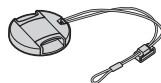
❶ **電源スイッチを繰り返し下にずらし、見る／編集ランプを点灯させる。**

❷ **[再生]をタッチする。**
最後に撮影した画像が表示されます。

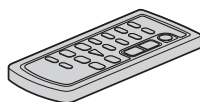
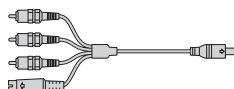
❸ **[＋]（次の画像）や[－]（前の画像）をタッチして、画像を順々に見ていく。**

電源を切るには電源スイッチを上にずらして「（充電）切」にします。

準備1　付属品を確かめる

箱を開けたら、本機のほかに次の物がそろっているか確認してください。
(　) 内は個数を表します。

“ メモリースティック　デュオ ” 8MB（1）
本機は、標準の “ メモリースティック ” の約半分の大きさの “ メモリースティック　デュオ ” のみ使えます（121ページ）。

メモリースティック　デュオ アダプター（1）
“ メモリースティック　デュオ ” をメモリースティック　デュオ　アダプターに挿入すると、標準の “ メモリースティック ” 対応機器でもご使用になれます。

ACアダプター（1）

電源コード（1）

レンズキャップ　（1）
本機にあらかじめ取り付けられています。

レンズフード（1）
晴れた日の屋外など強い光源のある場所で取り付けます。別売りのフィルターを付けたときはフードの影（ケラレ）が出ることがあります。また無理に取り付けるとはずせなくなります。

ワイヤレスリモコン（1）
ボタン型リチウム電池があらかじめ取り付けられています。

AV接続ケーブル（1）

USBケーブル（1）

リチャージャブルバッテリーパック NP-FF71（1）

CD-ROM「SPVD-012 USBドライバ」（1）

クリーニングクロス（1）

カメラ編　説明書 <本書>　（1）

パソコン編　説明書　（1）

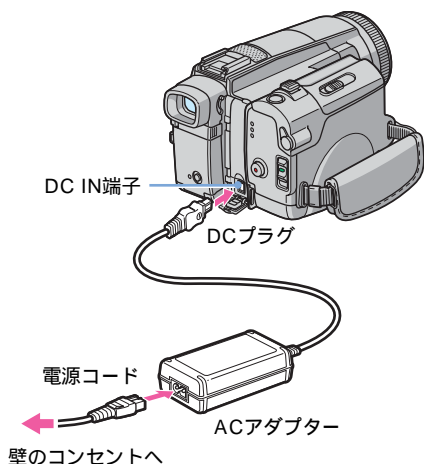
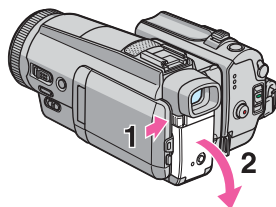
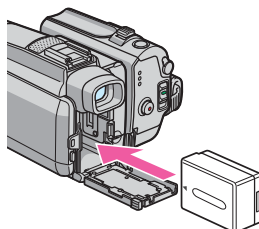
安全のために（1）

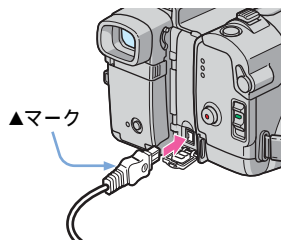
保証書（1）

準備2　バッテリーを充電する

専用の“ インフォリチウム ”バッテリー（Fシリーズ）を本機に取り付けて充電します。

ご注意

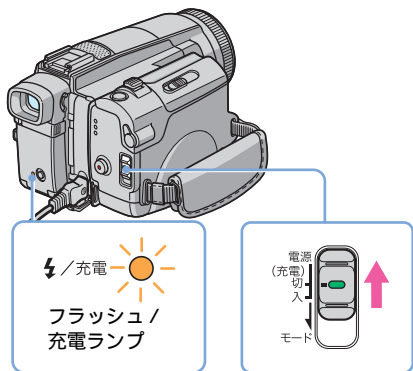
- 本機は“ インフォリチウム ”バッテリー（NP-FF70/FF71）（124ページ）のみ使えます。
- ACアダプターのDCプラグやバッテリー端子を金属類でショートさせないでください。故障の原因になります。
- ACアダプターは手近なコンセントを使用してください。本機を使用中、不具合が生じたときはすぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。

1　1の方向に押しながら、バッテリーカバーを開ける。

2　バッテリーを「カチッ」というまで矢印の方向に入れる。

3　バッテリーカバーを閉める。

4　DCプラグの▲マークをバッテリーカバー側にして、ACアダプターを本機のDC IN端子につなぐ。

5　電源コードをACアダプターにつなぐ。

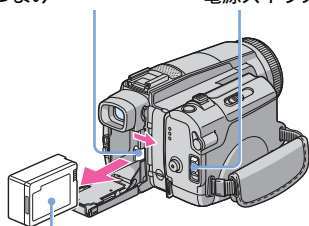
6　電源コードをコンセントにつなぐ。

次のページへつづく➡

7 電源スイッチを「(充電) 切」にする。

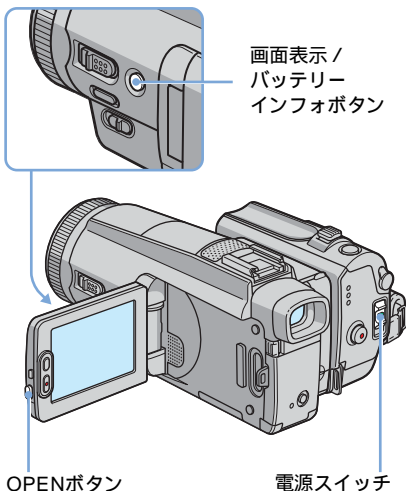
フラッシュ／充電ランプが点灯し、充電が始まります。

◆充電が終わると

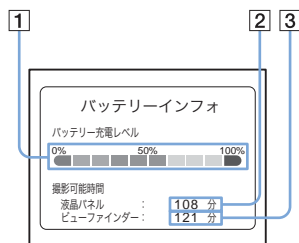
フラッシュ／充電ランプが消えます（満充電）。
ACアダプターをDC IN端子から抜く。

◆バッテリーを取り出すには

1 電源スイッチを「(充電) 切」にする。
2 バッテリーカバーを開ける。
3 バッテリー取り外しつまみを矢印の方向にずらして、バッテリーを取り出す。

保管するときは

長い間使わないときは、バッテリーを使い切ってから保管してください。（保管について詳しくは124ページをご覧ください。）

◆バッテリーの残量を確認するには — バッテリーインフォ

充電中や電源を切った状態でバッテリーの充電レベルとそのレベルで撮影可能な時間を確認できます。

1 電源スイッチを「(充電) 切」にする。
2 OPENボタンを押しながら、液晶パネルを開ける。
3 画面表示／バッテリーインフォボタンを押す。
   バッテリーの情報を約7秒間表示します。
   押し続けると、約20秒間表示します。

1 バッテリー充電レベル：およそのバッテリー残量

2 液晶パネル使用時のおよその撮影可能時間

3 ファインダー使用時のおよその撮影可能時間

◆充電時間

使い切ったバッテリーを25℃（10〜30℃が推奨）で充電したときのおよその時間(分)です。

バッテリー型名	満充電時間
NP-FF71（付属）	170
NP-FF70	150

◆液晶画面での撮影可能時間

満充電のバッテリーを使って25℃で撮影したときのおよその時間(分)です。

液晶画面バックライトボタンが「入」のとき

バッテリー型名	連続撮影時	実撮影時*
NP-FF71（付属）	120	65
NP-FF70	110	60

液晶画面バックライトボタンが「切」のとき

バッテリー型名	連続撮影時	実撮影時*
NP-FF71（付属）	135	75
NP-FF70	120	65

◆ファインダーでの撮影可能時間

満充電のバッテリーを使って25℃で撮影したときのおよその時間(分)です。

バッテリー型名	連続撮影時	実撮影時*
NP-FF71（付属）	135	75
NP-FF70	125	70

* 録画やスタンバイ、電源スイッチの切り換え 、ズームなどを繰り返したときの時間で、実際にはこれよりも短くなることもあります。

◆再生可能時間

満充電のバッテリーを使って25℃で再生したときのおよその時間(分)です。

バッテリー型名	液晶パネルで再生*	液晶パネルを閉じて再生
NP-FF71（付属）	190	230
NP-FF70	175	210

* 液晶画面バックライトボタンが「入」のとき。

ご注意

- 電源コードをコンセントから抜いてもACアダプターが本機のDC IN端子につながれている限り、バッテリーからは電源供給されません。
- 低温の場所で使うと、撮影・再生時間はそれぞれ短くなります。
- 次のとき、充電中のフラッシュ／充電ランプが点滅する、またはバッテリーインフォが正しく表示されないことがあります。
  - バッテリーを正しく取り付けていないとき
  - バッテリーが故障しているとき
  - バッテリーが消耗しているとき（バッテリーインフォ表示のみ）

コンセントにつないで使うときは

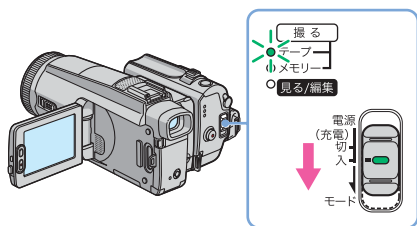
バッテリーが切れることを心配しないで使えます。また、バッテリーを取り付けたまま使っても、バッテリー自体は消耗しません。

「バッテリーを充電する」（13ページ）と同じ方法で接続して使う。

準備3　電源スイッチを入れる

撮影や再生をするときは、電源スイッチをそれぞれの電源モードに切り換えます。
初めて電源を入れたときは、［日時あわせ］画面が表示されます（18ページ）。

緑のボタンを押しながら、電源スイッチを矢印の方向にずらす。

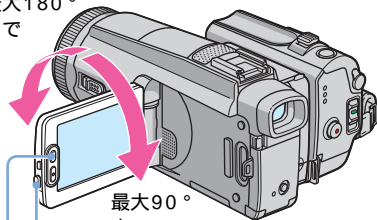
電源が入ります。
撮影や再生をするときは、該当のランプが点灯するまで、電源スイッチを繰り返し矢印の方向にずらして、電源モードを切り換えます。

- 「撮る-テープ」：テープ撮影するとき
- 「撮る-メモリー」：“ メモリースティック デュオ ” 撮影するとき
- 「見る／編集」：テープや “ メモリースティック　デュオ ” の画像を再生・編集するとき

◆電源を切るには

電源スイッチを「（充電）切」へずらす。

準備4　液晶画面やファインダーを見やすく調節する

液晶画面を見やすく調節する

液晶パネルは使用状況にあわせて見やすい角度や明るさに調節できます。運動会などで被写体が人垣の向こう側で見えないときでも、パネルの角度を変えれば映像を液晶画面で確認しながら撮影できます。

90°に開ききった状態で、好みの角度に調節する。

◆液晶画面の明るさを調節するには

1 P.メニュー をタッチする。

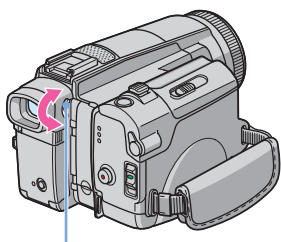
2 ［パネル明るさ］をタッチする。
画面にないときは ⌃ / ⌄ をタッチして、表示させます。見つからないときは［メニュー］をタッチして、（基本設定）メニューの［パネル・VF設定］から選びます（76ページ）。

3 − / ＋ で調節して、OK をタッチする。

ちょっと一言

- 液晶画面をレンズ側に180 °回転させると、外側に向けて本体に収められます。再生時に便利です。
- バッテリー使用時は、(基本設定)メニューの［パネル・VF設定］－［パネルバックライトレベル］でも調節できます。
- 屋外など明るい場所で使うときは、液晶画面バックライトボタンを押して液晶画面のバックライトを消す(が表示されます)とバッテリーを長持ちさせることができます。
- 液晶画面の明るさを変えても、録画される画像には影響はありません。
- (基本設定)メニューの［おしらせブザー］を［切］にすると、タッチなどによる操作音を消すことができます(78ページ)。

ファインダーを見やすく調節する

液晶パネルを閉じると、ファインダーで画像を見ることができます。バッテリー切れが心配なときや、液晶画面が見づらいときはファインダーを使います。

視度調整つまみ

画像がはっきり見えるように視度調整つまみを動かす。

◆ファインダーを見ながら操作するには

テープや“メモリースティック　デュオ”撮影のとき、液晶パネルを180 °回転させ、外側に向けて閉じると、ファインダーを見ながら［カメラ明るさ］(33ページ)と［フェーダー］(36ページ)が調節できます。

1 電源スイッチが「撮る-テープ」か「撮る-メモリー」になっていることを確認する。

2 液晶パネルを外側に向けて閉じる。

切 が表示されます。

3 切 をタッチする。

［パネルを消しますか?］が表示されます。

4 ［はい］をタッチする。

画面の表示が消えます。

5 ファインダーを見ながら、画面をタッチする。

［カメラ明るさ］などが表示されます。

6 設定するボタンをタッチする。

- ［カメラ明るさ］: － / ＋ で調節し、OK をタッチする。
- ［フェーダー］:繰り返しタッチして希望の効果を選ぶ(電源スイッチが「撮る-テープ」のときのみ)。
- 入:液晶画面を点灯する。

ボタン表示を消すには、OK をタッチする。

ちょっと一言

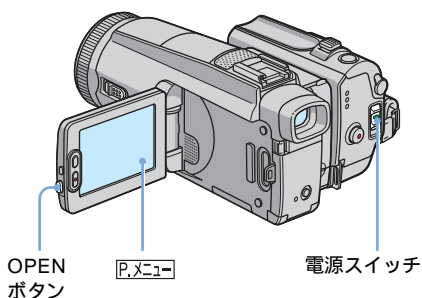
- ファインダーのバックライトの明るさを調節するには、(基本設定)メニューの［パネル・VF設定］－［VFバックライト］(バッテリー使用時、76ページ)で調節します。

準備する

準備5　時計を合わせる

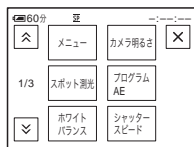
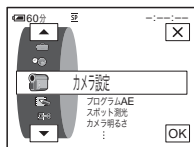
本機を初めて使うときは日付・時刻を設定してください。設定しないと、電源を入れるたびに［日時あわせ］画面が表示されます。

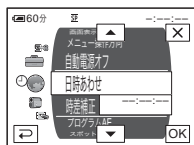
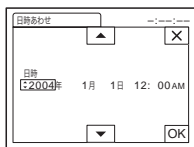
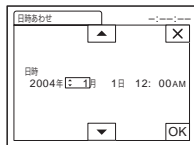
ご注意

- **3か月**近く使わないでおくと内蔵の充電式ボタン電池が放電して、日付・時刻の設定が解除されることがあります。その場合、充電式ボタン電池を充電してから設定し直してください（128ページ）。

1　電源を入れる（16ページ）。

2　OPENボタンを押しながら、液晶パネルを開ける。

初めて時計を合わせるときは手順7に進んでください。

3　P.メニューをタッチする。

4　［メニュー］をタッチする。

5　▲/▼で（時間設定）メニューを選び、OKをタッチする。

6　▲/▼で［日時あわせ］を選び、OKをタッチする。

7　▲/▼で［年］を合わせ、OKをタッチする。

2079年まで設定できます。

8　手順7と同様に［月］、［日］、時、分を合わせて、OKをタッチする。

時計が動き始めます。

真夜中は12:00:00AM、正午は12:00:00PMになります。

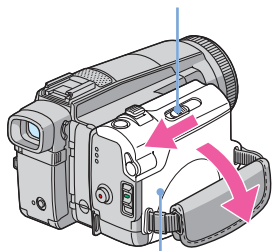
準備6　カセット・“メモリースティック デュオ”を入れる

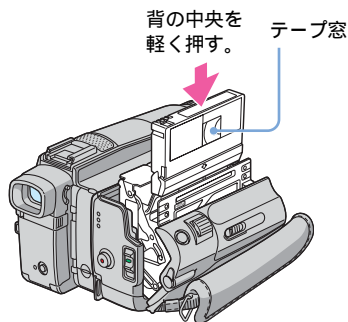
カセットを入れる

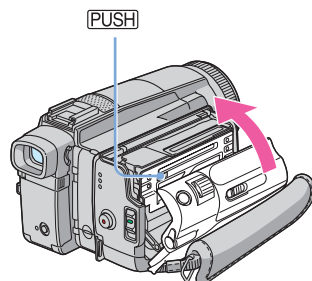
MiniDV マークの付いたミニDVカセットのみ使えます。誤消去防止方法など、カセットについてより詳しいことは、120ページをご覧ください。

ご注意

- カセット入れを無理に押し込まないでください。故障の原因になります。

1 開く／カセット取出しつまみを矢印の方向にずらしたまま、カセットカバーを開ける。

カセット入れが自動的に出て開きます。

2 テープ窓を外側にして、カセットを入れる。

3 PUSH マークを押す。

カセット入れが自動的に収納されます。

4 カセットカバーを手で閉める。

◆カセットを取り出すには

1. 開く／カセット取出しつまみをずらしたまま、カセットカバーを開ける。
   カセット入れが自動的に出て開きます。
2. カセットを取り出し、PUSH マークを押す。
   カセット入れが自動的に収納されます。
3. カセットカバーを手で閉める。

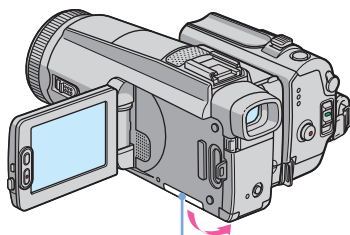
準備する

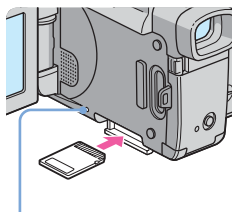
“ メモリースティック　デュオ ” を入れる

誤消去防止の方法や取り扱いなど “ メモリースティック　デュオ ” についてより詳しいことは、121ページをご覧ください。

ご注意

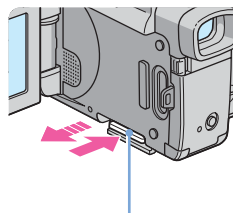
- 本機は、標準の “ メモリースティック ” の約半分の大きさの “ メモリースティック　デュオ ” のみ使えます（121ページ）。それ以外のサイズの “ メモリースティック ” を無理に入れないでください。

1 “ メモリースティック　デュオ ” カバーを開ける。

“ メモリースティック デュオ ” カバー

2 “ メモリースティック　デュオ ” を図のように端子面を上にして、「カチッ」というまで押し込む。

アクセスランプ

3 “ メモリースティック　デュオ ” カバーを閉める。

◆“ メモリースティック　デュオ ” を取り出すには

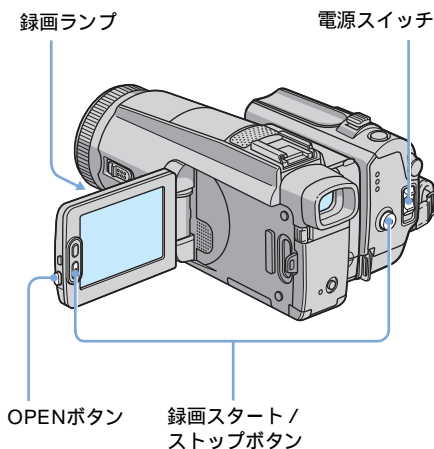
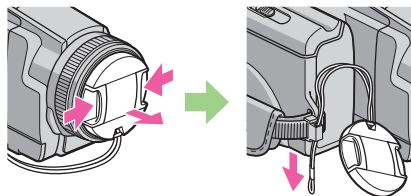
1 “ メモリースティック　デュオ ” カバーを開ける。
2 “ メモリースティック　デュオ ” を軽く１回押して取り出す。

軽く1回押す。

3 “ メモリースティック　デュオ ” カバーを閉める。

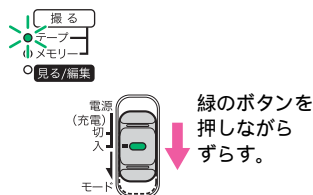
ご注意

- 逆向きで無理に入れると、“ メモリースティック デュオ ” スロットが破損したり、“ メモリースティック デュオ ” 内の画像ファイルが失われることがあります。
- “ メモリースティック　デュオ ” スロットには “ メモリースティック　デュオ ” 以外は入れないでください。故障の原因となります。
- アクセスランプ点灯中および点滅中はデータの読み込み、または書き込みを行っています。本機に振動や強い衝撃を与えないでください。また、電源を切ったり、“ メモリースティック　デュオ ” やバッテリーを取り出したりしないでください。画像データが壊れることがあります。

動画を撮る

テープにも、"メモリースティック　デュオ"にも動画を撮影できます。あらかじめ準備1～6（12～20ページ）を行っておいてください。
テープに撮影するときはステレオ音声、"メモリースティック　デュオ"に撮影（MPEGムービー撮影）するときはモノラル音声になります。

1 レンズキャップをはずし、ひもを下に引っ張り、グリップに固定する。

2 OPENボタンを押しながら、液晶パネルを開ける。

3 電源スイッチを切り換える。

テープに撮影するとき
電源スイッチをずらして、撮る-テープランプを点灯させる。
スタンバイ（撮影待機）になります。

"メモリースティック　デュオ"に撮影するとき－MPEGムービーEX
電源スイッチを繰り返しずらして、撮る-メモリーランプを点灯させる。
選ばれている記録先フォルダが表示されます。

4 録画スタート／ストップボタンを押す。

録画が始まり、画面に［●録画］が表示され、録画ランプも点灯します。もう一度押すと、録画が停止します。

◆最後に撮影したMPEGムービーを確かめるには－レビュー

をタッチする。
自動的に再生が始まります。
をタッチするとスタンバイに戻ります。

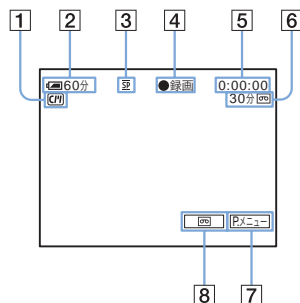
次のページへつづく➡

動画を消すには、再生が終わってから を
タッチして、[はい]をタッチします。取り消
すときは、[いいえ]をタッチします。

◆撮影が終わったら

電源スイッチを上にずらして「(充電)切」に
する。

◆テープ撮影中の画面表示

画面表示はテープには録画されません。撮影
中、日付やカメラデータ(49ページ)は表示
されません。

1 カセットメモリー付きカセットの表示

2 バッテリー残量と連続撮影時間の目安

使用状況・環境によっては正しく表示されない
ことがあります。液晶パネルを開閉したときは
正しい残量時間を表示するまで約1分かかりま
す。

3 録画モード(SPまたはLP)

4 撮影状態([スタンバイ]または[●録画])

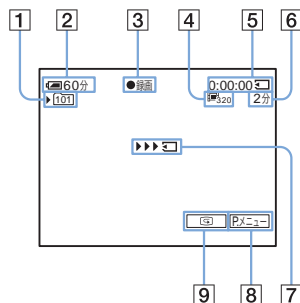
5 タイムコードまたはテープカウンター(時:分:秒)

6 テープ残量(78ページ)

7 パーソナルメニューボタン(54ページ)

8 エンドサーチ/エディットサーチ/レックレビュー画面切り換えボタン(41ページ)

◆“メモリースティック デュオ”撮影中の画面表示

画面表示は“メモリースティック デュオ”に
は録画されません。撮影中、日付(49ページ)
は表示されません。

1 記録先のフォルダ

2 バッテリー残量と連続撮影時間の目安

使用状況・環境によっては正しく表示されない
ことがあります。液晶パネルを開閉したときは
正しい残量時間を表示するまで約1分かかりま
す。

3 撮影状態([●録画])

4 動画の画像サイズ

5 撮影時間(時:分:秒)

6 “メモリースティック デュオ”残量

7 “メモリースティック デュオ”録画開始の表示(約5秒間表示)

8 パーソナルメニューボタン(54ページ)

9 レビューボタン(21ページ)

ご注意

- バッテリーの交換は、電源スイッチを「(充電)切」にしてから行ってください。
- お買い上げ時は、電源を入れて何もしない状態が約5分以上続くと、バッテリー消耗防止のため、自動的に電源が切れます([自動電源オフ]、79ページ)。撮影を再開するときは、電源スイッチを下にずらして「撮る-テープ」か「撮る-メモリー」に戻し、もう一度録画スタート/ストップボタンを押します。
- MPEGムービーの撮影中は、パーソナルメニューのみ使うことができます。
パーソナルメニューにないメニュー設定項目を使う場合は、あらかじめパーソナルメニューに追加しておいてください(81ページ)。
- 別売りのフラッシュをインテリジェントアクセサリーシューにつけたまま、“メモリースティック デュオ”へ撮影するときは、フラッシュの電源を切ってください。フラッシュへの充電音が記録されることがあります。

ちょっと一言

- 長い間使わないときは、カセットを取り出して保管してください。
- 動画の録画には、液晶横の録画スタート／ストップボタンもお使いいただけます。ローアングルでの撮影や、対面撮影で自分を撮るときに便利です。
- 液晶横の録画スタート／ストップボタンを押すときは、液晶パネルに手を添えてください。
- テープできれいにつないで撮影するには、次の点に気をつけてください。
  - カセットを取り出さない（電源を切ってもきれいにつなぎ撮りできます）。
  - 同じテープにSPとLPの両モードを混ぜてつなぎ撮りしない。
  - LPモードでつなぎ撮りしない。
- "メモリースティック　デュオ"の容量ごとの録画可能時間は『"メモリースティック　デュオ"でより長く録画するには』（23ページ）をご覧ください。
- 録画日時やカメラデータ（テープのみ）は、表示されないまま自動で記録され、再生時に［データコード］を選ぶと見ることができます（49ページ）。

より長い時間録画する

◆テープでより長く録画するには

（基本設定）メニューで［録画モード］を［LP］（長時間）にする（75ページ）。
SP（標準）モードの1.5倍録画できます。本機のLPモードで録画したテープは本機で再生してください。

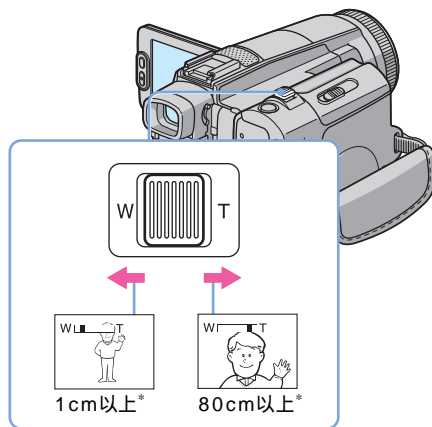
◆"メモリースティック　デュオ"でより長く録画するには

（メモリー設定）メニューの［ムービー設定］で［画像サイズ］を［160×112］にする（64ページ）。
画像サイズの設定や撮影の状況で撮影時間は異なります。次の表は、本機でフォーマットした"メモリースティック　デュオ"に記録できる撮影時間の目安です。

画像サイズと時間（時間：分：秒）

	320×240 320	160×112 160
8MB（付属）	00:01:20	00:05:20
16MB	00:02:40	00:10:40
32MB	00:05:20	00:21:20
64MB	00:10:40	00:42:40
128MB	00:21:20	01:25:20
256MB（MSX-M256）	00:42:40	02:50:40
512MB（MSX-M512）	01:25:20	05:41:20

ズームする

電源スイッチが「撮る-テープ」のときは12倍を越えると、デジタルズームが働くようにメニューで設定できます（［デジタルズーム］、61ページ）。
ズームを使いすぎると見づらい画面になるため、効果的にズームしてください。

* ピントが合うのに必要な被写体との距離

ズームレバーを軽く動かすとゆっくり、さらに動かすと速くズームする。

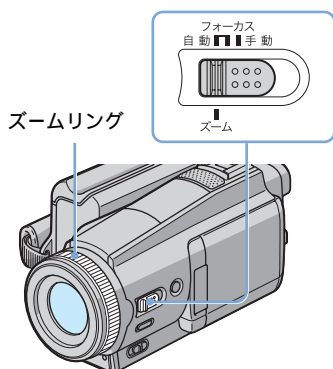
広角にするとき

ズームレバーを「W」の方向へ動かす。
被写体が小さくなります。広角＝Wide（ワイド）。

次のページへつづく➡

望遠にするとき
ズームレバーを「T」の方向へ動かす。
被写体が大きくなります。望遠＝Telephoto（テレフォト）。

◆ズームリングを使うには

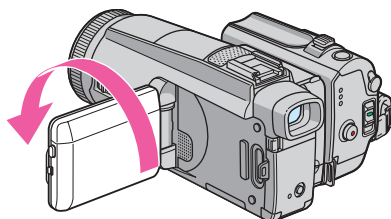
ズームリングを使うと、お好みの速さでズームすることができます。また微調整も可能です。

1 フォーカス／ズームスイッチを「ズーム」にする。
が表示されます。

2 ズームリングを好みの速さで回す。

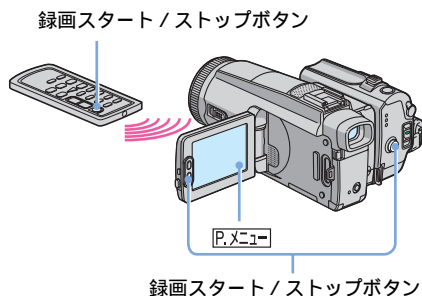
ご注意

• ズームリングを速く回しすぎると、ズームがリングの回転に追いつけないことがあります。

対面撮影する

液晶パネルを相手に向けながら撮影すれば、撮影する側、撮影される側の両方で撮影中の画面を確認できます。小さい子供を撮影するときにカメラのほうへ注目させたり、撮影者が自分自身を撮影したりするときなどにも使えます。

液晶パネルを90°まで開いてから、180°回転して被写体に向ける。
液晶画面には左右反転で映りますが、実際には左右正しく録画されます。

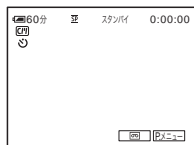
セルフタイマーを使う

セルフタイマーを使うと、約10秒後に録画を開始できます。

1 P.メニューをタッチする。

2 ［セルフタイマー］をタッチする。

画面にないときは[▲]/[▼]をタッチして表示させます。見つからないときは、［メニュー］をタッチして（カメラ設定）メニューから選びます（56ページ）。

3 ［入］をタッチして、OKをタッチする。

が表示されます。

4 録画スタート／ストップボタンを押す。

セルフタイマーの秒読みが始まり、約10秒後に録画が始まります。（カウントダウン表示は8から始まります。）
もう一度押すと、録画が停止します。

◆秒読みを停止するには

［リセット］をタッチする、または録画スタート／ストップボタンを押す。

◆セルフタイマーを解除するには

手順1、2を行い、手順3で［切］をタッチする。

撮る

臨場感のある音で記録する

—4CHマイク記録

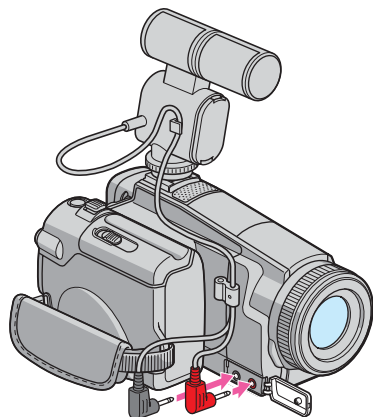
別売りのマイクロホンとソニーパーソナルコンピューター VAIOを使うと、下記のような流れで5.1chサラウンド対応の音づくりを楽しむことができます。

録画
マイクロホンECM-CQP1（別売り）を本機に取り付け撮影。フロント側L/R、リア側L/Rの4chの音を同時に記録する。
↓
DVD作成
VAIOのClick to DVD（Ver.2.0以降）で、5.1chサラウンド再生対応のDVDを作成する。
↓
再生
ホームシアターシステムで5.1ch再生する。

ちょっと一言

- 本書では、**録画**について説明します。
- この操作には別売りのマイクロホンECM-CQP1が必要です。
- 5.1chサラウンドDVD作成にはVAIO搭載アプリケーションClick to DVD（Ver.2.0以降）が必要です。
  詳しくは下記のURLをご覧ください。
  http://www.vaio.sony.co.jp/c2dvd-support/
- **DVD作成**について、詳しくは付属の取扱説明書パソコン編をご覧ください。

ご注意

- 本機では、5.1chサラウンド音声の出力はできません。
- 音声は12ビットで記録されます。メニューの［音声モード］が［16ビット］になっているときは、自動的に12ビットに切り換わります。
- 撮影中は、マイクロホンのケーブルを抜き差ししないでください。
- VAIOのアプリケーションによっては、4CHマイク記録信号に非対応のものがあります。
  詳しくは下記のURLをご覧ください。
  http://www.sony.co.jp/support-di/

REAR（黒）端子へ　FRONT（赤）端子へ

1 マイクロホンを取り付ける。
フロントマイクプラグ（赤）をFRONT（赤）端子に、リアマイクプラグ（黒）をREAR（黒）端子に奥までしっかり差し込んでください。
詳しくは、マイクロホンの取扱説明書をご覧ください。

2 電源スイッチを「撮る－テープ」にする。
画面に♪4ch-12bが表示されます。

3 録画スタート／ストップボタンを押す。

◆記録時に音声を確認するには ー 4CH音声確認

フロント／リアから入力される音声を確認できます。ヘッドホンを使うことをおすすめします（132ページ）。

1 P.メニューをタッチする。

2 ［メニュー］をタッチする。

3 ▲/▼とOKをタッチして（基本設定）メニューから［4CH 音声確認］を選ぶ。

4 ［FRONT］または［REAR］を選んで、OKをタッチする。

［FRONT］のとき
フロント側から入力される音声を確認できます。

［REAR］のとき
リア側から入力される音声を確認できます。

◆記録する音量を調整するには

フロント／リアから入力される音量を調整できます。ヘッドホンを使うことをおすすめします（132ページ）。

1 P.メニューをタッチする。

2 ［マイク音レベル］をタッチする。
画面にないときは、⌃/⌄をタッチして表示させます。見つからないときは、［メニュー］をタッチして、（基本設定）メニューから選びます。

3 ［マニュアル］をタッチする。

4 －/＋をタッチして、音量を調整する。
フロント／リア、どちらか一方の音量を調整することはできません。

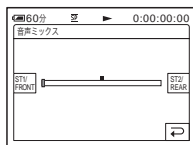
5 OKをタッチする。

◆記録した音声を確認する

撮影後にフロント／リアの音声が記録されているかを確認できます。

1 電源スイッチを「見る／編集」にする。

2 P.メニューをタッチする。

3 ［音声ミックス］をタッチする。
画面にないときは、⌃/⌄をタッチして表示させます。見つからないときは、［メニュー］をタッチして、（基本設定）メニューから選びます。

4 ST1/FRONT/ST2/REARでフロントとリアの音声を調整し、OKをタッチする。
ST1/FRONT側にするとフロントの音声、ST2/REAR側にするとリアの音声が確認できます。
本機の音声出力端子は2ch分の音声出力に対応のため、4ch分の音声を同時に出力できません。バーを中央にした場合、フロント／リアの音声が50%ずつとなります。
調整したバランスは、電源をはずして５分以上経つと、お買い上げ時の設定に戻ります。

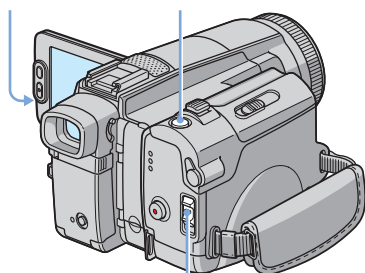
◆4CHマイク記録を終了するには

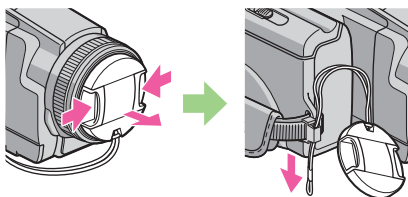
録画を停止し、電源を切った状態で、マイクロホンのケーブルを抜きます。

撮る

静止画を撮る
—メモリーフォト撮影

“ メモリースティック　デュオ ” に静止画を記録できます。あらかじめ準備1～6（12～20ページ）を行っておいてください。

OPENボタン　**フォトボタン**

電源スイッチ

1 レンズキャップをはずし、ひもを下に引っ張り、グリップに固定する。

2 OPENボタンを押しながら、液晶パネルを開ける。

3 電源スイッチを「撮る-メモリー」にする。

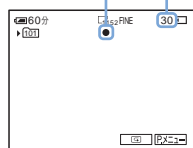
選ばれている記録先フォルダが表示されます。

緑のボタンを押しながらずらす。

4 フォトボタンを軽く押す。

中央部にピントと明るさが合うと、「ピピッ」と鳴ります。まだ記録されていません。

点滅から点灯に変わります。

記録可能なおよその枚数*

* 画質設定や被写体の状況によって異なります。

5 フォトボタンを深く押す。

「カシャッ」というシャッター音がします。IIII が消えると静止画の記録が完了します。

◆最後に撮影した画像を確かめるには—レビュー

をタッチする。

をタッチするとスタンバイに戻ります。

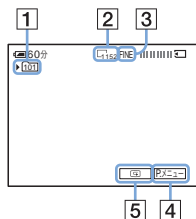
画像を消すには、をタッチして、［はい］をタッチします。取り消すときは、［いいえ］をタッチします。

◆撮影が終わったら

電源スイッチを上にずらして「(充電) 切」にする。

◆連続して撮影するには－連写

(メモリー設定) メニューの [静止画設定] － [■連写] で設定する (63ページ)。
約0.5秒間隔で、4～13枚まで連写できます。

◆撮影時の画面表示

1 **記録先のフォルダ**

2 **画像サイズ**

1152 (1152×864) または 640 (640×480)

3 **画質**

FINE ([ファイン]) または STD ([スタンダード])

4 **パーソナルメニューボタン (54ページ)**

5 **レビューボタン (28ページ)**

ちょっと一言

- リモコンのフォトボタンは、押したときに映っている画像が記録されます。
- 日付/カメラデータは表示されないまま自動で記録され、再生時に [データコード] を選ぶと見ることができます (49ページ)。
- 電源スイッチを「撮る-テープ」にしているときより画角は広くなります。

画質や画像サイズを選ぶ

(メモリー設定) メニューの [静止画設定] で [■画質] や [■画像サイズ] を設定できます (64ページ)。
画質・画像サイズの設定や撮影の状況で、枚数は異なります。次の表は、本機でフォーマットした " メモリースティック デュオ " に記録できる枚数の目安です。

画質が [ファイン] のとき (枚)

画像1枚の容量は1152×864で500kB、640×480で150kBです。

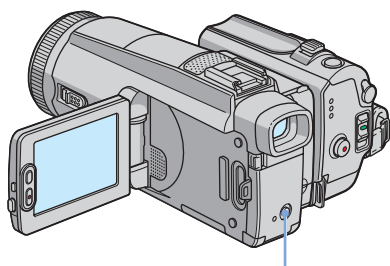
	1152×864	640×480
8MB (付属)	15	50
16MB	30	96
32MB	61	190
64MB	120	390
128MB	245	780
256MB (MSX-M256)	445	1400
512MB (MSX-M512)	900	2850

画質が [スタンダード] のとき (枚)

画像1枚の容量は1152×864で200kB、640×480で60kBです。

	1152×864	640×480
8MB (付属)	37	120
16MB	74	240
32MB	150	485
64MB	300	980
128MB	600	1970
256MB (MSX-M256)	1000	3550
512MB (MSX-M512)	2050	7200

フラッシュを使う

内蔵フラッシュの推奨撮影距離は0.3〜2.5mです。
お買い上げ時は自動で発光する設定のため、フォトボタンを押すと、撮影条件に合わせて、フラッシュが自動で上がり発光します。手動で強制発光や使用不可に設定するときは、次の操作を行ってください。(カメラ設定）メニューの［フラッシュ設定］ー［赤目軽減］の設定（60ページ）によってフラッシュの種類が変わります。

（フラッシュ）ボタン

（フラッシュ）ボタンを繰り返し押して、お好みの設定を選ぶ。

以下の順で繰り返し表示されます。

［赤目軽減］が［切］のとき

表示なし（自動調節）：撮影状況の光量が足りないと判断した場合、自動的に発光する。

↓

（強制発光）：周囲の明るさに関係なく、常に発光する。

↓

（発光禁止）：常に発光しない。

［赤目軽減］が［入］のとき

(自動赤目軽減)：自動でフラッシュ撮影するときのみ、予備発光し、撮影時に発光する。

↓

（強制赤目軽減）：常に予備発光し、撮影時に発光する。

↓

（発光禁止）：常に発光しない。

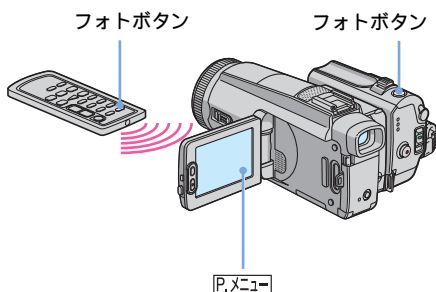
ご注意

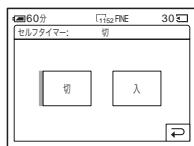
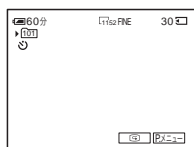
- フラッシュ表面の汚れは取り除いて使ってください。光による熱でフラッシュ表面の汚れが変色、貼り付くなどしてフラッシュが充分な量を発光できなくなることがあります。
- 「赤目軽減」で撮影しても、効果が現れにくいことがあります。
- フラッシュランプは、充電中に点滅し、充電が完了すると点灯に変わります（電源スイッチが「撮る-テープ」のときはフラッシュが上がった状態で撮影に必要な充電をするため、少し時間がかかります）。
- 以下の操作中はフラッシュ撮影できません。
  - ー デジタルエフェクト
  - ー 連写
  - ー テープ撮影中
  - ー ［ワイドTV］モード
  - ー シャッタースピードを1/30秒以下に設定
- 自動調節や「(自動赤目軽減)」にしていても、次のときはフラッシュは自動で発光しません。
  - ー ［プログラムAE］の［スポットライト］、［サンセット＆ムーン］または［フウケイ］
  - ー カメラ明るさ調節
  - ー フレキシブルスポット測光
  - ー ［シャッタースピード］を［マニュアル］に設定
- 逆光時など明るい場所では、強制発光を行ってもフラッシュ効果が得られにくいことがあります。
- コンバージョンレンズ（別売り）を付けていると、影が映ることがあります。
- 別売りのフラッシュと内蔵フラッシュは同時に使えません。
- インテリジェントアクセサリーシュー対応のビデオライト点灯中は、内蔵のフラッシュは発光しません。

ちょっと一言

- 発光量は自動で調節されますが、(カメラ設定）メニューの［フラッシュ設定］ー［フラッシュレベル］を使うと手動でも発光量を変えられます（60ページ）。
- 周囲が暗いときなどピントが合いにくいときは、「手動でピントを合わせる」（35ページ）のフォーカス距離情報を使ってください。

セルフタイマーを使う

セルフタイマーを使うと、約10秒後に静止画を撮影します。

1 P.メニュー **をタッチする。**

2 [セルフタイマー]をタッチする。
画面にないときは⌃/⌄をタッチして表示させます。見つからないときは、[メニュー]をタッチして（カメラ設定）メニューから選びます。

3 [入]をタッチして、OK をタッチする。
が表示されます。

4 フォトボタンを深く押す。
セルフタイマーの秒読みが始まり、約10秒後に撮影されます。（カウントダウン表示は8から始まります。）

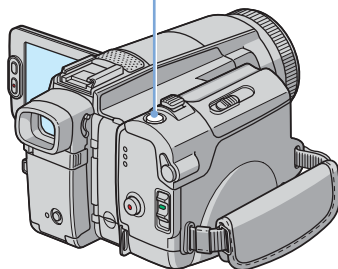
が消えると、"メモリースティック　デュオ"に静止画が記録されます。

◆秒読みを停止するには

[リセット]をタッチする。

◆セルフタイマーを解除するには

手順1、2を行い、手順3で［切］をタッチする。

テープ撮影中に"メモリースティック　デュオ"に静止画を撮影する

ちょっと一言

- 記録できる静止画の画像サイズは［640×480］に固定されます。
  画像サイズを選んで撮影するときはメモリーフォト撮影を使います（28ページ）。

テープ撮影中に、フォトボタンを深く押す。

スクロールが終わると記録が完了します。

撮る

◆スタンバイ中に静止画撮影するには

フォトボタンを軽く押して画像を確認し、フォトボタンを深く押す。

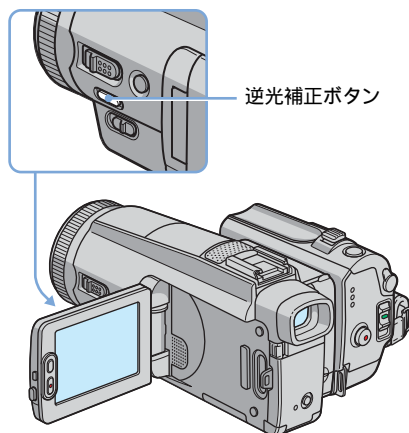
ご注意

- 次の設定のとき、“ メモリースティック　デュオ ” に静止画を撮影できません。
  ー［ワイドTV］モード
  ー メモリーオーバーラップ
  ー メモリーミックス
- タイトルは記録できません。

明るさを調節する

お買い上げ時は自動で画像の明るさが調節される設定になっています。

逆光補正する

被写体の後ろに太陽などの光源があり（逆光）、被写体が陰になるときに使います。

撮影またはスタンバイ中に、逆光補正ボタンを押す。

☒が表示されます。

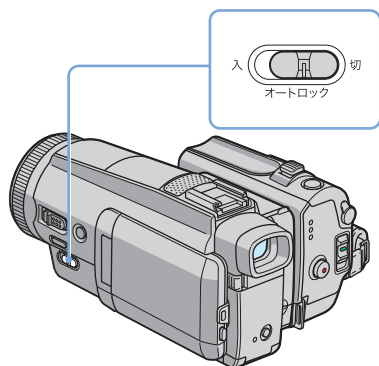
逆光補正を解除するには、もう一度逆光補正ボタンを押します。

ご注意

- ［カメラ明るさ］の［マニュアル］（33ページ）や［スポット測光］（33ページ）を設定すると、逆光補正は解除されます。

被写体を基準に明るさを調節する ―フレキシブルスポット測光

被写体が最適な明るさで映るように画面全体の明るさを調節し、固定できます。舞台上の人物の撮影など、被写体と背景とのコントラストが強いときに使います。

1 撮影またはスタンバイ中に、オートロックスイッチを「切」にする（55ページ）。

2 P.メニューをタッチする。

3 ［スポット測光］をタッチする。

画面にないときは［⌃］/［⌄］をタッチして表示させます。見つからないときは、［メニュー］をタッチして（カメラ設定）メニューから選びます。

4 画面枠内の撮影するポイントをタッチする。

［スポット測光］が点滅し、押したポイントの明るさが調節されます。

5 ［終了］をタッチする。

◆自動調節に戻すには

手順1～3を行い、手順4で［オート］をタッチする。または、オートロックスイッチを「入」にする。

ご注意

- ［プログラムAE］を設定すると［スポット測光］は［オート］に戻ります。

ちょっと一言

- ［スポット測光］を設定すると［カメラ明るさ］が自動的に［マニュアル］になります。

手動で明るさを調節する

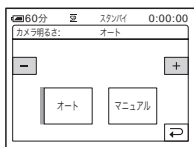
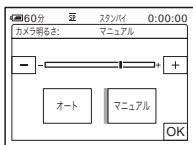
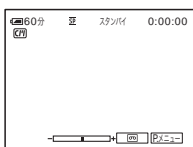
画像の明るさを手動で固定して、一定の明るさで撮影できます。例えば日中に屋内で撮影するときに壁側で明るさを固定すれば、窓際の人物が逆光で暗く映るのを防げます。

1 撮影またはスタンバイ中に、オートロックスイッチを「切」にする（55ページ）。

2 P.メニューをタッチする。

3 ［カメラ明るさ］をタッチする。

画面にないときは［⌃］/［⌄］をタッチして表示させます。見つからないときは、［メニュー］をタッチして（カメラ設定）メニューから選びます。

次のページへつづく➡

4 ［マニュアル］をタッチする。

5 [−]（暗くする）／[+]（明るくする）で明るさを調節して、[OK]をタッチする。

◆自動調節に戻すには

手順1〜3を行い、手順4で［オート］をタッチする。または、オートロックスイッチを「入」にする。

ご注意

- ［プログラムAE］を設定すると［カメラ明るさ］は［オート］に戻ります。

ピントを合わせる

お買い上げ時は自動でピントが合う設定になっています。

中央にない被写体にピントを合わせる―スポットフォーカス

被写体を画面中央からはずれた構図で撮影するときに、被写体を基準にピントを合わせられます。

1 撮影またはスタンバイ中に、フォーカス／ズームスイッチを「手動」にする。

（手動フォーカス表示）が表示されます。

2 [P.メニュー]をタッチする。

3 ［メニュー］をタッチする。

4 [▲]/[▼]と[OK]をタッチして（カメラ設定）メニューから［スポットフォーカス］を選ぶ。

5 画面枠内の被写体をタッチする。

［スポットフォーカス］が点滅し、押した被写体のピントが調節されます。

6 ［終了］をタッチする。

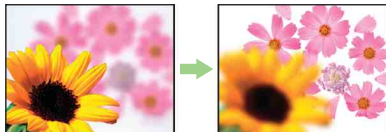
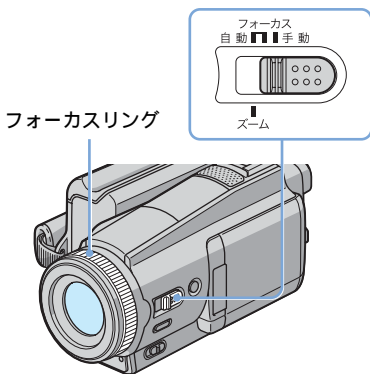
◆自動ピント合わせに戻すには

フォーカス／ズームスイッチを「自動」にする。

ご注意

- ［プログラムAE］中は、スポットフォーカスは働きません。

手動でピントを合わせる

撮影状況に応じて、手動でピント合わせができます。
以下のようなときに使います。
- 水滴の付いた窓の向こうの被写体
- 横じまの多い被写体
- 背景とコントラストの弱い被写体
- 意図的にピントを手前の被写体から奥の被写体に送るとき

- 三脚で撮影する静止した被写体

1 フォーカス／ズームスイッチを「手動」にする。

が表示されます。

2 フォーカスリングを回し、ピントが合うように調節する。

は、ピントをそれ以上遠くに合わせられないとき に変わり、それ以上近くに合わせられないとき に変わります。

ピント合わせのコツ

- 始めにズームをT側（望遠）でピントを合わせてから、W側（広角）に戻していきます。
- 接写時は、逆にズームをW側（広角）いっぱいにしてピントを合わせます。

◆拡大フォーカスでピント合わせするには

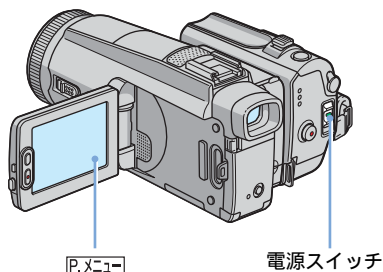
電源スイッチが「撮る-メモリー」のとき、（カメラ設定）メニューで［拡大フォーカス表示］を［入］にします（60ページ）。
フォーカスリングを回したときにが表示され、画像が1.5倍に拡大表示されるので、ピントが合っているかを確認しやすくなります。

◆自動ピント合わせに戻すには

フォーカス／ズームスイッチを「自動」にする。

ちょっと一言

- 次のとき、フォーカス距離情報（ピントが合う距離。暗くてフォーカスが合わせにくいときに目安として使用します）を3秒間表示します。（別売りのコンバージョンレンズを付けているときは正しく表示されません。）
  - ピントを合わせる設定を自動から手動に切り換えたとき
  - フォーカスリングを回したとき

演出効果を加えて撮る

効果的な場面転換をする —フェーダー

場面と場面の間に、次のような効果を入れながらつなぎ撮りするときに使います。

[ホワイトフェーダー]

[ブラックフェーダー]

[モザイクフェーダー]

[モノトーンフェーダー]
フェードインは、白黒からカラーに、フェードアウトはカラーから白黒になります。

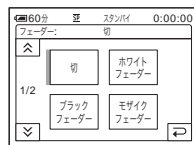
[オーバーラップ]（フェードインのみ）

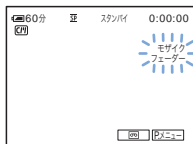
[ワイプ]（フェードインのみ）

[ドットフェーダー]（フェードインのみ）

1 **電源スイッチを「撮る-テープ」にする。**

2 **スタンバイ中（フェードインのとき）または撮影中（フェードアウトのとき）に、P.メニューをタッチする。**

3 **[フェーダー] をタッチする。**
画面にないときは⌃/⌄をタッチして表示させます。見つからないときは、[メニュー] をタッチして（ピクチャーアプリ）メニューから選びます。

4 設定する効果を選び、OKをタッチする。

［オーバーラップ］、［ワイプ］、［ドットフェーダー］をタッチすると、テープ上の画像が静止画として記憶されます（記憶中、画面が青くなります）。

5 録画スタート／ストップボタンを押す。

フェーダー表示が点灯に変わり、フェード終了後に消えます。

◆フェードイン・フェードアウトを解除するには

手順2、3を行い、手順4で［切］を選ぶ。

ご注意

- 次の設定のとき、フェードイン・フェードアウトは働きません。
  - セルフタイマー
  - デジタルエフェクト
  - ［コマ撮り］
  - ［インターバル録画］
  - シャッタースピードを1/30秒以下に設定

◆“メモリースティック　デュオ”の静止画と重ねるには―メモリーオーバーラップ

“メモリースティック　デュオ”に記録してある静止画から、本機でテープに撮影している動画にフェードインします。

静止画　　動画

1 静止画が記録された“メモリースティック　デュオ”と録画用テープが入っていることを確認する。

2 電源スイッチを「撮る-テープ」にする。

3 P.メニューをタッチする。

4 ［メニュー］をタッチする。

5 （ピクチャーアプリ）メニューから▲/▼で［オーバーラップ］を選び、OKをタッチする。

“メモリースティック　デュオ”に記録した画像がサムネイル画面に表示されます。

6 －（前の画像）、＋（次の画像）をタッチして、重ねたい静止画を選ぶ。

7 ［入］をタッチして、OKをタッチする。

8 ☒をタッチする。

9 録画スタート／ストップボタンを押して、撮影を始める。

［M. オーバーラップ］表示が点灯に変わり、フェード終了後に消えます。

ご注意

- シャッタースピードが1/30秒以下の設定のとき、メモリーオーバーラップは働きません。

演出を加えて撮影する ―デジタルエフェクト

印象的な場面にしたいとき、次のような演出を効果的に使います。

［スチル］

あらかじめ取り込んだ静止画に、動画を重ねて撮影する。

［フラッシュ］（フラッシュモーション）

コマ送り撮影をする。

［ルミキー］（ルミナンスキー）

あらかじめ取り込んだ静止画の明るい部分（人物や白い紙に書いたタイトル文字の背景など）に動画をはめ込んで撮影する。

次のページへつづく➡

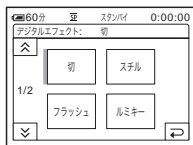
[トレイル]
被写体が動く残像が、尾を引くように撮影する。

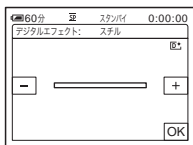
[オールドムービー]
画面を横長、画像をセピア、シャッタースピードを遅くして、昔の映画のように撮影する。

1 電源スイッチを「撮る-テープ」にする。

2 P.メニュー をタッチする。

3 [デジタルエフェクト] をタッチする。

画面にないときは⌃/⌄をタッチして表示させます。見つからないときは、[メニュー] をタッチして、(ピクチャーアプリ) メニューから選びます。

4 設定する効果を選び、－(効果を小さく) ／＋(効果を大きく) で調節し、OK をタッチする。

調節画面例：

[スチル] と [ルミキー] では、押したときの画像が静止画として記憶されます。

効果	調節内容
[スチル]	撮影中の動画の背景にある静止画の映り具合
[フラッシュ]	フラッシュの間隔
[ルミキー]	動画をはめ込む静止画部分の明るさの度合い
[トレイル]	残像が残る時間
[オールドムービー]	調節不要

5 OK をタッチする。

D✦が表示されます。

◆デジタルエフェクトを解除するには

手順2、3を行い、手順4で [切] をタッチする。

ご注意

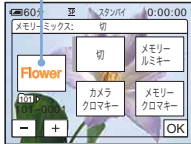
- 次の設定のとき、デジタルエフェクトは働きません。
  - ー フェーダー
  - ー メモリーオーバーラップ
  - ー メモリーミックス
  - ー シャッタースピードを1/30秒以下に設定
- 次の設定のとき、[オールドムービー] は働きません。
  - ー [プログラムAE] の [オート] 以外
  - ー [ワイドTV] モード
  - ー [ピクチャーエフェクト]
  - ー [シャッタースピード] を [マニュアル] に設定

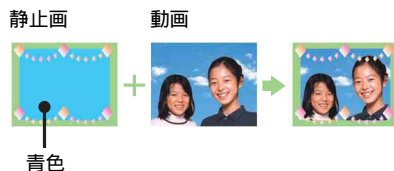
ちょっと一言

- テープ撮影するときは、画像全体にネガフィルムなどの効果を加えられます。詳しくは [ピクチャーエフェクト] (67ページ) をご覧ください。

テープの動画に静止画を重ねて撮影する—メモリーミックス

“メモリースティック　デュオ”に記録してある静止画を、本機でテープに撮影している動画に重ねられます。撮影後のテープの画像には重ねられません。重ねた画像はテープまたは“メモリースティック　デュオ”に記録できます。（“メモリースティック　デュオ”には静止画のみ記録できます。）

［メモリールミキー］
静止画の明るい（白い）部分を抜いて、画像に重ねて撮影する。
旅行やイベントの前に、白い紙に書いたイラストやタイトルなどをあらかじめ“メモリースティック　デュオ”に静止画撮影しておいてください。

［カメラクロマキー］
背景などの静止画に動きのある被写体を重ねる（青色を背景に被写体を撮影し、青色の部分のみを抜く）。

［メモリークロマキー］
イラストや枠などの静止画を使い、静止画の青色の部分のみを抜いて、画像に重ねて撮影する。

1 静止画が記録された“メモリースティック　デュオ”と録画用テープ（テープ撮影のときのみ）が入っていることを確認する。

2 電源スイッチを「撮る-テープ」（テープ撮影のとき）か「撮る-メモリー」（“メモリースティック　デュオ”撮影のとき）にする。

3 [P.メニュー] をタッチする。

4 ［メモリーミックス］をタッチする。

画面にないときは[⌃]/[⌄]をタッチして表示させます。見つからないときは、［メニュー］をタッチして（ピクチャーアプリ）メニューから選びます。
“メモリースティック　デュオ”に記録した画像がサムネイル画面に表示されます。

サムネイル画面

5 [－]（前の画像）／[＋]（次の画像）をタッチして、重ねる静止画を選ぶ。

撮る

次のページへつづく➡

6 使う効果をタッチする。

静止画が、スタンバイ中の動画と重なります。

7 [－]（効果を小さく）／[＋]（効果を大きく）で以下を調節する。

［メモリールミキー］のとき

静止画の、明るい部分の抜き具合。

“メモリースティック　デュオ”の静止画だけをテープに記録するには、［メモリールミキー］の調節画面で[＋]をタッチして、バー表示を右側いっぱいまで増やします。

［カメラクロマキー］のとき

動画の、青色部分の抜き具合。

［メモリークロマキー］のとき

静止画の、青色部分の抜き具合。

8 [OK]を2回タッチする。

[M]が表示されます。

9 撮影を始める。

テープ撮影のとき

録画スタート／ストップボタンを押す。

“メモリースティック　デュオ”撮影のとき

フォトボタンを深く押す。

◆メモリーミックスを解除するには

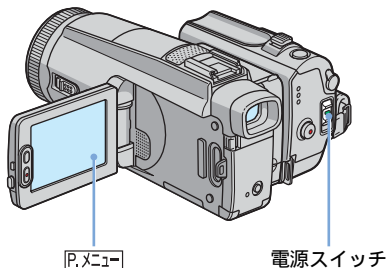
手順3、4を行い、手順5で［切］をタッチする。

ご注意

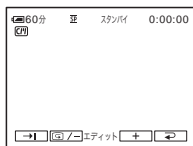
- 重ねる静止画に白い部分が多いと、サムネイル画面でははっきりと見えないことがあります。
- メモリーミックスでは対面撮影（24ページ）しても、画面に映る画像は左右が反転しません。
- パソコンで加工した画像や他機で撮影した画像は、本機で再生できないことがあります。

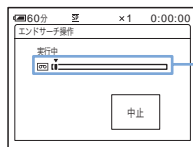
ちょっと一言

- メモリーミックス用のサンプル画像は付属のCD-ROM「SPVD-012 USBドライバ」に入っています。詳しくは別冊のパソコン編説明書をご覧ください。

撮影を開始するテープ位置を頭出しする

最後に録画した場面を頭出しする—エンドサーチ

現在のテープ位置に関係なく、最後に録画終了した場面からつなぎ撮りするときに便利です。カセットメモリー付きのカセットは、取り出してもエンドサーチできます。カセットメモリーの付いていないカセットは、いったん取り出すとエンドサーチは働きません。

1 電源スイッチを「撮る-テープ」にする。

2 をタッチする。

3 をタッチする。

最後に録画した場面の約5秒間が再生され、録画終了した場面でスタンバイになります。

◆「エンドサーチ」を中止するには

［中止］をタッチする。

ご注意

- テープの途中に無記録部分があると、エンドサーチが正しく働かない場合があります。

ちょっと一言

- メニューからも［エンドサーチ操作］で操作できます。電源スイッチが「見る／編集」のときは、P.メニュー（54ページ）にショートカットがあります。

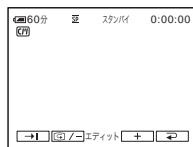
撮影を始める位置を探す—エディットサーチ

画面を確認しながら、次に撮影開始する位置を探せます（音は出ません）。

1 電源スイッチを「撮る-テープ」にする。

2 をタッチする。

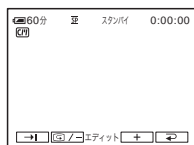
次のページへつづく➡

撮る

3 [⟲/−]（場面を戻す）／[＋]（場面を進める）をタッチし続け、録画を開始したい位置に来たら離す。

テープを停止した場面を確認する —レックレビュー

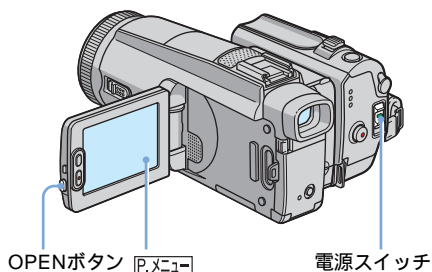
テープを停止させた場面を数秒間再生し、確認できます。

1 電源スイッチを「撮る-テープ」にする。

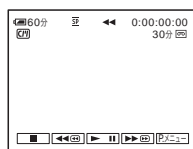
2 [テープ]をタッチする。

3 [⟲/−]を1回タッチする。

テープを停止した部分が数秒間再生され、スタンバイに戻ります。

テープの動画を見る

あらかじめカセットを入れておいてください。
一部の操作はリモコンでも行えます。
テレビで見るときは51ページをご覧ください。

1 OPENボタンを押しながら、液晶パネルを開ける。

2 電源スイッチを「見る／編集」にする。

3 （巻戻し）をタッチして、見たい位置まで巻き戻す。

4 （再生）をタッチして、再生する。

◆音量を調節するには

1 P.メニュー をタッチする。
2 ［音量］をタッチする。
画面にないときは / をタッチして表示させます。見つからないときは［メニュー］をタッチして、（基本設定）メニューから選びます。
3 （小さく）／ （大きく）で音量を調節して、OK をタッチする。

◆再生を停止するには

（停止）をタッチする。

◆一時停止するには

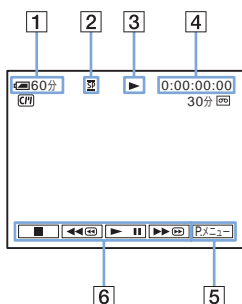
再生中に （一時停止）をタッチする。
もう一度タッチすると、ふつうの再生に戻ります。
一時停止状態が５分以上続くと、自動的に停止になります。

◆早送り・巻き戻しするには

停止中に （早送り）／ （巻戻し）をタッチする。

◆ファインダーで見るには

液晶パネルを閉じる。

◆テープ再生中の表示

1 **バッテリー残量**

2 **録画モード（SPまたはLP）**

3 **テープ走行表示**

4 **タイムコード（時：分：秒：フレーム）またはテープカウンター（時：分：秒）**

5 **パーソナルメニューボタン（54ページ）**

6 **ビデオ操作ボタン**

"メモリースティック　デュオ"が入っている場合、再生を停止すると[■]**（停止）**が[再生]（"メモリースティック　デュオ"再生切り換え）に変わります。

ご注意

- テープ再生中に録画スタート／ストップボタン（132ページ）を押すと、"メモリースティック デュオ"にテープの動画が記録されます（MPEG ムービー EX）。

テープでできるいろいろな再生

◆画像を見ながら早送り・巻き戻しするには ー ピクチャーサーチ

再生中に[▶▶]（早送り）／[◀◀]（巻戻し）をタッチし続ける。

離すと、ふつうの再生に戻ります。

◆早送り・巻き戻し中に画像を見るには ー 高速アクセス

早送り中に[▶▶]（早送り）、巻き戻し中に[◀◀]（巻戻し）をタッチし続ける。

離すと、早送り・巻き戻しに戻ります。

◆その他の変速再生をするには

音声は出ません。また、前の映像がモザイク状に残ることがあります。

1 再生または再生一時停止中に[P.メニュー]をタッチする。

2 ［変速再生］をタッチする。

画面にないときは[⌃]/[⌄]をタッチして表示させます。見つからないときは、［メニュー］をタッチして（編集／変速再生）メニューから選びます。

3 お好みの再生にする。

ふつうの再生に戻すときは、[▶ II]（再生・一時停止）を2回タッチします（コマ送りは1回のみ）。

こんなときは	操作するボタン
逆方向に再生する*	再生中に[◀II<]（コマ送り）
スロー再生する**	再生中に[スロー▶] 逆方向へは以下の順： ❶[◀II<]（コマ送り） ❷[スロー▶]
2倍速で見る（倍速再生）	再生中に[×2]（倍速再生） 逆方向へは以下の順： ❶[◀II<]（コマ送り） ❷[×2]（倍速再生）
コマ送りで見る	一時停止中に[>II▶]（コマ送り） 逆方向へはコマ送り中に[◀II<]（コマ送り）

* 画面上下や中央に横じまが入ることがありますが、故障ではありません。

** i.LINK DV端子から出力される画像は、なめらかにスロー再生されません。

4 [↩]をタッチし、[×]をタッチする。

演出を加えて見る ―デジタルエフェクト

［スチル］、［フラッシュ］、［ルミキー］、［トレイル］の各演出を加えて見ることができます。演出効果についての説明は、37ページをご覧ください。

1 **電源スイッチを「見る／編集」にする。**

2 **演出を加える画像を再生しているときに、P.メニューをタッチする。**

3 **［メニュー］をタッチする。**

4 **▲/▼とOKをタッチして（ピクチャーアプリ）メニューから［デジタルエフェクト］を選ぶ。**

5 **設定する効果を選び、－（効果を小さく）／＋（効果を大きく）で調節する。**

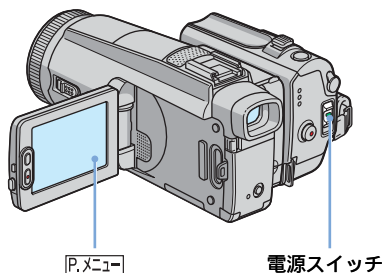
6 **OKを2回タッチして、×をタッチする。**

D✦が表示されます。

◆デジタルエフェクトを解除するには

手順2〜4を行い、手順5で［切］をタッチする。

ご注意

- 外部入力している画像には効果を加えられません。また、デジタルエフェクトを加えた画像はi DV端子からは出力されません。

ちょっと一言

- 効果を加えて見ている画像を本機でテープに記録することはできませんが、“ メモリースティック デュオ ” に取り込んだり（87ページ）、他のビデオへ録画（85ページ）したりできます。

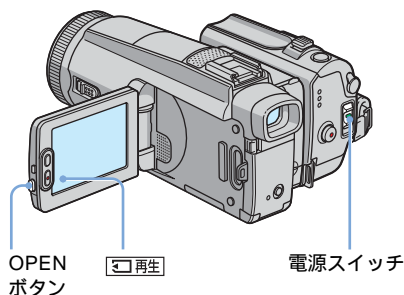
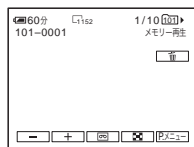
見る

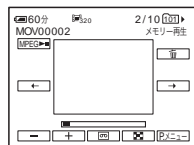
“ メモリースティック　デュオ ” の画像を見る

記録した静止画や動画を確認できます。また、たくさん撮影したときに一覧表示して見たい画像を簡単に検索できます。
あらかじめ “ メモリースティック　デュオ ” を入れておいてください。
なお、テレビで見るときは51ページをご覧ください。

1　OPENボタンを押しながら、液晶パネルを開ける。

2　電源スイッチを「見る／編集」にする。

3　再生 をタッチする。

最後に撮影した画像が表示されます。

4　－（前の画像）／＋（次の画像）をタッチして、画像を選ぶ。

画面例（動画のとき）：

動画のときは、再生する画像が表示されたら MPEG►II をタッチする。

◆動画の音量を調節するには

1 P.メニュー をタッチする。

2 ［音量］をタッチする。

画面にないときは ▲/▼ をタッチして表示させます。見つからないときは、［メニュー］をタッチして、（基本設定）メニューから選びます。

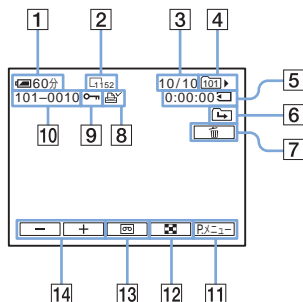
3 －（小さく）／＋（大きく）をタッチして音量を調節し、OK をタッチする。

◆動画を停止・一時停止するには

MPEG►II をタッチする。
もう一度タッチすると、再生されます。

◆不要な画像を消すには

「記録した画像を消す」（98ページ）をご覧ください。

◆"メモリースティック デュオ"再生中の表示

1 **バッテリー残量**

2 **画像サイズ**

3 **再生中の画像番号／フォルダ内の合計枚数**

4 **再生フォルダ**

5 **再生時間（動画のみ）**

6 **前後フォルダアイコン**

"メモリースティック デュオ"内に複数のフォルダがあるとき、フォルダ内の最初／最後の画像になると表示されます。

：[－]で前フォルダへ

：[＋]で次フォルダへ

：[－]/[＋]で前／次フォルダへ

7 **画像消去ボタン**

8 **プリントマーク（静止画のみ）（100ページ）**

9 **プロテクト（99ページ）**

10 **データファイル名**

11 **パーソナルメニューボタン（54ページ）**

12 **インデックス表示ボタン**

13 **テープ再生切り換えボタン**

14 **画像送りボタン**

ご注意

- パソコンで作成したフォルダや、名前を変更したフォルダ、加工した画像は本機で認識されないことがあります。
- MPEGムービーの再生中は、パーソナルメニューのみ使うことができます。
  パーソナルメニューにないメニュー設定項目を使う場合は、あらかじめパーソナルメニューに追加しておいてください（81ページ）。

ちょっと一言

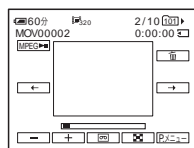
- いったん画像を記録すると、そのとき選ばれている記録先フォルダが、再生フォルダに設定されます。メニューで再生フォルダを選ぶこともできます（66ページ）。

"メモリースティック デュオ"でできるいろいろな再生

「"メモリースティック デュオ"の画像を見る」（46ページ）の手順4の画面から次のことができます。

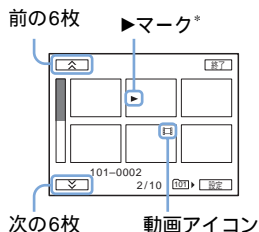
◆動画を分割して場面を探すには

録画した動画を最大60分割して、見たい場面から再生できます。録画時間により分割数は変わります。

1 [←]（前の場面）／[→]（次の場面）をタッチして、頭出しする場面を選ぶ。

2 [MPEG▶II]をタッチする。

見る

◆動画も含めた画像を6枚ずつ一覧表示するには − インデックス表示

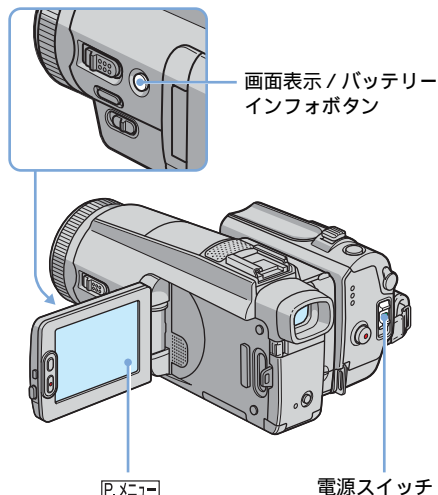
[⊞]をタッチする。

* インデックス表示をする前に映っていた画像

1枚の表示（シングル表示）に戻すには、表示する画像をタッチします。

◆インデックス表示で別フォルダにある画像を見るには

1 [⊞]をタッチする。
2 [設定]をタッチする。
3 ［再生フォルダ選択］をタッチする。
4 [▲]/[▼]で見たいフォルダを選び[OK]をタッチする。

再生の便利な機能

画面で確認しづらい小さな被写体を拡大表示できます。また、撮影した日付や保存先のフォルダ名を表示できます。

画像を拡大する― テープ再生ズーム・メモリー再生ズーム

テープの動画または“メモリースティック デュオ”の静止画を拡大できます。

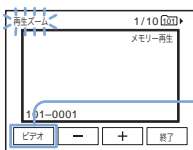
1 電源スイッチを「見る／編集」にする。

2 [P.メニュー]をタッチする。

3 ［メニュー］をタッチする。

4 ▲/▼とOKをタッチして（ピクチャーアプリ）メニューから［再生ズーム］を選ぶ。

テープのとき

" メモリースティック　デュオ " のとき

5 画像を再生し、枠内の拡大する部分をタッチする。

タッチした部分が約2倍に拡大し、画面中央に表示されます。別の場所をタッチすると、その部分が画面中央に表示されます。

6 ズームレバーで倍率を変える。

約1.1～5倍の範囲で、Wで小さく、Tで大きくなります。
フォーカス／ズームスイッチを「ズーム」にすると、ズームリングも使えます。

◆再生ズームを解除するには

［終了］をタッチする。

ご注意

- 外部入力している画像は拡大できません。また、再生ズームを加えた画像は DV端子からは出力されません。

ちょっと一言

- 再生ズーム中に画面表示／バッテリーインフォボタンを押すと表示枠が消えます。

画面表示を出す・消す

タイムコードなどの情報を画像と合わせて表示できます。

画面表示／バッテリーインフォボタンを押す。

押すたびに、（非表示）←→（表示）と変わります。

ちょっと一言

- テレビにつないで見るときは、（基本設定）メニューで［画面表示］を［ビデオ出力／パネル］に設定すると、テレビ画面でも同様に画面表示できます（79ページ）。

日付時刻・カメラデータを表示する—データコード機能

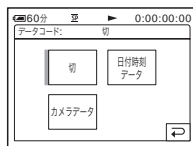
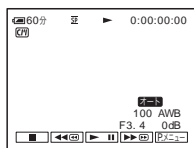
テープ撮影時や " メモリースティック　デュオ " 静止画撮影時に自動的に記録されている、日付時刻データやカメラデータ（設定情報）を再生中に見ることができます。

1 電源スイッチを「見る／編集」にする。

2 再生または再生一時停止中に、P.メニューをタッチする。

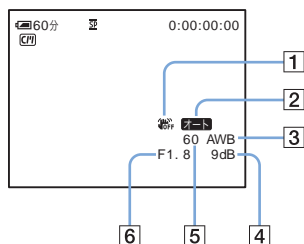
3 ［データコード］をタッチする。

画面にないときは / をタッチして表示させます。見つからないときは、［メニュー］をタッチして（基本設定）メニューから選びます。

次のページへつづく➡

4 ［カメラデータ］または［日付時刻データ］を選び、OK をタッチする。

◆日時時刻・カメラデータ表示をやめるには

手順2、3を行い、手順4で［切］をタッチする。

◆カメラデータの表示

日付時刻データ表示のときは、同じエリアに日時が表示されます。日付・時刻を設定せずに撮影すると［---- -- --］と［--:--:--］が表示されます。

1 **手ぶれ補正［切］＊**

2 **明るさ調節***

3 **ホワイトバランス***

4 **ゲイン***

5 **シャッタースピード**

6 **絞り値**

* テープ再生時のみ

ご注意

- "メモリースティック デュオ"の動画再生時にはカメラデータは表示されません。

ちょっと一言

- "メモリースティック デュオ"再生時は、露出補正値（0EV）が表示されます。
- フラッシュを使って撮影した画像は が表示されます。

テレビにつないで見る

AV接続ケーブル（付属）で図のように本機をテレビにつなぎます。
電源は付属のACアダプターを使ってコンセントからとってください（13ページ）。また、つなぐ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
ダビングするときは85ページをご覧ください。

*1付属のAV接続ケーブルには映像プラグとS映像プラグがあります。
*2 画像をより忠実に再現できます。接続先の機器にS（S1）映像端子が付いているときは、AV接続ケーブルの黄色いプラグ（映像）の代わりにS映像プラグを接続先の機器のS（S1）映像端子につないでください。DV方式の高解像度を生かすためにはこの接続を行ってください。
S映像プラグのみつないだ場合、音声は出力されません。

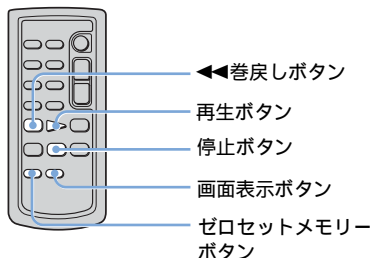
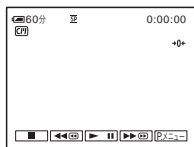
◆ビデオがテレビにつながっているときは

ビデオの外部入力端子につなぎ、ビデオの入力を「外部入力（ライン）」に切り換える。

◆モノラルテレビ（音声端子がひとつ）のときは

AV接続ケーブル（付属）の黄色いプラグを映像入力へ、白いプラグ（左音声）か赤いプラグ（右音声）のどちらかを音声入力へつなぐ。
モノラル音声で聞くときは、市販の接続ケーブルを使ってください。

テープの画像を頭出しする

見たい場面にすばやく戻す—ゼロセットメモリー

1 再生中、後で頭出しする場面でリモコンのゼロセットメモリーボタンを押す。
テープカウンター値が「0:00:00」になり、→0←が点灯します。

テープカウンター値が表示されないときは、画面表示ボタンを押すと、表示されます。

2 見終わったら、停止ボタンを押す。

3 ◀◀巻戻しボタンを押す。
テープカウンター値が「0:00:00」付近になると、自動的に停止します。

4 再生ボタンを押す。
テープカウンター値が「0:00:00」の場面からもう一度再生します。

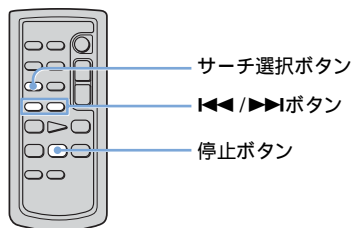
◆ゼロセットメモリーを解除するには

もう一度リモコンのゼロセットメモリーボタンを押す。

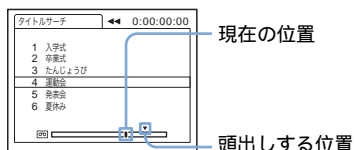
ご注意

- タイムコードとテープカウンターに多少誤差が出ることがあります。
- テープの途中に無記録部分があると、正しく働かない場合があります。

カセットメモリー付きカセットをタイトルで頭出しする—タイトルサーチ

録画した場面にタイトルを付けておくと（72ページ）、タイトルを付けた場面を頭出しできます。

1 電源スイッチを「見る／編集」にする。

2 リモコンのサーチ選択ボタンを繰り返し押して、[タイトルサーチ]を選ぶ。

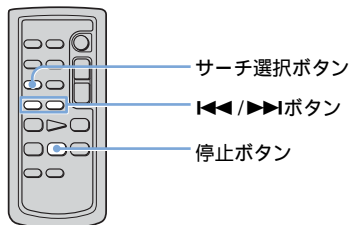
3 リモコンのI◀◀（前のタイトル）／▶▶I（次のタイトル）ボタンを押して、頭出しするタイトルを選ぶ。
選んだタイトルの場面で自動的に再生します。

◆サーチを中止するには

リモコンの停止ボタンを押す。

ご注意

- （編集／変速再生）メニューの［サーチ］が［切］のとき、タイトルサーチできません（お買い上げ時は［入］の設定）（71ページ）。
- テープの途中に無記録部分があると、正しく働かないことがあります。

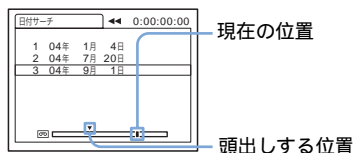
撮影日でテープを頭出しする — 日付サーチ

カセットメモリー付きカセットは撮影日を選んで頭出しできます（お買い上げ時は［サーチ］は［入］の設定）。カセットメモリー付きでないカセットは撮影日の変わり目を頭出しできます。

1 電源スイッチを「見る／編集」にする。

2 リモコンのサーチ選択ボタンを繰り返し押して、「日付サーチ」を選ぶ。

3 リモコンの|◀◀（前の日付）／▶▶|（後の日付）ボタンを押して、頭出しする。

カセットメモリー付きカセットでは日付そのものを選び、カセットメモリー付きでないカセットでは現在のテープ位置に対して前後の日付を選びます。
選んだ場面が自動的に再生されます。

画面例
（カセットメモリー付きカセットのとき）：

◆サーチを中止するには

リモコンの停止ボタンを押す。

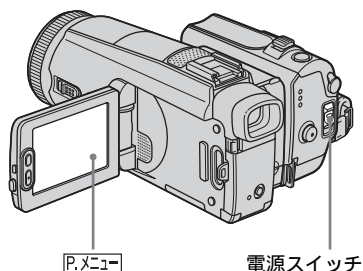
ご注意

- 日付の変更点の間隔は２分以上必要です。間隔が短いと正しく検出されない場合があります。
- テープの途中に無記録部分があると、正しく頭出しできないことがあります。
- カセットメモリーには、６日分の日付データが入ります。7日以上録画しているテープは、（編集／変速再生）メニューで［サーチ］を［切］にして、カセットメモリーを使わずに頭出ししてください（71ページ）。

見る

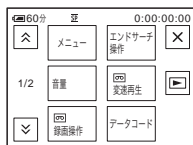
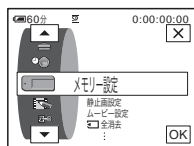
メニューで設定する

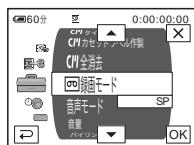
メニュー項目の使いかた

画面に表示されるメニューで、お好みの設定やより細かい設定ができます。

1 電源を入れる（16ページ）。

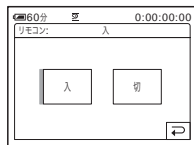
2 P.メニューをタッチする。

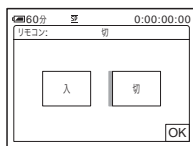
パーソナルメニュー画面が表示されます。よく使う項目はパーソナルメニューとしてショートカットになっています。

例：「見る／編集」のときのパーソナルメニュー

3 ［メニュー］をタッチして、メニューインデックス画面を出す。

4 ▲/▼で設定するメニューのマークを選び、OKをタッチする。

- カメラ設定（56ページ）
- メモリー設定（63ページ）
- ピクチャーアプリ（67ページ）
- 編集／変速再生（71ページ）
- 基本設定（75ページ）
- 時間設定（80ページ）

5 ▲/▼で設定する項目を選び、OKをタッチする。

OKの代わりに設定する項目名をタッチしても同様に選べます。

メニューの全項目を見ることができます。設定できる項目は、電源スイッチの位置ごとに異なります。設定できない項目は暗くなります。

6 希望の設定にする。

[↩]が[OK]に変わります。設定を変更しないときは、[↩]で戻ります。

7 [OK]をタッチし、[X]（閉じる）をタッチして、メニュー画面を消す。

[↩]（戻る）をタッチすると、タッチするごとに、1つ前の階層に戻ります。

◆パーソナルメニューのショートカットを使うには

設定できる項目は、電源スイッチの位置ごとに異なります。選択できない項目は暗くなります。

このショートカットはカスタマイズできます（81ページ）。

1 [P.メニュー]をタッチする。

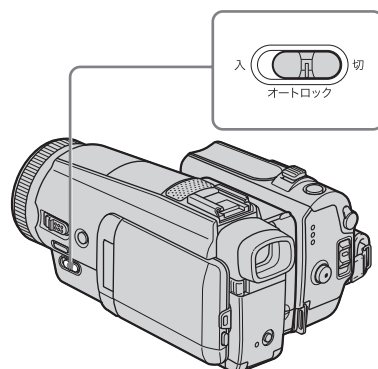
2 希望の項目をタッチする。

3 希望の設定にし、[OK]をタッチする。

ちょっと一言

- 電源スイッチが「見る／編集」のとき、54ページの手順2を行って表示される画面の[▶]をタッチするとビデオ操作画面に切り換えられます。戻るときは、[↩]をタッチします。
- よく使う機能はパーソナルメニューに登録しておくと便利です。パーソナルメニューのカスタマイズのしかたは81ページをご覧ください。

オートロックスイッチの使いかた

オートロックスイッチを切り換えると、撮影に必要な調整を自動でおこなったり、お好みに合わせて手動で調節することができます。

オートロックスイッチを切り換える。

「入」にしたとき
撮影に必要な調節を自動で行ないます。

「切」にしたとき
フレキシブルスポット測光／明るさ調節／プログラムAE／ホワイトバランス／シャッタースピードを設定します。

ご注意

- 「切」で手動調節した設定は、「入」に戻しても設定を保持します。電源をはずして5分以上たつとお買い上げ時の設定に戻ります。

ちょっと一言

- 別売りのフラッシュを使うときは、オートロックスイッチを「入」にすることをおすすめします。

（カメラ設定）メニューを使う—プログラムAE・ホワイトバランス・シャッタースピード・ゼブラ・ワイドTVなど

(カメラ設定)メニューでは、「メニュー項目の使いかた」（54ページ）の操作で以下を設定できます。

▷の設定がお買い上げ時の設定です。設定すると（ ）内のアイコンが表示されます。調整できる項目は、電源スイッチの位置ごとに異なります。本機の画面には、そのとき使える項目のみが表示されます。使えない項目は暗くなります。

項目	設定
プログラムAE	撮影テクニックが必要な撮影状況でも、場面に合わせて以下の設定を行えば簡単に撮影できます。 あらかじめ、オートロックスイッチを「切」にしておいてください（55ページ）。「入」になっていると、［プログラムAE］を選ぶことができません。 **▷オート** プログラムAEを使わないときに選びます。 **スポットライト（ ）*** 結婚式や舞台など、強い光が当たっている被写体を撮影するときに選びます。人物の顔などが白く飛んでしまうのを防ぎます。 **ソフトポートレート（ ）** 人物、花などを撮影するときに選びます。背景をぼかして被写体を引き立てると同時に、ソフトな印象の映像になるようにします。 **スポーツレッスン（ ）*** ゴルフ、テニスなどの速い動きを撮影するときに選びます。被写体のぶれを少なくします。 **ビーチ＆スキー（ ）*** 真夏の砂浜や冬山（スキー場）などの照り返しが強い場所で撮影するときに選びます。人物の顔などが暗くなるのを防ぎます。 **サンセット＆ムーン（ ）**** 夕焼け、夜景、花火、ネオンサインを撮影するときに選びます。雰囲気を損なわずに撮影できます。

項目	設定
プログラムAE（つづき）	**フウケイ（▲）**** 山などの遠くの景色を撮影するときに景色をはっきりさせます。風景を窓ガラスや金網越しに撮影する場合、手前のガラスや金網にピントが合うのを防ぎます。 *近くのものにピントが合わないように調節されます。 **遠景のみにピントが合うように調節されます。 **ご注意** • 電源スイッチを「撮る-メモリー」にしたとき、スポーツレッスンは働きません。
スポット測光	詳しくは33ページをご覧ください。
カメラ明るさ	詳しくは33ページをご覧ください。
ホワイトバランス	撮影する場面の光に合わせて色合いを調節できます。 あらかじめ、オートロックスイッチを「切」にしておいてください（55ページ）。 「入」になっていると、［ホワイトバランス］を選ぶことができません。 **▷オート** ホワイトバランスを自動調節するときに選びます。 **オクガイ**（☀）以下のときに選びます。 ー夜景やネオン、花火など ー日の出、日没など ー昼光色蛍光灯の下 **オクナイ**（💡）以下のときに選びます。 ーパーティ会場やスタジオなど照明条件が変化する場所 ースタジオなどビデオライトの下、ナトリウムランプや水銀灯、電球色蛍光灯の下で撮影するとき

次のページへつづく➡

<table>
<tr><th>項目</th><th>設定</th></tr>
<tr><td>ホワイトバランス（つづき）</td><td>
<table>
<tr><td>ワンプッシュ（）</td><td>光源に合わせてホワイトバランスを一定の設定にするときに選びます。
1 ［ワンプッシュ］を選ぶ。
2 被写体を照らす照明条件と同じところに白い紙などを置き、画面いっぱいに映す。
3 ［］をタッチする。
が速い点滅に変わります。ホワイトバランスが調節されて、点滅が点灯に変わります。

ご注意
• が速い点滅をしている間は、本機に強い衝撃を与えないでください。
• が遅い点滅をしたときは、ホワイトバランスが未設定または設定できなかった場合を表しています。
• OKをタッチした後もが点滅しているときは、［ホワイトバランス］を［オート］にしてください。</td></tr>
</table>
ご注意
• 電源をはずして5分以上経つと、［オート］に自動的に戻ります。

ちょっと一言
• ［オート］でバッテリーを交換した、または画像の明るさを固定させたまま屋外と屋内を行き来したときは、電源スイッチを「撮る-テープ」にして、約10秒間白っぽい被写体に向けてから撮影すると、より良い色合いに自動調節されます。
• ［ワンプッシュ］で［プログラムAE］の効果を変えた、または屋外と屋内を行き来したときは、再度［ワンプッシュ］の手順を行ってください。
• 白色、昼白色蛍光灯の下では、［オート］または［ワンプッシュ］にしてください。</td></tr>
<tr><td>シャープネス</td><td>－/＋で画像輪郭をやわらかくするか、くっきりさせるかを調節して撮影できます。お買い上げ時の設定以外にするとが表示されます。

やわらかな画像に － ＋ くっきりした画像に</td></tr>
<tr><td>シャッタースピード</td><td>シャッタースピードを自由に調節し、固定することができます。被写体の動きを止めたり、逆に流動感を強調して撮影するときに便利です。
あらかじめ、オートロックスイッチを「切」にしておいてください（55ページ）。「入」になっていると、［シャッタースピード］を選ぶことができません。
<table>
<tr><td>▷オート</td><td>自動で調節するときに選びます。</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>項目</th><th>設定</th></tr>
<tr><td>シャッタースピード（つづき）</td><td>
マニュアル　［－］/［＋］でシャッタースピードを調節する。
電源スイッチを「撮る-テープ」にしたときは1/10000秒から1/4秒、「撮る-メモリー」にしたときは1/500秒から1/60秒の範囲で選べます。お買い上げ時の設定以外にするとⓈが表示されます。

遅い ［－］………125, 180, 250………［＋］ 速い

ご注意
• シャッタースピードを1/xxx秒に設定すると、画面にはxxxと表示されます。
• ［プログラムAE］を［オート］以外にすると、［シャッタースピード］は［オート］に戻ります。
• 次のとき、シャッタースピードは変更できません。
ー フレキシブルスポット測光
ー カメラ明るさ調節

ちょっと一言
• 輝度の高い被写体を撮影するときはシャッタースピードを遅くすることをおすすめします。シャッタースピードが速いと縦線が入ることがあります。
• シャッタースピードが遅いと、自動でピントが合いにくくなります。三脚などに固定して、手動でピントを合わせることをおすすめします。
• 蛍光灯､ナトリウム灯､水銀灯などの放電管による照明下で撮影すると画面が明るくなったり、暗くなったり(フリッカー現象)、色が変化したりすることがあります。このようなときは、シャッタースピードを関東地方など50Hzの地域では1/100、関西地方など60Hzの地域では1/60に設定することをおすすめします。
</td></tr>
<tr><td>オートシャッター</td><td>
▷入　明るい場所で、電子シャッター（電気的にシャッタースピードを調節する機能）を使って撮影するときに選びます。
切　電子シャッターを使わずに撮影するときに選びます。
</td></tr>
<tr><td>AEシフト</td><td>
［－］/［＋］でお好みの露出に調節できます。お買い上げ時の設定以外にすると［AS］が表示されます。

ちょっと一言
• 白い被写体や逆光のときは［＋］、黒い被写体や暗い場所のときは［－］をタッチすることをおすすめします。
• ［カメラ明るさ］が［オート］のときにお使いください。明るさが明るめ／暗めに設定できます。
</td></tr>
<tr><td>カメラ色のこさ</td><td>
［－］/［＋］で画像の色の濃淡を調節できます。お買い上げ時の設定以外にすると表示されます。

薄くなる ［－］　［＋］ 濃くなる
</td></tr>
<tr><td>スポットフォーカス</td><td>詳しくは34ページをご覧ください。</td></tr>
</table>

次のページへつづく➡

項目	設定
拡大フォーカス表示	“ メモリースティック　デュオ ” へ手動ピント合わせで撮影するとき、画面中央を1.5倍に拡大して、ピントが合っているかを確認できます（35ページ）。 **▷切**　画面中央を1.5倍に拡大しないときに選びます。 **入**　画面中央を1.5倍に拡大するときに選びます。
フラッシュ設定	外付けの対応していないフラッシュでは設定できません。
	フラッシュレベル 撮影するときに最適なフラッシュの設定を選べます。 **明るい（⚡+）**　撮影時、フラッシュの発光量を多くするときに選びます。 **▷ノーマル（⚡）**　通常の設定です。 **暗い（⚡−）**　撮影時、フラッシュの発光量を少なくするときに選びます。 **ご注意** • 電源を外して5分以上経つと、［ノーマル］に自動的に戻ります。
	赤目軽減 **▷切**　撮影時、赤目補正しないときに選びます。 **入（◉）**　撮影前に予備発光し、目が赤く映るのを抑制するときに選びます。詳しくは30ページをご覧ください。
ゼブラ	明るさを調節するときの目安にすると便利です。お買い上げ時の設定以外にすると▨が表示されます。 ゼブラは記録されません。 **▷切**　ゼブラを表示しません。 **70**　画面上の輝度レベルが約70IREの部分にゼブラが現れます。 **100**　画面上の輝度レベルが約100IRE以上の部分にゼブラが現れます。 **ご注意** • 約100IRE以上の部分は白とびすることがあります。 **ちょっと一言** • ゼブラとは、画面に映る画像の中で、設定した輝度レベル部分に表示される縞模様のことです。
セルフタイマー	詳しくは24ページまたは31ページをご覧ください。

<table>
<tr><th>項目</th><th>設定</th></tr>
<tr><td>デジタルズーム</td><td>テープに撮影するとき、12倍光学ズームを超えた場合のデジタルズームの最大倍率を設定します。デジタル処理のため画質は劣化します。野鳥など遠方の被写体を拡大するときに便利です。

W T
ラインよりT側がデジタルズームになります。倍率を選ぶと表示されます。

▷切　12倍光学ズームのみで撮影するときに選びます。
24×　最大24倍までのデジタルズームで撮影するときに選びます。
150×　最大150倍までのデジタルズームで撮影するときに選びます。</td></tr>
<tr><td>ワイドTV</td><td>ワイドテレビで見るときに、テープの画像が画面いっぱいに映るように撮影できます。ズームレバーをW側にした際にもっと広角でテープ撮影したいときにも便利です。
ID-1/ID-2対応テレビやテレビのS（S1）映像入力端子につないで再生すると、テレビが自動的にワイドモードに切り換わります。
つなぐテレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。

液晶画面・ファインダーで見たとき
16:9
ワイドテレビで再生したとき*
通常のテレビで再生したとき**

* ワイドテレビがフルモードに切り換わると、画面いっぱいに正しい比率で映ります。
**4：3モードで再生すると、画像が縦長に映ります。
ワイドモードで再生すると、液晶画面・ファインダーで見たときと同じように映ります。</td></tr>
</table>

次のページへつづく➡

項目	設定	
ワイドTV（つづき）	**▷切**	通常の画面設定です（縦横比4：3のテレビで再生するときなど）。横長の画面になりません。
	入（16:9）	ワイドテレビで再生するために撮影するときに選びます。ID-1/ID-2対応やS（S1）の映像入力端子でつないだテレビのときは自動的に横長の画面になります。
	ちょっと一言 • ID-1方式は、ビデオ信号のすきまに信号を加算することにより、画面の縦横比（16:9、4:3またはレターボックス）の情報を通信するシステムです。 • ID-2方式は、ID-1方式に加え、著作権保護のための信号をアナログ接続において行うためのシステムです。 • S1映像信号は、通常のS映像信号にワイドモード自動選択用の信号が加算されています。	
手ぶれ補正	**▷入**	手ぶれ補正を使って撮影するときに選びます。
	切（OFF）	手ぶれ補正が働きません。コンバージョンレンズ（別売り）や三脚を利用しての撮影時に選ぶと、より自然な画像になります。

（メモリー設定）メニューを使う—連写・画質・画像サイズ・全消去・フォルダ作成など

（メモリー設定）メニューでは、「メニュー項目の使いかた」（54ページ）の操作で以下を設定できます。

▷の設定がお買い上げ時の設定です。設定すると（ ）内のアイコンが表示されます。調整できる項目は、電源スイッチの位置ごとに異なります。本機の画面には、その時使える項目のみが表示されます。使えない項目は暗くなります。

<table>
<tr><th>項目</th><th>設定</th></tr>
<tr><td>静止画設定</td><td>
■連写
静止画を連続して撮影できます。連写の枚数は、画像サイズと“メモリースティック デュオ”の撮影可能枚数によって変わります。
1 ［ノーマル］、［ブラケット］のいずれかを選び、OKをタッチする。
▷切：連写しないときに選びます。
ノーマル（ ）：約0.5秒間隔で4枚（画像サイズは1152×864）から最大13枚（画像サイズは640×480）までの静止画を連写するときに選びます。
ブラケット（BRK）：約0.5秒間隔に、露出を自動で変えた3枚の画像を連写するときに選びます。３枚を比べて、被写体や場面の明るさが最適な画像を選べます。
2 ☒をタッチする。
3 フォトボタンを深く押す。
［ノーマル］のとき、フォトボタンを深く押したままにすると、最大枚数まで連写します。

ご注意
• 連写中はフラッシュが発光しません。
• セルフタイマーやリモコンでの撮影時は、フォトボタンを押すと自動的に最大枚数まで連写します。
• “メモリースティック　デュオ”の撮影可能枚数が3枚より少ないと［ブラケット］はできません。
• ［ブラケット］で撮影した画像の違いが液晶画面ではわかりにくいときは、テレビやパソコン画面につないで確認してください。
</td></tr>
</table>

メニューで設定する

次のページへつづく➡

項目	設定
静止画設定（つづき）	**■画質** **▷ファイン（FINE）** 高画質（約1/4の圧縮）で記録するときに選びます。 **スタンダード（STD）** 標準の画質（約1/10の圧縮）で記録するときに選びます。
	■画像サイズ **▷1152×864（1152）** 大きな画面で見る画像を撮影するときに選びます。電源スイッチが「撮る-メモリー」のときのみ選べます。 **640×480（640）** たくさんの枚数を撮影するときや、小さい画面でしか見ない画像を撮影するときに選びます。
ムービー設定	**画像サイズ** **▷320×240（320）** 大きな画面で見る画像を撮影するときや、より鮮明な画像で撮影するときに選びます。 **160×112（160）** より長い時間撮影するときに選びます。
	残量表示 **▷オート**　次のときにメモリー残量を表示します。 ー電源スイッチが「撮る-メモリー」で、“ メモリースティック デュオ ” を入れたとき（約5秒間） ー電源スイッチが「撮る-メモリー」で、メモリー残量が2分未満になったとき ー撮影の開始時と終了時（約5秒間） **入**　メモリー残量を常に表示します。

項目	設定
全消去	プロテクトがかかっていない、“メモリースティック デュオ”内または選択フォルダ内のすべての画像を消します。画像を１つずつ消すときは、98ページをご覧ください。 **1** ［全ファイル］か［フォルダ内］を選ぶ。 **全ファイル**：“メモリースティック デュオ”に記録されているすべての画像を消去するときに選びます。 **フォルダ内**：選択している再生フォルダ内の画像をすべて消去するときに選びます。 **2** ［はい］を2回タッチする。 全消去を中止するには、［いいえ］をタッチする。 **3** ×をタッチする。 **ご注意** • 全消去しても、フォルダは消去されません。 • ［全消去中です］が表示されているとき、次の操作はしないでください。 ー 電源スイッチを切り換える ー ボタン操作をする ー“メモリースティック デュオ”を取り出す
フォーマット	“メモリースティック デュオ”（付属および別売りお買い上げ時）はフォーマット済みのため、あらためてフォーマットする必要はありません。 “メモリースティック デュオ”について、詳しくは121ページをご覧ください。 **1** ［はい］を2回タッチする。 フォーマットを中止するには、［いいえ］をタッチする。 **2** ×をタッチする。 **ご注意** • ［フォーマット中です］が表示されているとき、次の操作はしないでください。 ー 電源スイッチを切り換える ー ボタン操作をする ー“メモリースティック デュオ”を取り出す • 新しく作成したフォルダやプロテクトがかかっている画像もすべて消去されます。
ファイルナンバー	**▷連番**：“メモリースティック デュオ”を取り換えても、ファイル番号を連続して付けるときに選びます。 フォルダを新しく作成、または記録先フォルダを変更した場合はリセットされます。 **リセット**：“メモリースティック デュオ”ごとに、ファイル番号を0001から付けるときに選びます。

次のページへつづく➡

項目	設定
フォルダ作成	“ メモリースティック　デュオ ” 内に、新しいフォルダ（102MSDCF〜999MSDCFまで）を作成できます。1つのフォルダが9999枚でいっぱいになると、次は自動的に新しいフォルダを作成します。 **1**［はい］をタッチする。 新しいフォルダが作成されます。フォルダ番号は今までの最大番号+1になります。 フォルダ作成を中止するには、［いいえ］をタッチする。 **2** [✕] をタッチする。 **ご注意** • いったん作成したフォルダは、本機で削除できません。“ メモリースティック　デュオ ” をフォーマットするか（65ページ）、パソコンなどで削除してください。 • フォルダが増えると、“ メモリースティック　デュオ ” の撮影可能枚数は減ることがあります。
記録フォルダ選択	お買い上げ時は、画像を「101MSDCF」フォルダに記録しますが、記録するフォルダを新しく作成するときは、上記の「フォルダ作成」を行ってから、[▲]/[▼]で記録するフォルダを選んで、[OK]をタッチしてください。 画像が多くなったときなどフォルダで分類しておくと、見たい画像を探しやすくなります。
再生フォルダ選択	[▲]/[▼]で再生するフォルダを選んで[OK]をタッチする。

（ピクチャーアプリ）メニューを使う

―ピクチャーエフェクト・スライドショー・コマ撮り・インターバル録画・インターバル静止画記録など

（ピクチャーアプリ）メニューでは、「メニュー項目の使いかた」（54ページ）の操作で以下を設定できます。

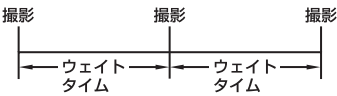
▷の設定がお買い上げ時の設定です。設定すると（ ）内のアイコンが表示されます。調整できる項目は、電源スイッチの位置ごとに異なります。本機の画面には､その時使える項目のみが表示されます。使えない項目は暗くなります。

項目	設定
フェーダー	詳しくは36ページをご覧ください。
オーバーラップ	詳しくは37ページをご覧ください。
デジタルエフェクト	詳しくは37、44ページをご覧ください。
ピクチャーエフェクト	映画のような特殊効果を加えた画像にしてテープに撮影したり、通常のテープ画像に特殊効果を加えて見たりできます。効果が選ばれているとき、が表示されます。 **▷切**　ピクチャーエフェクトを使わないときに選びます。 **ネガアート**　写真のネガフィルムのように撮影・再生するときに選びます。 **セピア**　古い写真のような色あいで撮影・再生するときに選びます。 **モノトーン**　白黒で撮影・再生するときに選びます。 **ソラリ**　明暗をはっきりさせたイラストのように撮影・再生するときに選びます。 **モザイク**　タイルを組み合わせたように撮影するときに選びます（再生時は使えません）。

ご注意

- 外部入力している画像には効果を加えられません。また、ピクチャーエフェクトを加えた画像は DV端子からは出力されません。

ちょっと一言

- ピクチャーエフェクトを加えた画像を“メモリースティック　デュオ”に取り込んだり（87ページ）、他のビデオへ録画したり（85ページ）できます。

次のページへつづく➡

項目	設定
メモリーミックス	詳しくは39ページをご覧ください。
再生ズーム	詳しくは48ページをご覧ください。
スライドショー	“ メモリースティック　デュオ ” 内の画像すべて（または１つのフォルダ内の画像をすべて）を順番に自動再生（スライドショー）できます。 **1** 設定 をタッチする。 **2** ［再生フォルダ選択］をタッチする。 **3** ［全ファイル］か［フォルダ内］を選び、OK をタッチする。 **▷全ファイル（all）** “ メモリースティック　デュオ ” 内の画像をすべて再生するときに選びます。 **フォルダ内（1）** ［再生フォルダ選択］（66ページ）で選んだフォルダ内の画像を再生するときに選びます。 **4** ［繰り返し設定］をタッチする。 **5** ［入］または［切］を選び、OK をタッチする。 **▷入（⟲）** 繰り返しスライドショーするときに選びます。 **切** スライドショーを一度だけで終了するときに選びます。 **6** ［終了］をタッチする。 **7** ［スタート］をタッチする。 “ メモリースティック　デュオ ” の画像が順番に再生されます。 スライドショーを中止するには［終了］を、一時停止するには［ポーズ］をタッチします。 **ちょっと一言** • ［スタート］をタッチする前に、− / ＋ でスライドショーを始める画像を選べます。 • スライドショーをする画面に動画が含まれているときは ◁)− （小さく）／ ◁)+ （大きく）で音量を調節できます。

項目	設定
コマ撮り	本機を固定した状態で人形やおもちゃなどを少しずつ動かしながらテープにコマ撮りをすると、アニメーションのような効果を出せます。リモコンを使うと手ぶれを防げます。 **▷切**　通常の撮影時に選びます。 **入（⏵）**　コマ撮りするときに選びます。 **1**［入］を選び、OKをタッチする。 **2** ☒をタッチする。 **3** 録画スタート／ストップボタンを押す。 1コマ（約6フレーム）分を撮影し、スタンバイに戻ります。 **4** 被写体を動かし、手順3を繰り返す。 **ご注意** • 連続してコマ撮りをすると、テープ残量は正しく表示されません。 • 最終カットは通常の1コマよりも長くなります。
インターバル録画	花の開花などを観測するときに便利です。一定時間おきにテープへ動画を記録します。長時間の撮影はバッテリー切れの心配があるので、電源は付属のACアダプターを使ってください。 録画タイム　録画タイム ウェイトタイム　ウェイトタイム **1** 設定をタッチする。 **2**［ウェイトタイム］をタッチする。 **3** 希望のウェイトタイム（30秒、1分、5分、10分）を選び、OKをタッチする。 **4**［録画タイム］をタッチする。 **5** 希望の録画タイム（0.5秒、1秒、1.5秒、2秒）を選び、OKをタッチする。 **6**［終了］をタッチする。 **7**［入］をタッチして、OKをタッチする。 **▷切**　通常の撮影時に選びます。 **入（⏲）**　一定時間おきにテープへ動画を撮影するときに選びます。 **8** ☒をタッチする。 ⏲が点滅します。 **9** 録画スタート／ストップボタンを押す。 ⏲が点滅から点灯に変わり、インターバル録画が始まります。 解除するには手順7で［切］にします。

次のページへつづく➡

<table>
<tr><th>項目</th><th>設定</th></tr>
<tr><td>インターバル録画（つづき）</td><td>ご注意
• メモリーオーバーラップをお使いのときはインターバル録画できません。
• 録画タイムは最大±6フレーム程度の誤差が出ることがあります。

ちょっと一言
• 手動でピントをあわせておくと、光が変化してもぼやけずに録画できます（35ページ）。
• 撮影時の［おしらせブザー］はメニューで［切］にできます（78ページ）。</td></tr>
<tr><td>インターバル静止画記録</td><td>雲の動きや日照変化などを観測するときに便利です。一定時間おきに“メモリースティック　デュオ”へ静止画を記録します。

撮影　撮影　撮影
ウェイトタイム　ウェイトタイム

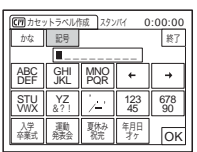
1 設定 をタッチする。
2 希望のウェイトタイム（1分、5分、10分）を選び、OK をタッチする。
3［入］をタッチして、OK をタッチする。

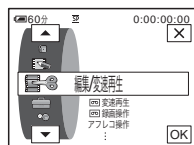
▷切　通常の撮影時に選びます。
入　一定時間おきに“メモリースティック　デュオ”へ静止画を撮影するときに選びます。

4 ✕ をタッチする。
が点滅します。
5 フォトボタンを深く押す。
が点滅から点灯に変わり、インターバル静止画記録が始まります。
解除するには手順3で［切］にします。</td></tr>
<tr><td>デモモード</td><td>カセットと“メモリースティック　デュオ”両方を取り出し、電源スイッチを「撮る-テープ」にすると約10分後にデモンストレーションを見ることができます。

▷入　初めて本機を使うときなど、どのような機能が付いているかを確認するときに選びます。
切　デモンストレーションを表示しないときに選びます。

ちょっと一言
• 次のいずれかを行うと、デモンストレーションを中断できます。
ー デモンストレーション中に画面をタッチする（約10分後に再開します）。
ー カセットか“メモリースティック　デュオ”を入れる。
ー 電源スイッチを「撮る-テープ」以外にする。
• バッテリー使用時は［自動電源オフ］が［5分後］の設定になっていると約5分で電源が切れます（79ページ）。</td></tr>
<tr><td>プリント</td><td>詳しくは101ページをご覧ください。</td></tr>
</table>

（編集／変速再生）メニューを使う —タイトル・カセットラベル作成など

（編集／変速再生）メニューでは、「メニュー項目の使いかた」（54ページ）の操作で以下を設定できます。

▷の設定がお買い上げ時の設定です。調整できる項目は、電源スイッチの位置ごとに異なります。本機の画面には、その時使える項目のみが表示されます。使えない項目は暗くなります。

項目	設定	
変速再生	詳しくは44ページをご覧ください。	
録画操作	テープへ録画するときに選びます。 詳しくは86、88ページをご覧ください。	
アフレコ操作	詳しくは96ページをご覧ください。	
プログラムエディット	**他機のテープへ**	プログラムを作成し、他機のテープへダビングするときに選びます（89ページ）。
	メモリースティックへ	プログラムを作成し、“ メモリースティック　デュオ ” へダビングするときに選びます（93ページ）。
録画操作	“ メモリースティック　デュオ ” へ記録するときに選びます。 詳しくは86、87ページをご覧ください。	
DVD作成	ソニーパーソナルコンピューター VAIOシリーズに接続して、本機のテープに録画した画像を簡単にDVDに書き込むことができます（おまかせ「Click to DVD」機能）。 詳しくは別冊の「パソコン編 」説明書をご覧ください。	
ビデオCD作成	パソコンに接続して、本機のテープに録画した画像を簡単にCD-Rに書き込むことができます（おまかせビデオCD機能）。詳しくは別冊の「パソコン編」説明書をご覧ください。	
エンドサーチ操作	**実行**	エンドサーチを実行するときに選びます。最後に撮影した場面の約5秒間が再生され、自動的に止まります。
	中止	エンドサーチを中止するときに選びます。
サーチ	**▷入**	サーチ時にカセットメモリーを使う（52、53ページ）ときに選びます。
	切	サーチ時にカセットメモリーを使わないときに選びます。

メニューで設定する

次のページへつづく➡

<table>
<tr><th>項目</th><th>設定</th></tr>
<tr><td>CM タイトル</td><td>
本機でカセットメモリー付きカセットに入れたタイトルは、インデックスタイトラー機能付きの Mini DV 方式対応ビデオでのみ見ることができます。画像にタイトルを付けておくと、再生時にタイトルサーチで画像を探すことができます。カセットメモリー付きカセットに５文字程度で約20タイトルまで付けられます。ただし、カセットメモリーに他のデータ（日付データが６つ／カセットラベルが１つ）が入っているときは、５文字程度で11タイトルになります。

1 表示される、以前作成したオリジナルタイトル（2種類）と本機にあらかじめ登録されているタイトルの中から、つけたいタイトルを選ぶ。
オリジナルタイトルは以下の手順で作成します（各20文字以内で2種類まで）。
❶ [▲]/[▼]で［オリジナル1 ” ”］か［オリジナル2 ” ”］を選び、[T✎]をタッチする。
❷［かな］（ひらがな入力）か［記号］（アルファベット・数字など）を選び、文字列を繰り返しタッチして、文字を入れる。
文字を消すとき：[←]をタッチする。
空白を入れるとき：[→]をタッチする。
小さいひらがなを入れるとき：文字列を繰り返しタッチする。

❸ [→]をタッチして□を右に移して、同様に次の文字を入れる。
❹ 文字を入れ終わったら、[OK]をタッチする。

2 [OK]をタッチする。
3 [■■■]（色）、[▲]/[▼]（位置）、［サイズ］を繰り返しタッチして、好きな色、位置、サイズを選ぶ。
色：白→黄色→紫→赤→水色→緑→青
位置：８～９段階から選べます。
サイズ：小さい↔大きい（13文字以上のときは「小さい」のみ）
4 [OK]をタッチする。
5［打込み］をタッチする。

再生中、再生一時停止中、撮影中のとき
［打込み中］が表示され（約5秒間）、タイトルが記憶されます。

撮影スタンバイのとき
［タイトル打込み予約］が表示されます。
録画スタート／ストップボタンを押して、撮影を始めると同時に［タイトル打込み中］が表示され（約5秒間）、タイトルが記憶されます。
</td></tr>
</table>

項目	設定
タイトル（つづき）	**ご注意** • 他機で頭出ししたとき、タイトルを付けた場面が誤って頭出しされることがあります。 • お買い上げ時の設定では、バッテリー使用時に電源を入れて、何も操作しない状態が続くと自動的に電源が切れます。タイトル作成に５分以上かかるときは、（基本設定）メニューで［自動電源オフ］を［なし］にすると、電源は切れません（79ページ）。万一、途中で電源が切れても、作成中のタイトルは残っているので、電源を入れ直して、手順1からやり直してください。 • 漢字変換機能はありません。また、カタカナは使えません。 **ちょっと一言** • 作成したタイトルを変更するには、手順1で作成したタイトルを選び、OK をタッチして、文字を選び直します。
タイトル消去	**1** ▲/▼ で消去するタイトルを選び、OK をタッチする。 **2** 消去するタイトルを確認し、［はい］をタッチする。 消去を中止するには、［いいえ］をタッチします。 **3** × をタッチする。
タイトル表示	画像を見るときにタイトルを表示します。 **▷入**　タイトルを入れてある場面で、タイトルを出すときに選びます。 **切**　タイトルを出さないときに選びます。
カセットラベル作成	カセットメモリー付きカセットに10文字までの名前を付けられます。 電源スイッチを「撮る-テープ」にしてカセットを入れたとき、または「見る／編集」にしたとき、カセットラベルが約5秒間表示されます。タイトルが入っているときは、タイトルも同時に4つまで表示されます。 **1** ［かな］（ひらがな入力）か［記号］（アルファベット・数字など）を選び、文字列を繰り返しタッチして、文字を入れる。 **文字を消すとき**：← をタッチする。 **空白を入れるとき**：→ をタッチする。 **小さいひらがなを入れるとき**：文字列を繰り返しタッチする。 **2** → をタッチして□を右に移して、同様に次の文字を入れる。 **3** 文字を入れ終わったら、OK をタッチする。 **4** × をタッチする。 **ご注意** • 漢字変換機能はありません。また、カタカナは使えません。 **ちょっと一言** • カセットラベルを消すには、← を繰り返しタッチして文字を消し、OK をタッチします。 • 作成したカセットラベルを変更するには、カセットを入れ、もう一度手順1から行います。

次のページへつづく➡

項目	設定
CM 全消去	カセットメモリーに保存されている日付・タイトル・カセットラベルのデータを、1回ですべて消せます。 **1**［はい］を2回タッチする。 全消去を中止するには、［いいえ］をタッチします。 **2** [×]をタッチする。

（基本設定）メニューを使う—録画モード・バイリンガル・音声ミックス・マイク音レベル・USB－撮るなど

（基本設定）メニューでは、「メニュー項目の使いかた」（54ページ）の操作で以下を設定できます。

▷の設定がお買い上げ時の設定です。設定すると（ ）内のアイコンが表示されます。調整できる項目は、電源スイッチの位置ごとに異なります。本機の画面には､その時使える項目のみが表示されます。使えない項目は暗くなります。

項目	設定
録画モード	▷SP（SP）　テープへSP（標準）モードで録画するときに選びます。 LP（LP）　テープへSPモードの1.5倍の録画時間で長時間録画するときに選びます。ソニー製のMaster（マスター）DVテープを使うと、本機の性能を最大限に生かせます。 **ご注意** • LPモードで撮影したテープにはアフレコできません。 • LPモードで本機で録画したテープを他機で再生すると、モザイク状のノイズが現れたり、音声が途切れたりすることがあります。 • テープの途中でSP/LPモードを切り換えると、画像が乱れたり、タイムコードが正しくつながらないことがあります。
音声モード	▷12BIT　テープへ12ビット（2つのステレオ音声）で記録するときに選びます。 16BIT（♪16b）　テープへ16ビット（高音質で1つのステレオ音声）で記録するときに選びます。
音量	詳しくは43、46ページをご覧ください。
バイリンガル	他機で二重音声（またはステレオ音声）で記録したテープを本機で再生するときの音声が選べます。 ▷切　主＋副音声（またはステレオ音声）で再生するときに選びます。 メイン　主音声（または左音声）で再生するときに選びます。 サブ　副音声（または右音声）で再生するときに選びます。 **ご注意** • 本機では二重音声を再生できますが、記録できません。 • 電源をはずして５分以上経つと、［切］に自動的に戻ります。

次のページへつづく➡

項目	設定
音声ミックス	アフレコしたテープの再生時に、撮影時音声とアフレコ音声の聞こえる割合を調節したり（98ページ）、4CHマイク記録したテープの前後の音声を確認する（27ページ）ことができます。 **ご注意** • 音声モードが16ビットで記録されたテープでは、バランス調節できません。 • 電源をはずして５分以上経つと、撮影時の音声（ST1）、4CHマイク記録ではFRONT側のみ聞こえる設定に自動的に戻ります。
マイク音レベル	記録するときの音量を調節できます。ヘッドホンをつけてレベルを確認しながら操作することをおすすめします。 **▷オート**　自動で調節するときに選びます。 **マニュアル**　撮影スタンバイで、[－]/[＋]をタッチして音量を調節する。マイク音レベルを表したバーが表示されます。右にいくほどマイク音レベルが上がります。お買い上げ時の設定以外にすると入力レベルメーターが表示されます。 **ご注意** • 電源をはずして５分以上経つと、自動的に［オート］に戻ります。 **ちょっと一言** • 本機はリミッター回路を内蔵しているため、［マニュアル］を選択し、マイク音レベルを上げすぎた場合でも自動的に歪みを軽減した録音ができます。入力レベルメーターが頻繁に0dBまで到達しないように調整してください。
4CH 音声確認	詳しくは27ページをご覧ください。
パネル・VF設定	**パネル明るさ** 詳しくは16ページをご覧ください。
	パネルバックライトレベル 液晶パネルの明るさを調節できます。録画される画像に影響ありません。 **▷ノーマル**　通常の設定（標準の明るさ）です。 **明るい**　画面が暗いと感じたときに選びます。 **ご注意** • コンセントにつないで使うと、設定は自動的に［明るい］になります。 • ［明るい］を選ぶと、バッテリー撮影可能時間が約1割短くなります。
	パネル色のこさ [－]/[＋]で液晶画面の濃さを調節できます。録画される画像に影響ありません。 **薄くなる** [－] ▮▮▮▮▮▮▮▮▮▮▮▮▮▮▮▮ [＋] **濃くなる**

項目	設定
パネル・VF設定（つづき）	**VFバックライト** ファインダーの明るさを調節できます。録画される画像に影響ありません。 **▷ノーマル**　通常の設定（標準の明るさ）です。 **明るい**　ファインダーが暗いと感じたときに選びます。 **ご注意** • コンセントにつないで使うと、設定は自動的に［明るい］になります。 • ［明るい］を選ぶと、バッテリー撮影可能時間が約1割短くなります。
A/V入力→DV出力	デジタル機器とアナログ機器の間に本機をつなぎ、本機でデジタルとアナログの信号を変換できます。 **▷切**　デジタル変換機能を使わないときに選びます。 **入（A/V▶DV）**　ビデオなどのアナログ信号を、本機を通してパソコンなどデジタル機器にダビングするときに選びます（デジタル変換機能）。詳しくは、別冊の「パソコン編」説明書をご覧ください。
ビデオ入力	付属のAVケーブルを使って他機と接続するときに、接続する映像端子を設定します。 **▷ビデオ**　AV接続ケーブルの映像プラグを使って相手機から映像を入力するときに選びます。 **Sビデオ**　AV接続ケーブルのS映像プラグを使って相手機から映像を入力するときに選びます。
USBー撮る	USBケーブル（付属）で本機とパソコンをつなぐと、カメラに映っている画像をパソコンで見ることができます（USBストリーミング機能）。詳しくは、別冊の「パソコン編」説明書をご覧ください。 **▷切**　USBストリーミング機能を使用しません。 **USBストリーム**　USBストリーミング機能を使用します。
USBー見る／編集	USBケーブル（付属）で本機とパソコンをつなぐと、テープまたは“ メモリースティック　デュオ ”の画像をパソコンで見ることができます。詳しくは、別冊の「パソコン編 」説明書をご覧ください。 **▷標準ー USBモード**　“ メモリースティック　デュオ ”の画像を見るときに選びます。 **PictBridge**　PictBridge対応のプリンターで画像をプリントするときに選びます。（101ページ） **USBストリーム**　テープの画像を見るときに選びます。

次のページへつづく➡

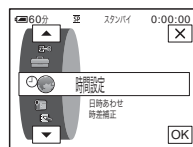
項目	設定	
ガイドフレーム	**▷切**	フレームを表示しないときに選びます。
	入	フレームを表示して、被写体が水平・垂直になっているかを確認するときに選びます。フレームは記録されません。画面表示／バッテリーインフォボタンを押すと、フレームを消せます。
カラーバー	本機では、カラーバーを表示したり、テープに記録することができます。接続したモニターの色を調整するときに便利です。	
	▷切	カラーバーを表示しないときに選びます。
	入	カラーバーを表示するときに選びます。
データコード	**▷切**	データコードを表示しないときに選びます。
	日付時刻データ	日付・時刻を表示する（49ページ）ときに選びます。
	カメラデータ	カメラデータを表示する（49ページ）ときに選びます。
残量表示	**▷オート**	次のときにテープ残量を約8秒間表示するときに選びます。 ーカセットが入った状態で電源スイッチを「見る／編集」か「撮る-テープ」にして、テープ残量が確定したとき ー ▶II（再生・一時停止）をタッチしたとき
	入	テープ残量を常に表示するときに選びます。
リモコン	**▷入**	付属のワイヤレスリモコンを使うときに選びます。
	切	リモコンを使わないときに選びます。他機のリモコンによる誤動作を防ぎます。
	ご注意 • 電源をはずしてから５分以上経つと、自動的に［入］に戻ります。	
録画ランプ	**▷入**	本体前面の録画ランプが撮影中に点灯します。
	切	以下のときに選びます。本体前面の録画ランプが撮影中に点灯しません。 ー被写体に撮影していることを意識させたくないとき ー被写体に接近して撮影するとき ー録画ランプの赤色が被写体に反射してしまうとき
おしらせブザー	**▷メロディ**	撮影スタート／ストップ時、タッチパネルでの操作時や誤った操作をした場合にメロディーで知らせるときに選びます。
	ノーマル	メロディーの代わりにブザーで知らせるときに選びます。
	切	メロディー、ブザー、シャッター音やタッチなどによる操作音を出さないときに選びます。

項目	設定
画面表示	**▷パネル** タイムコードなどの画面表示を液晶画面とファインダーに出すときに選びます。 **ビデオ出力／パネル** タイムコードなどの画面表示をテレビ画面、液晶画面、ファインダーに出すときに選びます。 **ご注意** • ［ビデオ出力／パネル］のとき、画面表示／バッテリーインフォボタンを押すと、外部入力ができなくなります。
メニュー操作方向	メニュー設定画面上で▲または▼ボタンをタッチしたときのメニュー項目の回転方向（上または下）を選びます。 **▷ノーマル** ▲をタッチするとメニュー項目が下に回転します。 **逆方向** ▲をタッチするとメニュー項目が上に回転します。
自動電源オフ	**▷5分後** 自動電源オフ機能を使うときに選びます。電源を入れて何も操作しない状態が約5分以上続くと、バッテリーの消耗を防ぐために、自動的に電源が切れます。 **なし** 自動電源オフ機能を使わないときに選びます。 **ご注意** • コンセントにつないで使うと自動的に［なし］になります。

(時間設定)メニューを使う

―日時あわせ・時差補正

(時間設定)メニューでは、「メニュー項目の使いかた」(54ページ)の操作で以下を設定できます。

調整できる項目は、電源スイッチの位置ごとに異なります。本機の画面には、その時使える項目のみが表示されます。使えない項目は暗くなります。

項目	設定
日時あわせ	日付・時刻を合わせます(18ページ)。
時差補正	本機を海外で使うときは、[－]/[＋]で時差を設定し、現地時刻に合わせることができます。時計を元に戻すには、時差を0に設定してください。

パーソナルメニューをカスタマイズする

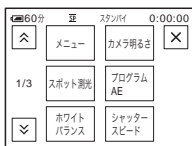
よく行う設定項目をパーソナルメニューに追加できます。また、追加した項目を並べ替えるなど、ご自分の使いやすいメニューにできます（カスタマイズ）。電源スイッチの位置ごとにカスタマイズできます。

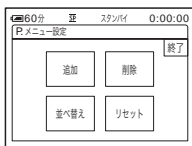
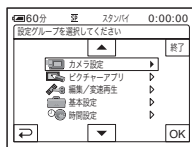
選べる項目を追加する— 追加

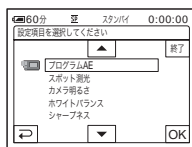
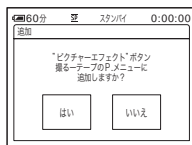
よく設定するメニュー設定項目をパーソナルメニューへ追加しておくと、次回からパーソナルメニューをタッチするだけで設定できます。

ご注意

• 「撮る-テープ」、「撮る-メモリー」、「見る／編集」の電源スイッチ位置ごとに、最大28項目まで登録できます。登録数がいっぱいのときは、不要な項目を削除してから追加してください（82ページ）。

1 [P.メニュー]をタッチする。

2 ［P.メニュー設定］をタッチする。

画面にないときは[⌃]/[⌄]をタッチして表示させます。

3 ［追加］をタッチする。

4 [▲]/[▼]で設定項目を選び、[OK]をタッチする。

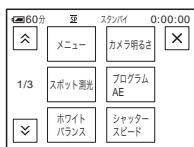
表示される設定は、電源スイッチの位置ごとに異なります。選択できないときは表示されません。

5 [▲]/[▼]で項目を選び、[OK]をタッチする。

6 ［はい］をタッチする。

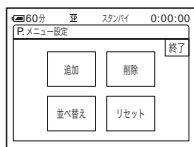
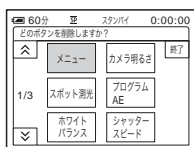
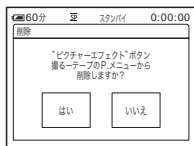
項目がパーソナルメニューの最後に追加されます。

7 [✕]をタッチする。

メニューで設定する

不要な項目を削除する—削除

1 [P.メニュー]をタッチする。

2 [P.メニュー設定]をタッチする。

画面にないときは[⌃]/[⌄]をタッチして表示させます。

3 [削除]をタッチする。

4 削除する項目をタッチする。

5 [はい]をタッチする。

項目がパーソナルメニューから消えます。

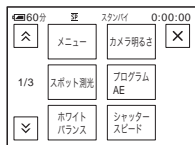
6 [✕]をタッチする。

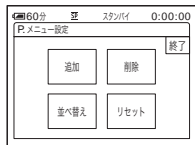
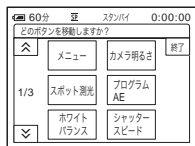
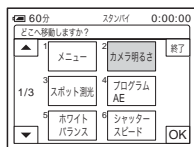
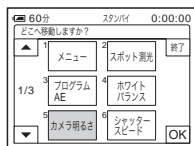
ご注意

- [メニュー]と[P.メニュー設定]は削除できません。

パーソナルメニューの表示位置を替える—並べ替え

たくさんの項目をパーソナルメニューに追加しているとき、よく使う項目順に並び替えると便利です。

1 [P.メニュー]をタッチする。

2 [P.メニュー設定]をタッチする。

画面にないときは[⌃]/[⌄]をタッチして表示させます。

3 [並べ替え]をタッチする。

4 移動する項目をタッチする。

5 ▲/▼をタッチして、項目を移動する。

6 OKをタッチする。

つづけて並べ替えるときは手順4～6を行います。

7 ［終了］をタッチする。

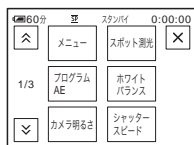
8 ☒をタッチする。

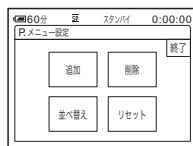
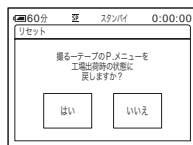
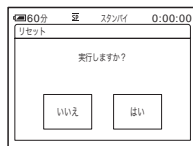
ご注意

- ［P.メニュー設定］は並べ替えられません。

お買い上げ時の設定に戻す—リセット

パーソナルメニューの項目を追加・削除したあとでも、お買い上げ時のパーソナルメニューに戻せます。

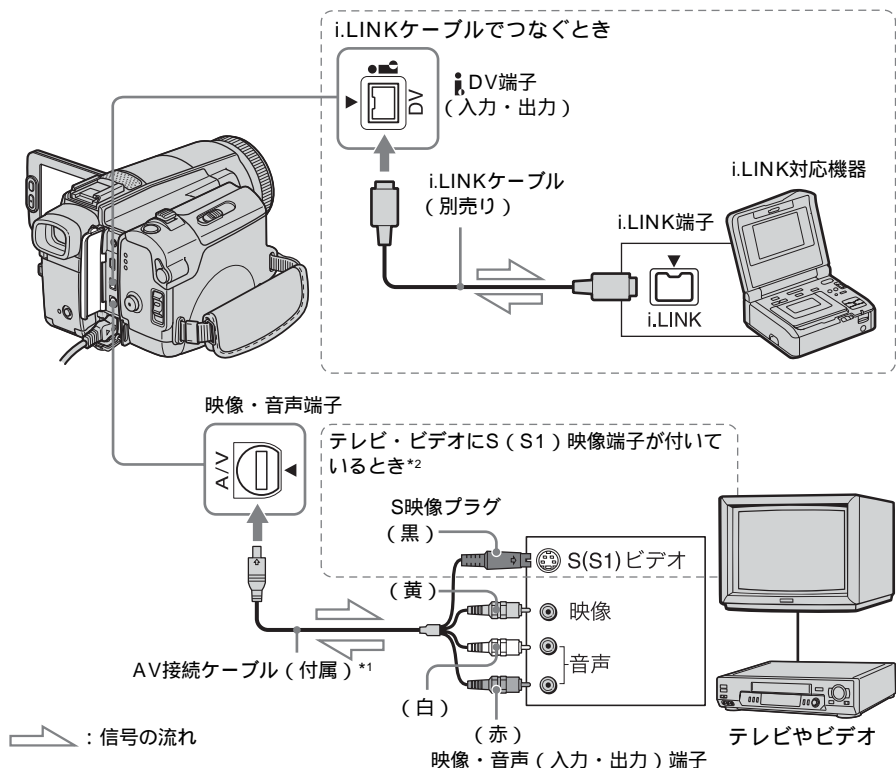
1 P.メニューをタッチする。

2 ［P.メニュー設定］をタッチする。

画面にないときは⌃/⌄をタッチして表示させます。

3 ［リセット］をタッチする。

4 ［はい］をタッチする。

5 ［はい］をタッチする。

お買い上げ時の設定に戻ります。
リセットを中止するときは、［いいえ］をタッチしてください。

6 ☒をタッチする。

ビデオ機器やテレビにつなぐ

ビデオやテレビの画像を本機のテープや“メモリースティック　デュオ”へダビングしたり（86ページ）、本機の画像を他の録画機へダビングしたりできます（85ページ）。
AV接続ケーブル（付属）で図のように本機を再生機や録画機につなぎます。
電源は、付属のACアダプターをコンセントにつないでください（13ページ）。

*1付属のAV接続ケーブルには映像プラグとS映像プラグがあります。

*2画像をより忠実に再現できます。接続先の機器にS（S1）映像端子が付いているときは、AV接続ケーブルの黄色いプラグ（映像）の代わりにS 映像プラグを接続先の機器のS（S1）映像端子につないでください。DV方式の高解像度を生かすためにはこの接続を行ってください。
S映像プラグのみつないだ場合、音声は出力されません。

ご注意

- AV接続ケーブル（付属）を使ってつなぐときは、あらかじめ（基本設定）メニューで［画面表示］を［パネル］（お買い上げ時の設定）にしておいてください（79ページ）。
- 他機の画像を本機へダビングする場合は他機の出力端子へ、本機の画像を他機へダビングする場合は他機の入力端子へ、それぞれAV接続ケーブルをつなぎます。
- 他機がモノラル（ひとつの音声入力・出力）の場合は、AV接続ケーブルの黄色いプラグを映像入力・出力へ、白いプラグ（左音声）または赤いプラグ（右音声）のどちらかを音声入力・出力へつなぎます。

◆i.LINKケーブルでつなぐには

DV端子を i.LINKケーブル（別売り）でつなぎます。デジタル信号でやりとりするので、画質・音質の劣化がほとんどありません。映像または音声のみの記録はできません。詳しくは、125ページをご覧ください。

他のビデオへダビングする

本機の画像を他のビデオへ録画方式を問わず録画、編集できます。

1 本機とビデオをつなぐ（84ページ）。

2 ビデオの準備をする。

- 録画用カセットを入れる。
- 入力切り換えスイッチがある場合は「入力」にする。

3 本機の準備をする。

- 撮影済みのカセットを入れる。
- 電源スイッチを「見る／編集」にする。

4 本機で再生を始め、ビデオで録画する。

詳しくは、ビデオの取扱説明書をご覧ください。

5 ダビングが終わったら、ビデオの録画を停止し、本機の再生を停止する。

ご注意

- DV端子接続ではタイトル、画面表示、カセットメモリーの内容、“ メモリースティック　デュオ ” のインデックス画面の文字は録画できません。
- AV接続ケーブルを使って日付などのデータコードをダビングしたいときは、データコードを表示させてください（49ページ）。
- 「ピクチャーエフェクト」（67ページ）、「デジタルエフェクト」（37ページ）、「再生ズーム」（48ページ）を加えた画像は DV端子からは出力されません。
- i.LINKケーブル接続時は、再生一時停止中の画像を録画すると、画像が粗くなることがあります。

ビデオ・テレビの画像を本機へ録画する

再生方式を問わずビデオの画像やテレビ番組を本機のテープや“ メモリースティック　デュオ ” に録画できます。“ メモリースティック　デュオ ” にはお気に入りの画面を静止画としても記録できます。
あらかじめ本機に録画用カセットまたは“ メモリースティック　デュオ ” を入れておいてください。
AV接続ケーブルで接続する場合は、お使いになる機器にあわせて、あらかじめ使用する映像端子を（基本設定）メニューの［ビデオ入力］で設定する必要があります（77ページ）。

動画を録画する

1 テレビやビデオを再生機としてつなぐ（84ページ）。

2 ビデオの場合は、ダビングするカセットを入れる。

3 本機の電源スイッチを「見る／編集」にする。

4 本機で録画操作する。

テープに取り込むとき

1 P.メニューをタッチする。
2 のついている［録画操作］をタッチする。
画面にないときは、/をタッチして表示させます。見つからないときは、［メニュー］をタッチして（編集／変速再生）メニューから選びます。
3 ［録画ポーズ］をタッチする。

“ メモリースティック　デュオ ” に取り込むとき

1 P.メニューをタッチする。
2 ［メニュー］をタッチする。
3 （編集／変速再生）メニューからのついている［録画操作］をタッチする。

5 ビデオを再生、またはテレビ番組を受信する。

再生側の画像が本機の画面に映ります。

6 録画を開始したい画面で［録画スタート］をタッチする。

7 録画を止める。

テープに取り込むとき

（停止）または［録画ポーズ］をタッチする。

“ メモリースティック　デュオ ” に取り込むとき

［録画ストップ］をタッチする。

8 をタッチし、をタッチする。

ちょっと一言

- i.LINKケーブルでつなぐと、本機の画面にDV INが表示されます（接続側の画面にも表示されることもあります）。
- “ メモリースティック　デュオ ” に動画を録画するとき、手順4を行わずに手順6で録画スタート／ストップボタンを押して録画することもできます。

静止画を記録する

1 「動画を録画する」（86ページ）の手順1～3を行う。

2 ビデオを再生、またはテレビ番組を受信する。

再生側の画像が本機の画面に映ります。

3 記録したい場面でフォトボタンを軽く押し、画像を確認したら深く押す。

フォトボタンを深く押さない限り、指を離せば画像を選び直すことができます。

テープに撮った画像を“メモリースティック デュオ”に取り込む

動画（音声はモノラル）または静止画（画像サイズは「640×480」に固定）で“メモリースティック デュオ”に記録できます。

あらかじめ録画済みのテープと“メモリースティック デュオ”を入れておいてください。

1 電源スイッチを「見る／編集」にする。

2 取り込む場面を探して、取り込む。

静止画として取り込むとき

1 ▶II（再生）をタッチして、テープを再生する。
2 取り込む場面でフォトボタンを軽く押し、画面を確認して深く押す。

動画として取り込むとき

1 P.メニューをタッチする。
2 ［メニュー］をタッチする。
3 （編集／変速再生）メニューからのついている［録画操作］をタッチする。
4 ▶II（再生）をタッチして、テープを再生する。

次のページへつづく➡

5 録画を開始したい画面で［録画スタート］をタッチする。
6 止めたいところで［録画ストップ］をタッチする。
7 [■]（停止）をタッチして、テープの再生を止める。
8 [↩]をタッチし、[×]をタッチする。

ご注意
- “ メモリースティック　デュオ ” に取り込んだときの日時は記録されますが、テープに記録されたタイトルやデータコードは記録できません。
- 音声は32kHzのモノラルで記録されます。

ちょっと一言
- 動画として取り込むときはテープ再生中に録画スタート／ストップボタンを押しても取り込むことができます。
- 動画の録画時間について、詳しくは23ページをご覧ください。

“ メモリースティック デュオ ” に撮った静止画をテープにダビングする

静止画をテープに記録できます。
あらかじめ録画済みの “ メモリースティック デュオ ” と録画用テープを入れておいてください。

1 **電源スイッチを「見る／編集」にする。**

2 **[▶▶]（早送り）／[◀◀]（巻戻し）をタッチしてダビングの開始点を探し、[■]（停止）をタッチする。**

3 **[再生]をタッチする。**

4 **[−]（前の画像）／[＋]（次の画像）をタッチしてダビングする画像を探す。**

5 **[P.メニュー]をタッチする。**

6 **[テープ]のついている［[テープ]録画操作］をタッチする。**
画面にないときは[⌃]/[⌄]をタッチして表示させます。見つからないときは、［メニュー］をタッチして[編集]（編集／変速再生）メニューから選びます。

7 **［録画ポーズ］をタッチする。**

8 **［録画スタート］をタッチする。**
テープのダビングが始まります。

9 **止めたいところで[■]（停止）または［録画ポーズ］をタッチする。**

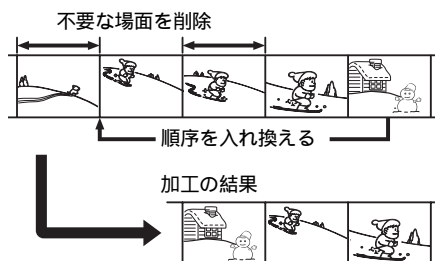
他にもダビングする場合は、[－]/[＋]で静止画を選んで、手順7～9を繰り返してください。

10 [↩]をタッチし、[×]をタッチする。

ご注意
- インデックス画面はダビングできません。
- パソコンで加工した画像や他機で撮影した画像はダビングできないことがあります。
- MPEGムービー撮影した画像はテープにダビングできません。

テープの好きな場面だけをダビングする

– デジタルプログラムエディット

必要な場面だけをフレーム単位で最大20プログラムまで選び、好きな順番でつなぎ合わせて他のビデオ（録画機）や本機の"メモリースティック　デュオ"に録画できます。
本機の"メモリースティック　デュオ"に録画するときは、準備１、２は不要です。「必要な場面をプログラムして録画する」（93ページ）から始めてください。

準備1 [テープ]：他のビデオ（録画機）を操作するための設定をする

初めて他のビデオ（録画機）のテープへデジタルプログラムエディットするときのみ行ってください。2回目以降、同じビデオを使うときは不要です。

ご注意
- 以下の機器ではデジタルプログラムエディットできません。
  – ［リモコンコード］に対応していないビデオ
  – DVDレコーダー、HDD搭載DVDレコーダーなど
- デジタルプログラムエディットの操作信号は、LANC端子では送信できません。

1 ビデオを録画機としてつなぐ（84ページ）。

AV接続ケーブル、i.LINKケーブルのどちらでもつなげますが、i.LINKでつなぐほうがダビングの手順が簡単です。

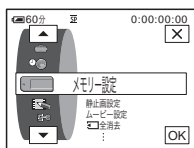
次のページへつづく➡

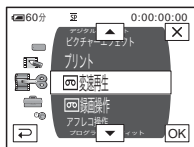
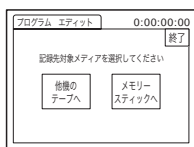
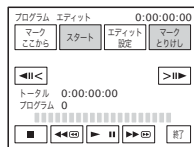
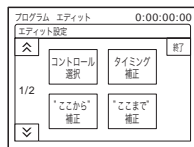
2 ビデオ（録画機）の準備をする。

- 録画用カセットを入れる。
- 入力切り換えスイッチがある場合は「入力」にする。

3 本機（再生機）の準備をする。

- 編集するカセットを入れる。
- 電源スイッチを「見る／編集」にする。

4 P.メニューをタッチする。

5 ［メニュー］をタッチする。

6 ▲/▼で（編集／変速再生）メニューを選び、OKをタッチする。

7 ▲／▼で［プログラム エディット］を選び、OKをタッチする。

8 ［他機のテープへ］をタッチする。

9 ［エディット設定］をタッチする。

10 ［コントロール選択］をタッチする。

11 ［リモコン］か［i.LINK］を選ぶ。

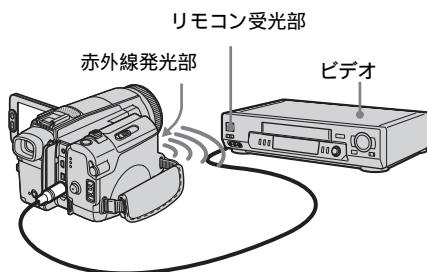
AV接続ケーブルのとき

［リモコン］を選び、OKをタッチしたあと、次の「［リモコンコード］を設定するには」へ進む。

i.LINKケーブルのとき

［i.LINK］を選び、OKをタッチしたあと、「準備2：他のビデオ（録画機）の録画開始・停止タイミングを補正する」（92ページ）へ進む。

◆［リモコンコード］を設定するには

AV接続ケーブルでつないだときは、本機（赤外線発光部）でビデオを操作できるか、［リモコンコード］の信号を合わせてテストする必要があります。

1 [⊻]をタッチして［リモコンコード］をタッチする。

2 「［リモコンコード］について」（91ページ）で、ビデオの［リモコンコード］（番号）を[－]/[＋]で選び、[OK]をタッチする。

同じメーカーで複数の［リモコンコード］があるときは、1つずつ試してください。

3 ［一時停止解除モード］をタッチする。

4 ビデオの録画一時停止を解除するモードを選び、[OK]をタッチする。

一時停止を解除するモードはビデオによって異なります。詳しくはビデオの取扱説明書をご覧ください。

5 本機の赤外線発光部とビデオのリモコン受光部を、障害物がない状態で約30cm離して向かい合わせる。

6 ビデオにカセットを入れ、録画一時停止にする。

7 ［リモコンテスト］をタッチする。

8 ［実行］をタッチする。

［リモコンコード］が正しく設定されたときは、ビデオの録画が始まり、リモコンテストが終わると、［完了しました］と表示されます。

「準備2：他のビデオ（録画機）の録画開始・停止タイミングを補正する」（92ページ）へ進んでください。

ビデオの録画が開始しないときは、他の［リモコンコード］に設定し直してください。

◆［リモコンコード］について

本機には、次の［リモコンコード］が記憶されています（お買い上げ時は「3」に設定）。

メーカー	［リモコンコード］
ソニー	1、2、3、4、5、6
アイワ	47、54、55、57、60、64
キヤノン	97
コルディナ	34
富士通	34
フナイ	61、80
ゴールドスター	47
日立	43、47、56、75
ビクター	12、13、14、21
マルマン	26
三菱	22、27、28、29
ＮＥＣ	35、65、66、67
オリオン	69、72
松下	16、18、19、78、79、96
フィリップス	83
パイオニア	31
三洋	36、38、46
シャープ	88、89、90、98
東芝	39、40、68
ユピテル	47

準備2 ：他のビデオ（録画機）の録画開始・停止タイミングを補正する

初めて他のビデオ（録画機）のテープへデジタルプログラムエディットするときのみ行ってください。2回目以降、同じビデオを使うときは不要です。
本機で操作信号を送ってビデオが録画開始するまでの誤差を補正して、冒頭の場面を録画し損なってしまうのを防ぎます。

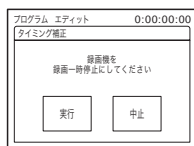
1 本機のテープを取り出し、筆記具を用意する。

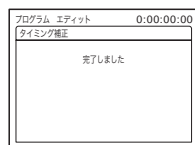
2 他のビデオ（録画機）を録画一時停止にする。

「準備1：他のビデオ（録画機）を操作するための設定をする」（89ページ）の手順11で［i.LINK］を選んだときは、必要ありません。

ご注意

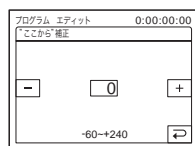
- テープの頭から録画すると、冒頭の場面が切れることがありますので、10秒ほどテープを送ってから録画一時停止してください。

3 をタッチして、［タイミング補正］をタッチする。

4 ［実行］をタッチする。

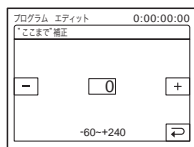
タイミング補正用のカウンターが5回分入った画像（約50秒間）が録画され、表示が［実行中］から［完了しました］に変わります。

5 ビデオのテープを巻き戻し、タイミング補正用の画像をスロー再生する。

5回分の［ここから］と［ここまで］のカウンター数値が表示されます。

6 ［ここから］の最初の数値と［ここまで］の最後の数値を5回分メモし、［ここから］と［ここまで］のそれぞれの平均値を計算する。

7 ［"ここから"補正］をタッチする。

8 −/+で［ここから］の平均値を選び、OKをタッチする。

録画を始めるタイミングが補正されます。

9 ［"ここまで"補正］をタッチする。

10 [−]/[+]で［ここまで］の平均値を選び、OKをタッチする。

録画停止のタイミングが補正されます。

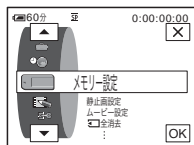
11 ［終了］を2回タッチする。

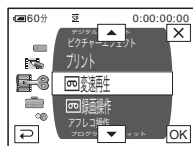
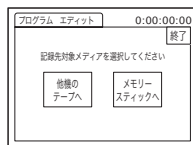
必要な場面をプログラムして録画する

初めて他のビデオ（録画機）のテープへデジタルプログラムエディットするときは、あらかじめ準備1〜2（89〜92ページ）を済ませておいてください。

1 **カセットや " メモリースティック デュオ " を準備する。**

再生するカセットを本機に入れます。テープに録画するときは、ビデオ（録画機）に録画用カセットを入れ、" メモリースティック　デュオ " に録画するときは、本機に " メモリースティック デュオ " を入れます。

2 **P.メニューをタッチする。**

3 **［メニュー］をタッチする。**

4 **▲/▼で（編集／変速再生）メニューを選び、OKをタッチする。**

5 **▲/▼で［プログラム エディット］を選び、OKをタッチする。**

6 **項目を選ぶ。**

ビデオのとき

［他機のテープへ］をタッチする。

" メモリースティック　デュオ " のとき

1　［メモリースティックへ］をタッチする。

2　［編集画像サイズ］を繰り返しタッチして、画像サイズを選ぶ。

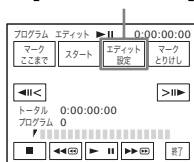
次のページへつづく➡

7 本機で、ダビングする場面の開始点を探して再生一時停止にする。

◀II< / >II▶（コマ送り）で微調整できます。

8 ［マークここから］をタッチする。

開始点が設定され、プログラムマークの上側が水色に変わります。

“ メモリースティック　デュオ ” のときは［編集画像サイズ］になります。

9 同様に終了点を探し、再生一時停止にする。

◀II< / >II▶（コマ送り）で微調整できます。

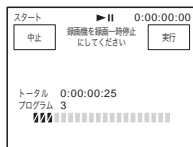
10 ［マークここまで］をタッチする。

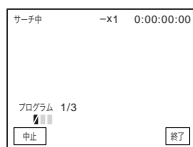
終了点が設定され、プログラムマークの下側が水色に変わります。

11 手順7～10を繰り返し、プログラムを作る。

12 ビデオを録画一時停止にする。

i.LINKケーブルでの接続や “ メモリースティック　デュオ ” への録画では不要です。

13 ［スタート］をタッチする。

14 ［実行］をタッチする。

設定したプログラムの開始点をサーチし（［サーチ中］と表示）、録画します（［エディット中］と表示）。

1つのプログラムを録画すると、プログラムマークがオレンジ色から水色に変わり、すべてのプログラムを録画すると、自動的に停止します。
録画を中止するには、［中止］をタッチします。

◆録画が終わったら

［終了］をタッチする。

◆録画しないでプログラムを中止するには

手順11で［終了］をタッチする。
テープを取り出さない限り、プログラムは記憶されています。

◆プログラムを消すには

1 「必要な場面をプログラムして録画する」（93ページ）の手順1～6を行い、［マークとりけし］をタッチする。

2 最後のプログラムを消すときは［1マーク削除］をタッチする。すべてのプログラムを消すときは、［全消去］をタッチする。

3 ［実行］をタッチする。

プログラムが取り消されます。

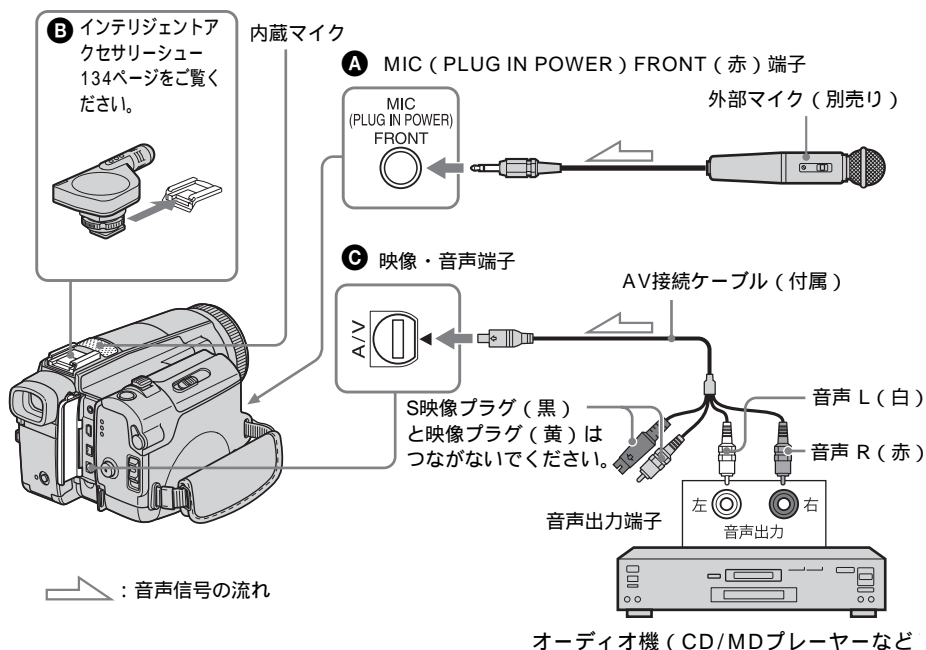
消すのを中止するには、［中止］をタッチします。

ご注意

- テープの無記録部分には、プログラムする場面の開始点や終了点を設定できません。また、プログラムした画像の途中に無記録部分が含まれていると、トータル時間は正しく表示されません。
- i.LINKケーブルで正しく操作できないときは、「準備1：他のビデオ（録画機）を操作するための設定をする」（89ページ）の手順11で［リモコン］を選んで、［リモコンコード］を設定してください。

録画したテープに音声を追加する – アフレコ

録画したビデオ（音声モードは12bit）にメッセージやちょっとした説明などを、撮影時の音声を消すことなく追加録音（アフレコ）できます。

アフレコ用に接続する

次のいずれかで音声を入力する。

- 内蔵マイクを使う（接続不要）。
- 別売りの外部マイクをMIC端子のFRONT（赤）側につなぐ（A）。
- 別売りの外部マイクをインテリジェントアクセサリーシューにつなぐ（B）。
- 映像・音声端子にオーディオ機などをつなぐ（C）。

他機を複数つないでいるとき、追加する音声は、MIC端子→インテリジェントアクセサリーシュー→映像・音声端子→内蔵マイクの順番で優先されます。

ご注意

- 次のときはアフレコできません。
  - 16BITモードで録画されたテープ
  - LPモードで録画されたテープ
  - i.LINKケーブルがつながれている
  - 4CHマイク記録したテープ

－ テープの無記録部分
－ カセットが誤消去防止状態

• 映像・音声端子や内蔵マイクでアフレコするときは、映像・音声端子から映像は出力されません。映像は液晶画面またはファインダーで確認してください。アフレコする音声はヘッドホンで確認してください。
• 別売りの外部マイクを使ってアフレコするときは、AV接続ケーブルでテレビなどとつないで画像と音声を確認できます。アフレコする音声はスピーカーからは出力されません。ヘッドホンかテレビで確認してください。

アフレコする

1 本機に録画したカセットを入れる。

2 電源スイッチを「見る／編集」にする。

3 ►II（再生・一時停止）をタッチして、テープを再生する。

4 アフレコする開始点で、もう1回 ►II（再生・一時停止）をタッチする。

一時停止します。

5 P.メニューをタッチする。

6 ［メニュー］をタッチする。

7 ▲/▼で（編集／変速再生）メニューを選び、OKをタッチする。

8 ▲/▼で［アフレコ操作］を選び、OKをタッチする。

9 ［アフレコ］をタッチする。

画面上に●IIマークが表示されます。

10 ►II（再生）をタッチすると同時に、オーディオ機やマイクで、追加する音声を出す。

アフレコ中は、画面上に●マークが表示されます。
画像を再生しながら、音声をステレオ2に追加して記録します。

11 止めたいところで■（停止）をタッチする。

他にもアフレコする場合は、手順3、4で画面を選んで［アフレコ］をタッチします。

12 ↩をタッチし、☒をタッチする。

◆アフレコする終了点を決めるには

あらかじめ、再生中にアフレコを終了する場面で、リモコンのゼロセットメモリーボタンを押しておきます。その後、手順4～10を行うと、終了する場面で自動的に録音が止まります。

ご注意

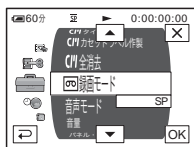
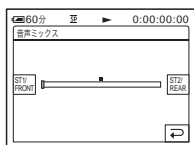
• 本機で録画したテープにアフレコしてください。他のビデオ（本機以外のDCR-HC1000を含む）で録画したテープでアフレコすると音質が劣化することがあります。

アフレコした音声を確認する

1 **アフレコしたテープを再生する（97ページ）。**

2 **[P.メニュー]をタッチする。**

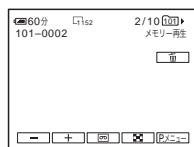
3 **［メニュー］をタッチする。**

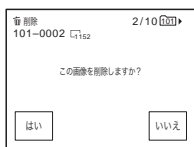
4 **[▲]/[▼]で（基本設定）メニューを選び、[OK]をタッチする。**

5 **[▲]/[▼]で［音声ミックス］を選び、[OK]をタッチする。**

6 **[ST1/FRONT]/[ST2/REAR]で撮影時の音声（ST1:ステレオ1）とアフレコした音声（ST2:ステレオ2）の音声バランスを調整し、[OK]をタッチする。**
お買い上げ時は、ステレオ1の音のみが出る設定になっています。
調整したバランスは、電源をはずして5分以上経つと、お買い上げ時の設定に戻ります。

記録した画像を消す

“メモリースティック　デュオ”内の画像をすべて、または選んで消せます。

1 **電源スイッチを「見る／編集」にする。**

2 **[再生]をタッチする。**

3 **[－]（前の画像）／[＋]（次の画像）をタッチして、削除する画像を表示する。**

4 **[🗑]をタッチする。**

5 **［はい］をタッチする。**
画像が削除されます。
削除を中止するには、［いいえ］をタッチします。

◆すべての画像を消去するには

（メモリー設定）メニューの［全消去］で消去する（65ページ）。

◆インデックス表示で画像を削除するには

６枚ずつ画像を一覧できるので、消す画像を簡単に探せます。

1 電源スイッチを「見る／編集」にする。
2 [再生]をタッチする。
3 [インデックス]をタッチする。
4 [設定]をタッチする。
5 ［削除］をタッチする。
6 削除する画像をタッチする。
削除する画像に削除マークが付きます。
前後の6枚を表示するには、[︽]/[︾]をタッチします。
7 [OK]をタッチする。
8 ［はい］をタッチする。
画像が削除されます。
削除を中止するには、［いいえ］をタッチします。

ご注意

- 誤消去防止スイッチ付きの“ メモリースティック　デュオ ”が 誤消去防止になっているとき（122ページ）やプロテクトされている画像（99ページ）は削除できません。
- いったん削除した画像は元に戻せません。削除する前に内容を確認してください。

記録した画像にマークを付ける ―プロテクト・プリントマーク

誤消去防止スイッチ付きの“ メモリースティック　デュオ ”をご使用の場合は、あらかじめ誤消去防止を解除しておいてください。

記録した画像を保護する―プロテクト

大事な画像を誤って消さないために、画像に誤消去防止（プロテクト）指定できます。

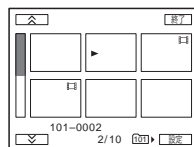
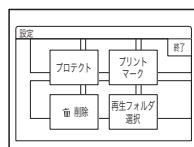
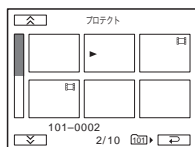
1 電源スイッチを「見る／編集」にする。

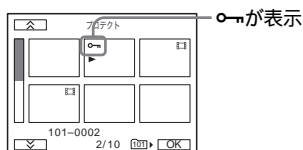
2 [再生]をタッチする。

3 [インデックス]をタッチする。

4 [設定]をタッチする。

ダビングや編集をする

次のページへつづく➡

5 ［プロテクト］をタッチする。

6 プロテクトする画像をタッチする。

7 OK をタッチする。

8 ［終了］をタッチする。

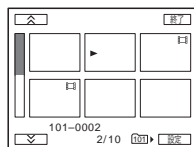
◆プロテクトを外すには

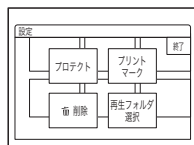
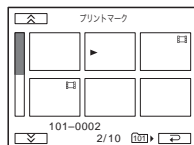
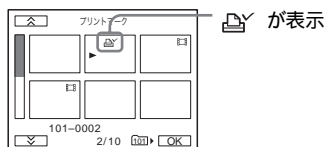
手順1〜5を行い、プロテクトを外す画像をタッチする。
画像から、が消えます。

静止画にプリント用のマークを付ける— プリントマーク

画像を本機で見るときに後でプリントする静止画にマークを付けておけば、プリントするときに選び直す必要がありません（プリント枚数を指定することはできません）。
本機はプリントする画像を選択できるDPOF（Digital Print Order Format）規格に対応しています。

1 電源スイッチを「見る／編集」にする。

2 再生 をタッチする。

3 をタッチする。

4 設定 をタッチする。

5 ［プリントマーク］をタッチする。

6 プリントマークを付ける画像をタッチする。

7 OK をタッチする。

8 ［終了］をタッチする。

◆プリントマークを外すには

手順1～5を行い、プリントマークを外す画像をタッチする。
画像から、 が消えます。

ご注意

- 他機でプリントマークを付けた画像が " メモリースティック　デュオ " に入っているときに本機でプリントマークを付けると、他機でプリントマークをつけた画像の情報が変更される場合があります。

記録した画像を印刷する（PictBridge対応プリンター）

PictBridgeに対応したプリンターを使うと、本機で撮影した静止画をパソコンを使わずに簡単に印刷することができます。

PictBridge

ちょっと一言

- PictBridge（ピクトブリッジ）とは、カメラ映像機器工業会（CIPA）で制定された統一規格のことです。メーカーや機種に関係なく、ビデオカメラやデジタルスチルカメラを直接プリンターに接続し、パソコンを使わずに画像を印刷することができます。

本機とプリンターを接続する

ご注意

- 電源は付属ACアダプターを使ってコンセントからとってください。

1 本機に静止画を記録した " メモリースティック　デュオ " を入れる。

2 プリンターに用紙をセットし、プリンターの電源を入れる。

3 本機の電源スイッチを「見る／編集」にする。

4 P.メニュー をタッチする。

5 ［メニュー］をタッチする。

6 ▲/▼と OK をタッチして （基本設定）メニューから［USB-見る／編集］を選ぶ。

次のページへつづく➡

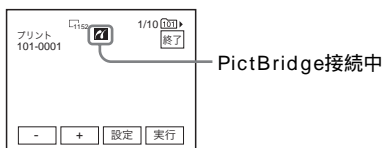
7 ［PictBridge］を選び、OKをタッチする。

8 ↩をタッチする。

9 付属のUSBケーブルでUSB端子（134ページ）とプリンターをつなぐ。

プリンターによってUSB端子の位置は異なります。詳しくは、プリンターの取扱説明書をご覧ください。

10 ▲/▼とOKをタッチして（ピクチャーアプリ）メニューから［プリント］を選ぶ。

本機とプリンターの接続が完了すると画面にが表示されます。

"メモリースティック　デュオ" に記録されている画像が表示されます。

ご注意

- PictBridgeに対応していない機器との接続は、動作を保証いたしません。
- メニューの［USB一見る／編集］が［PictBridge］以外に設定されていると、プリンターと接続できません。画面の指示に従って操作してください。

印刷する

1 −（前の画像）／＋（次の画像）をタッチして、印刷する画像を選ぶ。

2 設定をタッチし、［印刷部数］をタッチする。

3 −/＋で印刷部数を設定して、OKをタッチする。

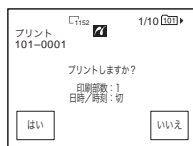
1枚の静止画で最大20枚まで印刷部数を設定できます。

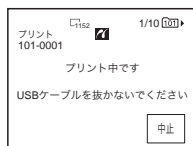
4 ［終了］をタッチする。

日付を入れて印刷するには

1. 設定をタッチし、［日付／時刻］をタッチする。
2. ［年月日］または［日時分］を選んでOKをタッチする。
   お買い上げ時は［切］に設定されています。

5 ［実行］をタッチする。

確認画面が表示されます。

6 ［はい］をタッチする。

印刷が完了すると［プリント中です］の表示が消え、画像選択画面に戻ります。

◆他の画像を印刷するには

手順1～6を繰り返してください。

◆印刷を中止するには

印刷中に［中止］をタッチする。

◆印刷を終了するには

［終了］をタッチし、本機とプリンターから
USBケーブルを抜く。

ご注意

- 画面に 〃 が表示されているときに、以下の操作をしないでください。正常な処理が行われない場合があります。
  - 電源スイッチを切り換える
  - 本機またはプリンターからUSBケーブルを抜く
  - 本機から“ メモリースティック　デュオ ”を抜く
- プリンターが動作しなくなった場合は、USBケーブルを抜いて最初から操作をやり直してください。
- お使いのプリンターによっては、日付印刷に対応していないものがあります。詳しくは、プリンターの取扱説明書をご覧ください。
- 本機以外の機器で撮影した画像の印刷に関しては保証いたしません。

困ったときは

故障かな？と思ったら

修理に出す前に、もう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、テクニカルインフォメーションセンター（裏表紙）にお問い合わせください。
また、液晶画面やファインダーに「C:□□:□□」（□は数字）のように表示されたときは、自己診断表示機能が働いています。113ページをご覧ください。

全体操作について

症状	原因と対処のしかた
電源スイッチを「見る／編集」、「撮る-テープ」または「撮る-メモリー」にしても動作しない。	• バッテリーの消耗または消耗間近、未装着。 ➔充電されたバッテリーを取り付ける。（13ページ） ➔ACアダプターのプラグをコンセントに差し込む。（15ページ）
電源が入っているのに操作できない。	➔電源（バッテリーまたはACアダプターの電源コード）を取り外し、約1分後に電源を取り付け直す。それでも操作できないときは、RESET（リセット）ボタンを先のとがったもので押す。（RESETボタンを押すと、日時を含めすべての設定が解除されます。ただし、パーソナルメニュー項目は解除されません。）
付属のワイヤレスリモコンが働かない。	➔（基本設定）メニューで［リモコン］を［入］にする。（78ページ） ➔ボタン型リチウム電池の＋極と－極を正しく入れる。それでも働かないときは、ボタン型リチウム電池の寿命のため、新しいボタン型リチウム電池に交換する。（136ページ） ➔リモコンと本体リモコン受光部の間にある障害物を取り除く。
本体があたたかくなる。	• 長時間電源を入れたままにしておいたためで、故障ではありません。

バッテリー・電源について

症状	原因と対処のしかた
バッテリーを充電中、フラッシュ／充電ランプが点灯していない。	➔バッテリーを正しく取り付け直す。それでも点灯しないときは、コンセントから電源が供給されていない。（13ページ） • すでに充電が完了している。（13ページ）
バッテリーを充電中、フラッシュ／充電ランプが点滅する。	➔バッテリーを正しく取り付け直す。それでも点滅するときは、バッテリーが故障しているおそれがあるため、コンセントからプラグを抜きテクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。（13ページ）
バッテリーの消耗が早い。	• 周囲の温度が極端に低い、または充電が不充分です。故障ではありません。 ➔満充電し直す。それでも消耗が早いときは、バッテリーの寿命のため、新しいバッテリーに交換する。（13、124ページ）
バッテリー残量が正しく表示しない。	• 温度が極端に高いまたは低いところで長時間使用している、または充電が不充分です。故障ではありません。 ➔満充電し直す。それでも正しく表示されないときは、バッテリーの寿命のため、新しいバッテリーに交換する。（13、124ページ）
バッテリー残量が充分あるのに電源がすぐ切れる。	• 残量表示にズレが生じている、または充電が不充分です。 ➔満充電し直すと残量が正しく表示される。（13ページ）
電源が途中で切れる。	• （基本設定）メニューで［自動電源オフ］が［5分後］になっている。（79ページ） ➔電源を入れて何も操作しない状態が約5分以上続くと、自動的に電源が切れます。 電源スイッチを下にずらしてもう一度電源を入れる。（16ページ）またはACアダプターを使用する。
ACアダプターを使用中、本機に不具合が生じる。	➔電源を切り、コンセントからプラグを抜いてから、もう一度電源をつなぐ。

カセットについて

症状	原因と対処のしかた
カセットが取り出せない。	➔電源（バッテリーやACアダプター）が正しく接続されているか確認する。（13ページ） ➔バッテリーを取り出して、もう一度取り付ける。（13ページ） ➔充電されたバッテリーを取り付ける。（13ページ）

次のページへつづく➡

症状	原因と対処のしかた
カセットカバーを開けてもテープが出てこない。	• 本機が結露しかけている。（126ページ）
カセットメモリー付きカセットで、カセットメモリー表示が出ない。	→カセットの金メッキ端子の汚れやゴミをクリーニングする。（121ページ）
テープ残量表示が出ない。	→常に表示させたいときは、(基本設定）メニューで［残量表示］を［入］にする。（78ページ）
カセットにラベルを付けられない。	→カセットメモリー付きカセットを必ず使う。（120ページ） →カセットのメモリー容量がいっぱいになっているときは、不要なタイトルを消す。（73ページ） →カセットの誤消去防止ツマミをRECにする。（120ページ）

液晶画面・ファインダーについて

症状	原因と対処のしかた
液晶画面またはファインダーに見慣れない画面が現れる。	• ［デモモード］になっている（カセットと“メモリースティック　デュオ”を入れずに電源スイッチを「撮る-テープ」にして10分経つと自動的に表示されます）。 →液晶画面のどこかを押すか、カセットや“メモリースティック　デュオ”を入れて［デモモード］を中断する。［デモモード］にしない設定もあります。（70ページ）
見慣れない表示が出る。	→137ページをご覧ください。
タッチパネルのボタンが表示されない。	→液晶画面を軽くタッチする。 →画面表示／バッテリーインフォボタン（またはリモコンの画面表示ボタン）を押す。（14ページ）
タッチパネルのボタンが働かない・正しく働かない。	→画面を調節（[キャリブレーション]）する。（128ページ）
ファインダーの画像がはっきりしない。	→視度調整つまみを動かして、画像がはっきり見えるようにする。（17ページ）
ファインダーの画像が消えている。	→液晶画面を閉じる。開いているとファインダーには画像は映りません。（17ページ）
液晶画面に画像が残る。	• 電源を入れた状態でバッテリーを取り出したり、DCプラグを抜いたためで、故障ではありません。

撮影について

“ メモリースティック　デュオ ” のときは、『“ メモリースティック　デュオ ” について」（109ページ）の項目もご覧ください。

症状	原因と対処のしかた
録画スタート／ストップボタンを押しても、テープが走行しない。	➔電源スイッチを「撮る-テープ」にする。（16ページ） ➔テープが最後まで行っている。巻き戻すか、新しいカセットを入れる。 ➔カセットの誤消去防止ツマミをRECにする。または新しいカセットを入れる。（120ページ） ➔結露でテープがヘッドドラムに貼り付いている。カセットを取り出して、約1時間してからもう一度入れ直す。（126ページ）
電源が途中で切れる。	• （基本設定）メニューで［自動電源オフ］が［5分後］になっている。（79ページ） ➔電源を入れて何も操作しない状態が約5分以上続くと、自動的に電源が切れます。 電源スイッチを下にずらしてもう一度電源を入れる。（16ページ）またはACアダプターを使用する。 ➔バッテリーを充電する。（13ページ）
手ぶれ補正が働かない。	➔（カメラ設定）メニューで［手ぶれ補正］を［入］にする。（62ページ）
オートフォーカスが働かない。	➔フォーカス／ズームスイッチを「自動」または「自動／ズーム」にする。（133ページ） ➔オートフォーカスが働きにくい状態のときは、手動でピントを合わせる。（35ページ）
ろうそくの火やライトなどを暗い背景の中で撮ると、縦に帯状の線が出る。	• 背景とのコントラストが強い被写体のときに出る現象で、故障ではありません。
明るい被写体を映すと、縦に尾を引いたような画像になる。	• スミア現象と呼ばれるもので、故障ではありません。
画面が白すぎて画像が見えない。	➔逆光補正を解除する。（32ページ）
画面が暗すぎて画像が見えない。	• 液晶画面のバックライトが消えている。 ➔液晶画面バックライトボタンを押す。（16ページ）
シャッター音が出ない。	➔（基本設定）メニューで［おしらせブザー］を［メロディ］か［ノーマル］にする。（78ページ）
別売りのフラッシュが発光しない。	• フラッシュの電源が入っていない。または、正しく取り付けられていない。 • フラッシュを2つ以上取り付けている。一度に1つしか取り付けられません。

次のページへつづく➡

症状	原因と対処のしかた
画像が明るくなる、ちらつく(フリッカー)、色が変化する。	→蛍光灯・ナトリウム灯・水銀灯など放電管による照明下で、[ソフトポートレート]や[スポーツレッスン]モードで撮影したため。[プログラムAE]を解除する。(56ページ)
エンドサーチが働かない。	• カセットメモリーの付いていないカセットで、撮影後にカセットを取り出したため。(120ページ) • カセットを入れてからエンドサーチするまでに、1回も撮影していない。
エンドサーチが誤動作する。	• テープの始めや途中に無記録部分があるためで、故障ではありません。

再生について

“メモリースティック　デュオ”のときは、「“メモリースティック　デュオ”について」(109ページ)の項目もご覧ください。

症状	原因と対処のしかた
再生できない。	→テープが最後まで行っているときは巻き戻す。(43ページ)
画像に横線が入る、画像がぼけたり、映らなかったりする。	→ビデオヘッドが汚れているため。別売りのクリーニングカセットできれいにする。(127ページ)
細かい模様がちらつく、斜めの線がギザギザになる。	→(カメラ設定)メニューで[シャープネス]で画像を[－]側(やわらかな画像)に調整して撮影する。(58ページ)
音声が小さい。または聞こえない。	→(基本設定)メニューで[バイリンガル]を[切]にする。(75ページ) →音量を大きくする。(43、46ページ) →(基本設定)メニューで[音声ミックス]を、[ST2/REAR]側から最適な音声になるまで調節する。(76ページ) →S映像プラグだけでつないでいるため。AV接続ケーブルの白と赤のプラグもあわせてつなぐ。(84ページ)
4CHマイク記録した音声が聞こえない。	→(基本設定)メニューで[音声ミックス]を調整する。(27ページ)
音声が途切れる。	→ビデオヘッドが汚れているため。別売りのクリーニングカセットできれいにする。(127ページ)
撮影日を画面に出して日付サーチできない。	→カセットメモリー付きカセットを必ず使う。(120ページ) →(編集/変速再生)メニューで[CM サーチ]を[入]にする。(71ページ) • テープの始めや途中に無記録部分がある。

症状	原因と対処のしかた
[-- -- --] が表示される。	• 日付・時刻を設定しないで録画したテープを再生している。 • テープの無記録部分を再生している。 • テープに傷やノイズがあると、データコードを読めません。
エンドサーチが働かない。	• カセットメモリーの付いていないカセットで、撮影後にカセットを取り出したため。(120ページ) • カセットを入れてからエンドサーチするまでに、1度も撮影していない。
エンドサーチが誤動作する。	• テープの始めや途中に無記録部分があるためで、故障ではありません。
ノイズが現れ、画面上に PAL と表示される。	• テープに記録されているTVカラーシステムがPALなど、本機のカラーシステム(NTSC)と違うため、見ることができません。故障ではありません。(119ページ)

" メモリースティック デュオ " について

症状	原因と対処のしかた
操作を受け付けない。	→電源スイッチを「撮る-メモリー」または「見る/編集」にする。(16ページ) →" メモリースティック デュオ " を入れる。(20ページ) • パソコンでフォーマットした " メモリースティック デュオ " を入れている。 →本機でフォーマットする。(ただし、記録されているデータはすべて消去されますので、ご注意ください。)
撮影できない。	→誤消去防止スイッチのある " メモリースティック デュオ " を使用している場合は、誤消去防止を解除する。(122ページ) →すでにメモリー容量いっぱいになっているため。不要な画像を消してから撮影する。(98ページ) →本機で " メモリースティック デュオ " をフォーマットし直すか、別の " メモリースティック デュオ " を入れる。(65ページ)
正しい画像サイズで再生できない。	• 他機で撮影した画像は、正しい画像サイズで表示されないことがあります。故障ではありません。
画像データが再生できない。	• パソコンでフォルダやファイルなどの名前を変更、または画像を加工すると、再生できない場合があります(ファイル名が点滅します)。故障ではありません。(123ページ) • 他機で撮影した画像は、再生できないことがあります。故障ではありません。(123ページ)

次のページへつづく➡

症状	原因と対処のしかた
テープに記録した画像が、“ メモリースティック　デュオ ”にも記録されている。	➔テープ再生中に録画スタート／ストップボタンを押したため、“ メモリースティック　デュオ ”にテープの動画が記録された。不要のときは画像を削除する。（98ページ）
画像を消去できない。	➔誤消去防止スイッチのある“ メモリースティック　デュオ ”を使用している場合は、誤消去防止を解除する。（122ページ） ➔プロテクトを解除する。（99ページ） • インデックス表示で１回に消せる画像は100枚までです。101枚以上削除するときは分けて消してください。
フォーマットが実行できない。	➔誤消去防止スイッチのある“ メモリースティック　デュオ ”を使用している場合は、誤消去防止を解除する。（122ページ）
全消去が実行できない。	➔誤消去防止スイッチのある“ メモリースティック　デュオ ”を使用している場合は、誤消去防止を解除する。（122ページ） ➔プロテクトを解除する。（99ページ）
プロテクトが実行できない。	➔誤消去防止スイッチのある“ メモリースティック　デュオ ”を使用している場合は、誤消去防止を解除する。（122ページ） ➔インデックス表示にしてから、プロテクトを実行し直す。（99ページ）
プリントマークが実行できない。	➔誤消去防止スイッチのある“ メモリースティック　デュオ ”を使用している場合は、誤消去防止を解除する。（122ページ） ➔インデックス表示にしてから、プリントマークを実行し直す。（48ページ） • プリントマークは1000枚以上付けられません。 • 動画には付けられません。
データファイル名が正しくない。	• ディレクトリー構造が規格に準拠していないと、ファイル名のみ表示されることがあります。 • ファイルが壊れている。 • 本機で対応していないファイル形式を使っている。（121ページ）
データファイル名が点滅している。	• ファイルが壊れている。 • 本機で対応していないファイル形式を使っている。（121ページ）

ダビング・編集（アフレコ・タイトル）について

症状	原因と対処のしかた
本機につないだ機器(外部入力)の映像が、液晶画面やファインダーに映らない。	➔（基本設定）メニューで［ビデオ入力］を正しく設定する。（77ページ） ➔（基本設定）メニューで［画面表示］を［パネル］にする。（79ページ）
AV接続ケーブルを使ってダビングができない。	➔（基本設定）メニューで［ビデオ入力］を正しく設定する。（77ページ） ➔（基本設定）メニューで［画面表示］を［パネル］にする。（79ページ） • AV接続ケーブルが正しくつながれていない。 ➔他機の画像を本機へダビングする場合は他機の出力端子へ、本機の画像を他機へダビングする場合は他機の入力端子へつながれているか確認する。
アフレコした音声が聞こえない。	➔（基本設定）メニューで ［音声ミックス］を、［ST1/FRONT］（オリジナルテープ音声）側から最適な音声になるまで調節する。（76ページ）
タイトルを入れられない・カセットラベルを付けられない。	➔カセットメモリー付きカセットを使う。（120ページ） ➔カセットのメモリー容量がいっぱいになっているときは、不要なタイトルを消す。（73ページ） ➔カセットの誤消去防止ツマミをRECにする。（120ページ） • タイトルはテープの無記録部分には入れられません。
タイトルが出ない。	➔（編集／変速再生）メニューで［CM タイトル表示］を［入］にする。（73ページ）
タイトルを消せない。	➔カセットの誤消去防止ツマミをRECにする。（120ページ）
タイトルサーチできない。	➔タイトルが入っていないときは、1つ以上タイトルを入れる。（72ページ） ➔カセットメモリー付きカセットを必ず使う。（120ページ） ➔（編集／変速再生）メニューで［CM サーチ］を［入］にする。（71ページ） • テープの始めや途中に無記録部分があるためで、故障ではありません。
テープから“ メモリースティック　デュオ ”へ静止画を取り込めない。	• 繰り返しダビングしているなど、記録状態の悪いテープは録画できなかったり、乱れた画像が記録されることがあります。

困ったときは

次のページへつづく➡

症状	原因と対処のしかた
テープから " メモリースティック　デュオ " へ動画を取り込めない。	• 以下の場合、録画できなかったり、乱れた画像が記録されることがあります。 ー テープに無記録部分がある。 ー 繰り返しダビングしているなど記録状態の悪いテープから画像を取り込もうとした。 ー 入力信号が途絶えた。
他機のテープへのデジタルプログラムエディットが正しく働かない。	➔録画機側の入力切り換えができていない。接続を確認して録画機側の入力切り換えスイッチを設定し直す。（89ページ） ➔ソニー以外のDV機器とi.LINKケーブルでつないでいるときは、「準備1：他のビデオ（録画機）を操作するための設定をする」（89ページ）の手順11で［リモコン］を選ぶ。 ➔本機と録画機のタイミング補正をする。（92ページ） ➔正しい［リモコンコード］を設定する。（91ページ） ➔録画一時停止を解除するモードを設定し直す。（91ページ） ➔本機と録画機を約30cm離す。（91ページ） • 無記録部分にはプログラムは設定できません。 • DVDレコーダー、HDD搭載DVDレコーダーなどの機器には対応していません。
i.LINK接続でデジタルプログラムエディットの録画機の操作がうまくいかない。	➔接続はi.LINKのままで、「準備1：他のビデオ（録画機）を操作するための設定をする」（89ページ）の手順11で［リモコン］を選ぶ。 • DVDレコーダー、HDD搭載DVDレコーダーなどの機器には対応していません。
" メモリースティック　デュオ " へのデジタルプログラムエディットが正しく働かない。	• 無記録部分にはプログラムは設定できません。 • 繰り返しダビングしているなど、記録状態の悪いテープは録画できなかったり、乱れた画像が記録されることがあります。

警告表示とお知らせメッセージ

自己診断表示・警告表示

液晶画面またはファインダーには、以下のように表示されます。詳しい説明は、（　）内のページをご覧ください。

表示	原因と対処のしかた
C:□□:□□/E:□□:□□ (自己診断表示)	お客様自身で対応できる場合でも、2、3回繰り返しても正常に戻らないときは、テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。 **C:04:□□** ➔"インフォリチウム"以外のバッテリーが使われているため。必ず"インフォリチウム"バッテリーを使ってください。（124ページ） **C:21:□□** ➔結露しているため。カセットを取り出して、約1時間してからもう一度入れ直す。（126ページ） **C:22:□□** ➔ビデオヘッドが汚れているため。別売りのクリーニングカセットできれいにする。（127ページ） ➔マルチアングルグリップに強い衝撃が加わったため。撮影またはスタンバイ中に強い衝撃を与えないでください。 **C:31:□□/C:32:□□** ➔上記以外の症状になっている。カセットを入れ直し、もう一度操作し直す。ただし、本機が結露気味のときは、この操作をしないでください。（126ページ） ➔電源をいったん取り外し、取り付け直してからもう一度操作し直す。 ➔カセットを交換する。リセットボタン（134ページ）を押してからもう一度操作し直す。 **E:61:□□/E:62:□□/E:91:□□** • 修理が必要と思われます。テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせいただき、Eから始まる数字すべてをお知らせください。

困ったときは

次のページへつづく➡

表示	原因と対処のしかた
101-1001（ファイル関連の警告）	• ファイルが壊れている。 • 扱えないファイル。 • 動画ファイルをメモリーミックスしようとした。（39ページ）
（バッテリー残量に関する警告）	• バッテリー残量が少ない。 • 使用状況や環境、バッテリーパックによっては、バッテリー残量が約5～10分でも警告表示が点滅することがあります。
（バッテリーインフォに関する警告）	• 低温のため、バッテリー充電レベルに比べて使用時間が極端に短くなることがある。（14ページ）
（結露の警告）＊	→カセットを取り出し、電源を切って、カセット入れを開けたまま、約1時間放置する。（126ページ）
（“メモリースティック　デュオ”関連の警告）	•“メモリースティック　デュオ”が入っていない。
（“メモリースティック　デュオ”フォーマット関連の警告）＊	•“メモリースティック　デュオ”が壊れている。 •“メモリースティック　デュオ”が正しくフォーマットされていない。（65ページ）
（非対応“メモリースティック　デュオ”関連の警告）＊	• 本機では使えない“メモリースティック　デュオ”を入れた。
（テープ関連の警告）	**遅い点滅** • テープ残量が5分を切った。 • カセットが入っていない。＊ • カセットが誤消去防止状態になっている。＊（120ページ） **速い点滅** • テープが終わっている。＊
⏏（テープを取り出す必要がある警告）＊	**遅い点滅** • カセットが誤消去防止状態になっている。（120ページ） **速い点滅** • 結露している。（126ページ） • 自己診断表示が表示されている。（113ページ）
（画像消去に関する警告）＊	• 画像が消去できないようになっている。（99ページ）
（“メモリースティック　デュオ”誤消去防止に関する警告）＊	•“メモリースティック　デュオ”が誤消去防止状態になっている。（122ページ）
（フラッシュ関連の警告）	**遅い点滅** • 充電中。 **速い点滅** • 自己診断表示が表示されている。＊（113ページ） • 内蔵または別売りのフラッシュに異常がある。

* 警告表示・お知らせメッセージが出るときに、「おしらせブザー」が鳴ります。（78ページ）

お知らせメッセージ一覧

警告表示とともに、以下のお知らせメッセージが表示されます。メッセージに従って操作してください。

項目	表示	原因と対処のしかた
バッテリー	"インフォリチウム"バッテリーを使ってください	→詳しくは124ページをご覧ください。
	バッテリーを取りかえてください	→13ページをご覧ください。
	このバッテリーは古くなりました　取りかえてください	→詳しくは125ページをご覧ください。
	⏏ 電源を取り付けなおしてください	ー
結露	⏏ 結露しています　カセットを取り出してください	→詳しくは126ページをご覧ください。
	結露しています　約１時間放置してください	→詳しくは126ページをご覧ください。
カセット・テープ	カセットを入れてください	→19ページをご覧ください。
	⏏ カセットを入れなおしてください	• テープの損傷などがないか確認する。
	⏏ カセットの誤消去防止ツマミを確認してください	→120ページをご覧ください。
	テープが終わっています	ー
	カセットメモリー付きカセットに入れかえてください	→120ページをご覧ください。
	カセットメモリー付きカセットを入れてください	→120ページをご覧ください。
“ メモリースティック　デュオ ”	メモリースティックを入れてください	→20ページをご覧ください。
	メモリースティックを入れなおしてください	→“ メモリースティック　デュオ ” を2、3回入れ直す。それでも表示されるときは “ メモリースティック　デュオ ” が壊れていることがあるので交換する。
	書き込み中にメモリースティックが抜かれました データが壊れた可能性があります	ー
	読み出し専用のメモリースティックです	→書き込みができる “ メモリースティック　デュオ ” を入れる。
	非対応のメモリースティックです	• 本機では使えない “ メモリースティック　デュオ ” が入っている。（121ページ）

次のページへつづく➡

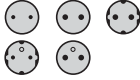
項目	表示	原因と対処のしかた
“メモリースティック デュオ”(つづき)	このメモリースティックはフォーマットが違います	→“メモリースティック デュオ”のフォーマットを確認し、必要ならばフォーマットする。(65ページ)
	このメモリースティックは空き容量がたりません これ以上は記録できません	→不要な画像を消す。(98ページ)
	メモリースティックの誤消去防止ツマミを確認してください	•“メモリースティック デュオ”が誤消去防止になっている。(122ページ)
	再生できません メモリースティックを入れなおしてください	—
	記録できません メモリースティックを入れなおしてください	—
	ファイルがありません	•“メモリースティック デュオ”になにも記録されていない、または認識できる画像がない。
	このフォルダにはファイルがありません	• 選択しているフォルダ内に認識できるファイルがない。
	充電中です 静止画記録はできません	• フラッシュ充電中は記録できません。フラッシュランプが点灯するまで待つ。(30ページ)
	USBストリーミング中です メモリースティックの記録・再生はできません	• USBストリーミング中に記録または再生をしようとしている。
	メモリースティックのフォルダがいっぱいです	• 作成できるフォルダは、999MSDCFまでです。本機ではフォルダを消去できません。“メモリースティック デュオ”をフォーマットするか(65ページ)、パソコンで不要なフォルダを消去する。
	メモリースティックに静止画記録できない状態です	—
PictBridge対応プリンター	接続先を確認してください	→プリンターの電源を入れなおし、USBケーブルをいったん抜いてからもう1度つなぐ。
	PictBridge対応プリンターと接続してください	→プリンターの電源を入れなおし、USBケーブルをいったん抜いてからもう1度つなぐ。
	プリンターを確認して下さい	—
	異常が確認されました 中止してください	→プリンターを確認する。

項目	表示	原因と対処のしかた
PictBridge対応プリンター(つづき)	プリントできません プリンターを確認してください	➔プリンターの電源を入れなおし、USBケーブルをいったん抜いてからもう1度つなぐ。
フラッシュ	ϟ ストロボが充電できません ストロボは使用できません	➔30ページをご覧ください。
その他	メモリー上の動画はテープには記録できません	ー
	コピープロテクトされています 記録できません	ー
	DV入力のアフレコはできません “ i.LINK ” ケーブルをぬいてください	➔96ページをご覧ください。
	SP以外の録画モードで記録されている部分です アフレコできません	➔96ページをご覧ください。
	12bit以外の音声モードで記録されている部分です アフレコできません	➔96ページをご覧ください。
	無記録部分です アフレコできません	➔96ページをご覧ください。
	アフレコできません	• 4CHマイク記録した部分にはアフレコできません。
	FRONT側にマイクが挿さっていません	➔アフレコするときは、FRONT側、4CHマイク記録をするときはFRONT／REAR、それぞれにマイクをつなぐ。
	4CHマイク記録を実行できません	• 撮影中に、マイクロホンのケーブルを抜き差しした。 • 4CHマイク記録をするには専用のマイクロホンが必要です。(26ページ)
	カセットメモリーがいっぱいです	➔不要なタイトルを消す。(73ページ)
	メモリースティックにAudio44.1kHzは記録できません	ー
	撮る-テープのP.メニューにはすでに登録されています	ー
	撮る-メモリーのP.メニューにはすでに登録されています	ー
	見る／編集のP.メニューにはすでに登録されています	ー
	⊗ ヘッドが汚れています クリーニングカセットを使ってください	➔127ページをご覧ください。
	HDV記録テープです　再生できません	• HDV形式は本機では再生できません。画像を撮影した機器で再生してください。

次のページへつづく➡

項目	表示	原因と対処のしかた
その他 (つづき)	HDV記録テープです　アフレコできません	• 本機ではHDV形式で記録された部分にアフレコすることはできません。

海外で使う

◆電源について

本機は、海外でも使えます。
付属のACアダプターは、全世界の電源（AC100V〜240V・50/60Hz）で使えます。また、バッテリーも充電できます。ただし、電源コンセントの形状の異なる国や地域では、電源コンセントにあった変換プラグアダプターをあらかじめ旅行代理店でおたずねの上、ご用意ください。
電子式変圧器（トラベルコンバーター）は使わないでください。故障の原因となることがあります。

海外のコンセントの種類

壁のコンセントの形状例	主に北米	主にヨーロッパなど
使用する変換プラグアダプター	不要です。	

◆カラーテレビ方式について

再生画像を見るには、日本と同じカラーテレビ方式（NTSC、表参照）で、映像・音声入力端子付きのテレビ（またはモニター）と接続ケーブルが必要です。

テレビ方式	対象
NTSC	アメリカ合衆国、エクアドル、エルサルバドル、ガイアナ、カナダ、キューバ、グアテマラ、グアム、コスタリカ、コロンビア、サモア、スリナム、セントルシア、大韓民国、台湾、チリ、ドミニカ、トリニダード・トバゴ、ニカラグア、日本、ハイチ、パナマ、バミューダ、バルバドス、フィリピン、プエルトリコ、ベネズエラ、ペルー、ボリビア、ホンジュラス、ミクロネシア、ミャンマー、メキシコ など

◆時差補正機能について

海外で使うとき、（時間設定）メニューの［時差補正］を選ぶと、時差を設定するだけで時刻を現地時間に合わせられます（80ページ）。

その他

ビデオカセットについて

本機はDV方式のビデオカメラレコーダーです。**本機は、ミニDVカセットのみ使えます。** Mini DV マークが付いたカセットを使ってください。

Mini DV Digital Video Cassette は商標です。

◆カセットメモリーについて

ミニDVカセットには、カセットメモリーが付いているものと、付いていないものがあります。カセットメモリー付きカセットにはCMマークが付いています。本機ではカセットメモリー付きのものを推奨しています。

CM Cassette Memory は商標です。

カセットメモリー付きのカセットは、カセット自体にICメモリーを内蔵しています。本機はこのICメモリーを利用して、画像情報（録画日時、タイトルなど）を書き込んだり、呼び出したりします。
カセットメモリー機能は、テープ上に記録された信号を基準にして動作します。テープの始めや途中にいったん無記録部分を作ると、信号が不連続になり、タイトルがまちがって表示されたり、サーチが誤動作することがあります。

無記録部分を作らないために
以下のときは、次の撮影の前にエンドサーチ（41ページ）を行って撮影終了位置に戻します。
　ー撮影の途中でテープを出し入れしたとき
　ーテープを再生したとき
　ーエディットサーチを使った場合
すでに無記録部分があるテープでも、上記に留意してもう一度最初から最後まで撮影し直せば、カセットメモリー機能は正しく働きます。

ご注意
- カセットメモリー機能付きデジタルビデオカメラレコーダーで録画したテープの上に、機能なしカメラレコーダーで録画したときもカセットメモリー機能が正しく働かないことがあります。

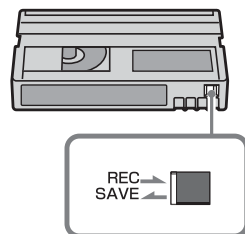
ちょっと一言
- CM 4K マーク横の数字は、どれくらいメモリーできるカセットかを示しています（この場合、4キロビットまで）。なお、本機は16キロビットのカセットまで対応しています。

◆著作権保護信号について

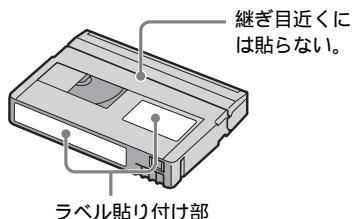
再生するとき
本機で再生されるカセットに著作権保護のための信号が記録されている場合には、他機をつないで本機の画像を記録するとき、記録が制限されることがあります。

記録するとき
著作権保護のための信号が記録されている映像音声は本機で記録することはできません。
このような映像音声を記録しようとすると、液晶画面またはファインダーに［コピープロテクトされています 記録できません］が表示されます。
なお、ビデオカメラで撮影した画像には、著作権保護のための信号は記録されません。

◆取り扱い上のご注意

間違って消さないために
カセットの背にある誤消去防止ツマミをSAVEの矢印のほうへずらします。

REC：録画できる。
SAVE：録画できない。（誤消去防止状態）

ラベルは指定の位置に

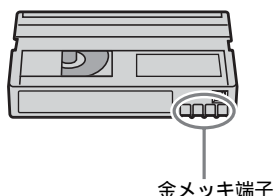
カセットにラベルを貼るときは、指定の位置に正しくお貼りください。指定以外の位置に貼ると故障の原因になります。

カセットの使用後は

ご使用後は必ずテープを巻き戻してください（画像や音声が乱れる原因となります）。巻き戻したテープはケースに入れ、立てて保管してください。

カセットメモリー機能が働かないときは

カセットを入れ直してください。金メッキ端子にゴミなどが付着して機能が働かないことがあります。

金メッキ端子のお手入れ

カセットの金メッキ端子が汚れたり、ゴミが付着したりすると、テープ残量表示などが正しく表示されなかったり、カセットメモリーを使う機能などが正しく働かないことがあります。
カセットの取り出し回数10回を目安にして、綿棒でカセットの金メッキ端子をクリーニングしてください。

“ メモリースティック ”について

“ メモリースティック ”（"Memory Stick"）は小さくて軽いのに、フロッピーディスクより大容量のIC記録メディアです。
本機は、標準の“ メモリースティック ”の約半分の大きさの“ メモリースティック デュオ ”のみ使えます。ただし、すべての“ メモリースティック　デュオ ”の動作を保証するものではありません。

“ メモリースティック ”の種類	記録・再生
メモリースティック	—
メモリースティック　デュオ[*1]	○
マジックゲート　メモリースティック	—
マジックゲート／高速データ転送 メモリースティック　デュオ[*1]	○[*2*3]
マジックゲート　メモリースティック　デュオ[*1]	○[*3]
メモリースティック　PRO	—
メモリースティック　PRO デュオ[*1]	○[*2*3]

[*1] 標準の約半分大のサイズです。
[*2] 高速データ転送に対応した“ メモリースティック ”です。転送速度はお使いになる機器により異なります。
[*3] “ マジックゲート ”とは暗号化技術を使って著作権を保護する技術です。本機ではマジックゲート機能を使ったデータは記録・再生できません。

- 静止画の圧縮形式：本機は、撮影した静止画データをJPEG（Joint Photographic Experts Group）方式で圧縮／記録しています。ファイル拡張子は「.JPG」です。
- 動画の圧縮形式：本機は、撮影した動画データをMPEG（Moving Picture Experts Group）方式で圧縮／記録しています。ファイル拡張子は「.MPG」です。
- 静止画の画像のデータファイル名：
  ー本機の画面表示：101-0001
  ーパソコンの画面表示：DSC00001.JPG
- 動画の画像のデータファイル名：
  ー本機の画面表示：MOV00001

次のページへつづく➡

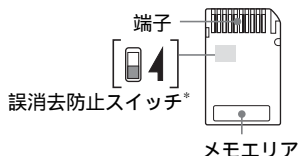
ーパソコンの画面表示：
MOV00001.MPG

- パソコンでフォーマット（初期化）した“ メモリースティック ”について：パソコン（Windows OS/Mac OS）でフォーマットした“ メモリースティック ”は、本機での動作を保証いたしません。
- お使いの“ メモリースティック ”と機器の組み合わせによっては、データの読み込み／書き込み速度が異なります。

◆記録されている画像データを誤って消さないためには

誤消去防止スイッチ*を先の細いものでスライドさせて、「LOCK」にする。
お使いの“ メモリースティック　デュオ ”によっては、誤消去防止スイッチ*の位置や形状が異なる場合があります。

* 本機に付属の“ メモリースティック　デュオ ”には誤消去防止スイッチはついていません。
付属の“ メモリースティック　デュオ ”をお使いのときは、データを誤って編集したり、削除しないようにご注意ください。

“ メモリースティック　デュオ ”裏

◆取り扱い上のご注意

以下の場合、画像ファイルが破壊されることがあります。破壊された場合、内容の補償については、ご容赦ください。

ー画像ファイルを読み込み中、または“ メモリースティック　デュオ ”にデータを書き込み中（アクセスランプが点灯中および点滅中）に、“ メモリースティック　デュオ ”を取り出したり、本機の電源を切ったりした場合
ー静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使った場合

大切なデータは、パソコンのハードディスクなどへバックアップを取っておくことをおすすめします。

取り扱いについて

以下のことを守ってください。

ーメモエリアに書き込むときは、あまり強い圧力をかけないでください。
ー“ メモリースティック　デュオ ”本体およびメモリースティック　デュオ　アダプターにラベルなどは貼らないでください。
ー持ち運びや保管の際は、“ メモリースティック　デュオ ”に付属の収納ケースに入れてください。
ー端子部に触れたり、金属を接触させたりしないでください。
ー強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
ー分解したり、改造したりしないでください。
ー水にぬらさないでください。
ー小さいお子さまの手の届くところに置かないようにしてください。誤って飲み込む恐れがあります。
ー“ メモリースティック　デュオ ”スロットには対応“ メモリースティック　デュオ ”以外は入れないでください。故障の原因となります。

使用場所について

以下の場所での使用や保管は避けてください。

ー高温になった車の中や炎天下など気温の高い場所
ー直射日光のあたる場所
ー湿気の多い場所や腐食性のものがある場所

メモリースティック　デュオ　アダプター（付属）の使用について

- “ メモリースティック　デュオ ”を“ メモリースティック ”対応機器でお使いの場合は、必ず“ メモリースティック　デュオ ”をメモリースティック　デュオ　アダプターに入れてからお使いください。
- “ メモリースティック　デュオ ”をメモリースティック　デュオ　アダプターに入れるときは、正しい挿入方向をご確認の上、奥まで差し込んでください。差し込み

かたが不十分だと正常に動作しない場合があります。
- メモリースティック　デュオ　アダプターに“メモリースティック　デュオ”が装着されない状態で、“メモリースティック”対応機器に挿入しないでください。このような使いかたをすると、機器に不具合が生じることがあります。

“メモリースティック　PRO　デュオ”および“メモリースティック　デュオ”（マジックゲート／高速データ転送）についてのご注意
- 本機で動作確認されている“メモリースティック　PRO　デュオ”は512MBまで、“メモリースティック　デュオ”（マジックゲート／高速データ転送）は128MBまでです。
- 本機はパラレルインターフェースを利用した高速データ通信には対応していません。

◆画像の互換性について
- 本機は（社）電子情報技術産業協会にて制定された統一規格 “Design rule for Camera File systems”に対応しています。
- 統一規格に対応していない機器（DCR-TRV900, DSC-D700/D770）で記録された静止画像は本機では再生できません。
- 他機で使用した“メモリースティック　デュオ”が本機で使えないときは、65ページの手順にしたがい本機でフォーマット（初期化）をしてください。フォーマットすると“メモリースティック　デュオ”に記録してあるデータはすべて消去されますので、ご注意ください。
- 次の場合、正しく画像を再生できないことがあります。
  ーパソコンで加工した画像データ
  ー他機で撮影した画像データ

“Memory Stick”、“メモリースティック”、MEMORY STICK、“Memory Stick PRO”、“メモリースティック　PRO”、MEMORY STICK PRO、“Memory Stick Duo”、“メモリースティック　デュオ”、MEMORY STICK DUO、“Memory Stick PRO Duo”、“メモリースティック　PRO　デュオ”、MEMORY STICK PRO DUO、“MagicGate”、“マジックゲート”、MAGICGATE はソニー株式会社の商標です。

その他

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーについて

本機は“ インフォリチウム ”バッテリー（Fシリーズ）対応です。それ以外のバッテリーは使えません。“ インフォリチウム ”バッテリー Fシリーズには InfoLITHIUM F SERIES マークがついています。

◆InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーとは？

“ インフォリチウム ”バッテリーは、本機や別売りのACアダプター／チャージャーとの間で、使用状況に関するデータを通信する機能を持っているリチウムイオンバッテリーです。

“ インフォリチウム ”バッテリーが、本機の使用状況に応じた消費電力を計算してバッテリー残量を分単位で表示します。

◆充電について

- 本機を使う前には、必ずバッテリーを充電してください。
- 周囲の温度が10～30℃の範囲で、フラッシュ／充電ランプが消えるまで充電することをおすすめします。これ以外では効率の良い充電ができないことがあります。
- 充電終了後は、ACアダプターを本機のDC IN端子から抜くか、バッテリーを取り出してください。

◆バッテリーの上手な使いかた

- 周囲の温度が10℃未満になるとバッテリーの性能が低下するため、使える時間が短くなります。安心してより長い時間使うために、バッテリーをポケットなどに入れてあたたかくしておき、撮影の直前、本機に取り付けることをおすすめします。
- 液晶パネルの使用や再生／早送り／巻き戻しなどを頻繁にすると、バッテリーの消耗が早くなります。
- 本機で撮影や再生中は、こまめに電源スイッチを切るようにしましょう。撮影スタンバイ状態や再生一時停止中でもバッテリーは消耗しています。
- 撮影には予定撮影時間の2～3倍の予備バッテリーを準備して、事前にためし撮りをしましょう。
- バッテリーは防水構造ではありません。水などにぬらさないようにご注意ください。

◆バッテリーの残量表示について

- バッテリーの残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる場合は、再度満充電してください。残量が正しく表示されます。ただし長時間高温で使ったり、満充電で放置した場合や、使用回数が多いバッテリーは正しい表示に戻らない場合があります。撮影時間の目安として使ってください。
- バッテリー残量時間が約5～10分でも、ご使用状況や周囲の温度環境によってはバッテリー残量が残り少なくなったことを警告するマークが点滅することがあります。

◆バッテリーの保管方法について

- バッテリーを長期間使用しない場合でも、機能を維持するために1年に1回程度満充電にして本機で使い切ってください。本機からバッテリーを取り出して、湿度の低い涼しい場所で保管してください。
- 本機でバッテリーを使い切るには、（基本設定）メニューで［自動電源オフ］を［なし］に設定し、電源が切れるまで撮影スタンバイにしてください（79ページ）。

◆バッテリーの寿命について

- バッテリーには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は少しずつ低下します。使用できる時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われますので新しいものをご購入ください。
- 寿命は、保管方法、使用状況や環境、バッテリーパックごとに異なります。

InfoLITHIUM（インフォリチウム）はソニー株式会社の商標です。

i.LINK（アイリンク）について

本機のDV端子はi.LINKに準拠したDV端子です。ここでは、i.LINKの規格や特長について説明します。

◆i.LINKとは？

i.LINKはi.LINK端子を持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールしたりするためのデジタルシリアルインターフェースです。

i.LINK対応機器は、i.LINKケーブル1本で接続できます。多彩なデジタルAV機器を接続して、操作やデータのやりとりができることが考えられています。

複数のi.LINK対応機器を接続した場合、直接つないだ機器だけでなく、他の機器を介してつながれている機器に対しても、操作やデータのやりとりができます。

ただし、接続する機器の特性や仕様によっては、操作のしかたが異なったり、接続しても操作やデータのやりとりができない場合があります。

ご注意

- i.LINKケーブルで本機と接続できる機器は通常1台だけです。複数接続できるDV対応機器と接続するときは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

- i.LINK（アイリンク）はIEEE1394の親しみやすい呼称としてソニーが提案し、国内外多数の企業からご賛同いただいている商標です。
- IEEE1394は電子技術者協会によって標準化された国際標準規格です。

◆i.LINKの転送速度について

i.LINKの最大データ転送速度は機器によって違い、以下の3種類があります。

S100（最大転送速度　約100Mbps*）
S200（最大転送速度　約200Mbps）
S400（最大転送速度　約400Mbps）

転送速度は各機器の取扱説明書の「主な仕様」欄に記載され、また、機器によってはi.LINK端子周辺に表記されています。
本機のように特に転送速度の記載がされていない機器の最大転送速度は「S100」です。
最大データ転送速度が異なる機器と接続した場合、転送速度が表記と異なることがあります。

* Mbpsとは？
「Mega bits per second」の略で「メガビーピーエス」と読みます。1秒間に通信できるデータの容量を示しています。100Mbpsならば100メガビットのデータを送ることができます。

◆本機でのi.LINK操作は

他のDV端子付きビデオとつないでダビングする方法については85ページをご覧ください。
また、本機はビデオ機器以外のソニー製i.LINK（DV端子）対応機器（パーソナルコンピューター VAIOシリーズなど）とも接続してご使用になれます。
なお、デジタルテレビ、DVD、MICROMVなどの映像機器には、i.LINK端子を搭載しながらも、DV機器とは対応できない仕様のものがあります。接続の際はあらかじめDV対応の有無をご確認ください。
接続の際のご注意および、本機に対応したアプリケーションソフトの有無などについては、接続する機器の取扱説明書をあわせてご覧ください。

◆必要なi.LINKケーブル

ソニーのi.LINKケーブルをお使いください。
4ピン←→4ピン（DVダビング時）

---

i.LINK、i はソニー株式会社の商標です。

取り扱い上のご注意とお手入れ

◆使用・保管について

使用中、保管中にかかわらず、次のような場所に置かないでください。

- 異常に高温や低温になる場所
  炎天下や熱器具の近く、夏場の窓を閉め切った自動車内は特に高温になり、放置すると変形したり、故障したりすることがあります。
- 激しい振動や強力な磁気のある場所
  故障の原因になります。
- 強力な電波を出す場所や放射線のある場所
  正しく撮影できないことがあります。
- TV、ラジオやチューナーの近く
  雑音が入ることがあります。
- 砂地、砂浜などの砂ぼこりの多い場所
  砂がかかると故障の原因になるほか、修理できなくなることもあります。
- ファインダーや液晶画面、レンズが太陽に向いたままとなる場所（窓際や室外など）
  ファインダー内部や液晶画面を傷めます。

長時間使用しないときは

3分間ほど再生するなどして、ときどき電源を入れてください。

◆結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の心臓部であるヘッドやテープ、レンズに水滴が付くことです。テープがヘッドに貼り付いて、ヘッドやテープを傷めたり、故障の原因になります。結露が起こると、［⏏結露しています カセットを取り出してください］または［結露しています 約1時間放置してください］と警告表示が出ます。ただし、レンズの結露では表示は出ません。

結露が起きたときは
カセットは直ちに取り出してください。警告表示が出ている間は、⏏開く／カセット取出しつまみ以外は働きません。
電源を切ってカセットカバーを開けたまま、結露がなくなるまで（約1時間）放置してください。電源を入れてもお知らせメッセージが出ず、カセットを入れてビデオ操作ボタンを押しても💧や⏏が点滅しなければ使えます。
結露気味のときは、本機が結露を検出できないことがあります。このようなときは、カセットカバーを開けてから約10秒間カセットが出てこないことがありますが、故障ではありません。カセットが出てくるまでカセットカバーを閉めないでください。

結露が起こりやすいのは
以下のように、温度差のある場所へ移動したり、湿度の高い場所で使うときです。
- スキー場のゲレンデから暖房の効いた場所へ持ち込んだとき
- 冷房の効いた部屋や車内から暑い屋外へ持ち出したとき
- スコールや夏の夕立の後
- 温泉など高温多湿の場所

結露を起こりにくくするために
本機を温度差の激しい場所へ持ち込むときは、ビニール袋に空気が入らないように入れて密封します。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

◆ビデオヘッドについて

- ビデオヘッドが汚れると、正常に録画できなかったり、ノイズの多い再生画像になったり、音声が途切れたりします。
- 以下のような症状になったときは、別売りの乾式クリーニングカセットDVM-12CLDを10秒間使ってヘッドをきれいにしておきましょう。
  ー再生画面に次のような四角いノイズが出る、または青１色の画面になる。

  ー再生画面の一部が動かない。
  ー再生画像が出ない、または音声が途切れる。
  ー録画中に［⊗📼ヘッドが汚れています　クリーニングカセットを使ってください］が表示される。
- ビデオヘッドは長時間使うと摩耗します。クリーニングカセットを使っても鮮明な画像に戻らないときは、ヘッドの摩耗が考えられます。このときは、ヘッドの交換が必要です。テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。

◆液晶パネルについて

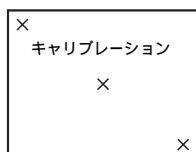
- 液晶画面を強く押さないでください。画面にムラが出たり、液晶パネルの故障の原因になります。
- 寒い場所でご使用になると、画像が尾を引いて見えることがありますが、異常ではありません。
- 使用中に液晶画面のまわりが熱くなりますが、故障ではありません。

お手入れ

- 液晶パネルに指紋やゴミが付いて汚れたときは、付属のクリーニングクロスを使ってきれいにすることをおすすめします。
  別売りの液晶クリーニングキッドを使うときは、クリーニングリキッドを直接液晶パネルにかけず、必ずクリーニングペーパーに染み込ませて使ってください。

画面調節（キャリブレーション）について

タッチパネルのボタンを押したとき、反応するボタンの位置にずれが生じることがあります。このような症状になったときは、以下の操作を行ってください。電源は付属のACアダプターを使ってコンセントからとってください。

1. 電源スイッチを「(充電) 切」にする。
2. 本機からACアダプター以外のケーブル類を外し、カセットと“メモリースティック　デュオ”を取り出す。
3. 本機の画面表示／バッテリーインフォボタンを押しながら、電源スイッチを「見る／編集」にする。その後約5秒間画面表示／バッテリーインフォボタンを押し続ける。
4. “メモリースティック　デュオ”の角を使って、画面に表示される×マークを押す。
   ×マークの位置は変わります。

正しい位置を押さなかった場合、やり直しになります。

ご注意

- 液晶パネルを外側に向けて本体に閉じたときは、キャリブレーションできません。

◆本機表面の取扱いについて

- 汚れのひどいときは、水やぬるま湯を少し含ませた柔らかい布で軽くふいたあと、からぶきします。
- 本機の表面が変質したり塗装がはげたりすることがあるので、以下は避けてください。
  ーシンナー、ベンジン、アルコール、化学ぞうきん、虫除け・殺虫剤のような化学薬品類
  ー上記が手についたまま本機を扱うこと
  ーゴムやビニール製品との長時間の接触

◆レンズのお手入れと保管について

- レンズ面に指紋などが付いたときや、高温多湿の場所や海岸など塩の影響を受ける環境で使ったときは、必ず柔らかい布などでレンズの表面をきれいに拭いてください。
- 風通しの良いゴミやほこりの少ない場所に保管してください。
- カビの発生を防ぐために、上記のお手入れは定期的に行ってください。また本機を良好な状態で長期にわたって使っていただくためにも、月に1回程度、本機の電源を入れて操作することをおすすめします。

◆内蔵の充電式ボタン電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入／切と関係なく保持するために、充電式ボタン電池を内蔵しています。充電式ボタン電池は本機を使っている限り常に充電されていますが、使う時間が短いと徐々に放電し、**3か月**近くまったく使わないと完全に放電してしまいます。充電してから使ってください。
ただし、充電式ボタン電池が充電されていない場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使えます。

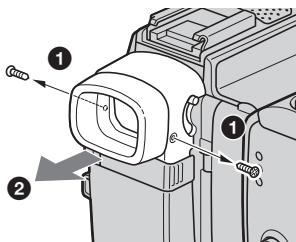
充電方法

本機を付属のACアダプターを使ってコンセントにつなぐか、充電されたバッテリーを取り付け、電源スイッチを「（充電）切」にして24時間以上放置する。

◆ファインダーのお手入れについて

1 アイカップをはずす。

❶ドライバを使って両側のネジを2本はずす。

❷アイカップをはずす。

2 アイカップの内側、ファインダー内部のゴミを、カメラ用のブロワーブラシなどで取り除く。

3 手順❶と❷を逆に行いアイカップを取り付ける。

ご注意

- アイカップの軸を落としたり、曲げたり、怪我をしないようにご注意ください。

主な仕様

◆システム

録画方式	回転2ヘッドヘリカルスキャン
静止画記録方式	Exif Ver.2.2*1
録音方式	回転2ヘッド 12ビット32kHz （ステレオ1、ステレオ2） 16ビット48kHz（ステレオ）
映像信号	NTSCカラー、EIA標準方式
使用可能カセット	Mini DV マークのついたミニDVカセット
テープ速度	SP：約18.81mm/秒 LP：約12.56mm/秒
録画・再生時間	SP：60分（DVM60使用時） LP：90分（DVM60使用時）
早送り、巻き戻し時間	約2分40秒（DVM60使用時）
ファインダー	電子ファインダー：カラー
撮像素子	3.8mm（1/4.7型）3CCD固体撮像素子 総画素数：約107万画素 静止画時有効画素数：約100万画素 動画時有効画素数：約69万画素
ズームレンズ	カールツァイス　バリオゾナー T* 12倍（光学）、150倍（デジタル） f=3.6～43.2mm （35mmカメラ換算では 「撮る-テープ」時： 49～588mm 「撮る-メモリー」時： 41～492mm） F1.6～2.8 フィルター径37mm
色温度切り換え	[オート]、[ワンプッシュ]、 [オクナイ]（3200K）、 [オクガイ]（5800K）
最低被写体照度	11 lx（ルクス）（F1.6）

*1（社）電子情報技術産業協会（JEITA）にて制定された、撮影情報などの付帯情報を追加することができる静止画用のファイルフォーマット。

◆入・出力端子

映像・音声端子	10ピン特殊コネクター 入力／出力自動切り換え 映像：1 Vp-p、75 Ω不平衡 Y出力　1Vp-p 75Ω不平衡 C出力　0.286Vp-p 75Ω不平衡 音声：327mV（47 kΩ負荷時)、入力インピーダンス47 kΩ以上、出力インピーダンス2.2 kΩ以下
USB端子	mini-B
LANC端子	ステレオミニミニジャック（ø2.5）
MIC（マイク）入力端子（FRONT/REAR）	ステレオミニジャック（ø3.5）
DV 端子	i.LINK（IEEE1394.4 ピンコネクター S100 ）

◆液晶画面

画面サイズ	6.2cm（2.5型）
総ドット数	211200ドット 横960×縦220

◆電源部、その他

電源電圧	バッテリー端子入力7.2V DC端子入力8.4V
消費電力	4.6W（ファインダー使用時、明るさ標準） 5.1W（液晶画面使用時、明るさ標準）
動作温度	0℃～+40℃
保存温度	－20℃～+60℃
外形寸法	101×78×158mm （最大突起部を除く）（幅×高さ×奥行き）
本体質量	約 780g（本体のみ）
撮影時総質量	約 890g (バッテリー NP-FF71、テープ（DVM60）、レンズキャップ含む。)
付属品	12ページをご覧ください。

◆ACアダプター　AC-L25A/L25B

電源	AC100～240V、50/60Hz
消費電力	18W
定格出力	DC8.4V、1.5A
動作温度	0℃～+40℃
保存温度	－20℃～+60℃
外形寸法	約56×31×100mm （最大突起部をのぞく） （幅×高さ×奥行き）
質量	約190g（本体のみ）

◆リチャージャブルバッテリーパックNP-FF71

最大電圧	DC8.4V
公称電圧	DC7.2V
容量	11.2wh（1560mAh）
最大外形寸法	約40.8×24.1×49.1mm （幅×高さ×奥行き）
質量	約90g
使用温度	0℃～+40℃
使用電池	Li-ion

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

◆保証書

この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。所定事項の記入と記載内容をお確かめの上、大切に保管してください。
このデジタルビデオカメラレコーダーは国内仕様です。海外で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスとその費用については、ご容赦ください。

◆アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを
「故障かな？と思ったら」の項を参考にして故障かどうかお調べください。

それでも具合の悪いときは
テクニカルインフォメーションセンター（裏表紙）にお問い合わせください。

保証期間中の修理は
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について
当社はデジタルビデオカメラレコーダーの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。

部品の交換について
この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

各部のなまえ

本体

1 **レンズキャップ（21、28ページ）**

2 **液晶画面／タッチパネル（3、16ページ）**

3 **液晶画面バックライトボタン（16ページ）**

4 **OPENボタン（16ページ）**

5 **録画スタート／ストップボタン（21ページ）**

6 **スピーカー**

7 **ファインダー（2、17ページ）**

8 **アイカップ**

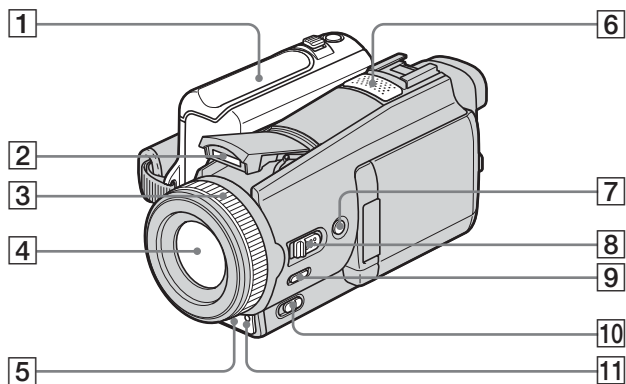
9 **撮る-テープ、撮る-メモリー、見る／編集ランプ（16ページ）**

10 **（ヘッドホン）端子（緑色）**

ヘッドホンを使うときはステレオミニジャックのものを使ってください。ヘッドホンを使うとスピーカーから音は出ません。

11 **電源スイッチ（16ページ）**

12 **ϟ（フラッシュ）ボタン（30ページ）**

13 **フラッシュ／充電ランプ（13、30ページ）**

1 **マルチアングルグリップ（3ページ）**

2 **フラッシュ発光部（30ページ）**

3 **ズームリング（24ページ）／フォーカスリング（35ページ）**

4 **レンズ（カール ツァイスレンズ搭載）**
本機はカール ツァイスレンズを搭載し、繊細な映像表現を可能にしました。本機用に生産されたレンズは、ドイツ　カール ツァイスとソニーで共同開発した、MTF測定システムを用いてその品質が管理され、カール ツァイスレンズとしての品質を維持しています。
さらに本機はT*コーティングを採用しており、不要な反射を抑え、忠実な色再現性を実現しております。
MTF＝Modulation Transfer Functionの略。被写体のある部分の光を、画像の対応する位置にどれだけ集められるかを表す数値。

5 **リモコン受光部／赤外線発光部（91ページ）**

6 **内蔵ステレオマイク（96ページ）**
外部マイクをつなぐと、外部マイクの音声が優先されます。

7 **画面表示／バッテリーインフォボタン（14ページ）**

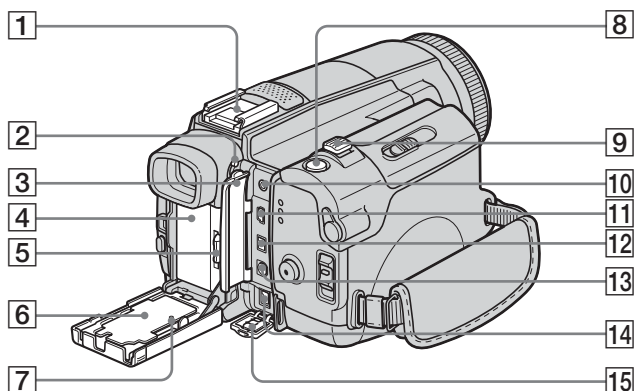
8 **フォーカス／ズームスイッチ（24、35ページ）**
自動／ズーム
ズームリングを使って、ズームするときに選びます。ピントは自動的に調節されます。
自動
自動でピントを合わせるときに選びます。
手動
手動でピントを合わせるときに選びます。

9 **逆光補正ボタン（32ページ）**

10 **オートロックスイッチ （55ページ）**

11 **録画ランプ（21ページ）**

各部のなまえ・索引

次のページへつづく➡

1 **インテリジェントアクセサリーシュー Intelligent Accessory Shoe（96ページ）**
- 別売りの専用マイクやビデオライトなどを使うとき、本機から電源を供給できます。
- 本機の電源スイッチに連動して、アクセサリーの電源の入/切ができます（お使いになるアクセサリーの取扱説明書をあわせてご覧ください）。
- 取り付けたアクセサリーが落ちないように、はずれにくい構造になっています。アクセサリーを取り付けるときは、押しながら奥まで差し込み、取り付けネジを確実にしめ付けてください。アクセサリーを取り外すときは、取り付けネジをゆるめ、上から押しながら外してください。
- インテリジェントアクセサリーシュー対応のビデオライト点灯中は、内蔵のフラッシュは発光しません。

2 **視度調整つまみ（17ページ）**

3 **端子カバー**

4 **バッテリーパック（13ページ）**

5 **バッテリー取り外しつまみ（14ページ）**

6 **バッテリーカバー（13ページ）**

7 **RESET（リセット）ボタン**
RESETボタンを押すと、日時を含めすべての設定が解除されます（ただし、パーソナルメニュー項目は解除されません）。

8 **フォトボタン（28ページ）**

9 **ズームレバー（23ページ）**

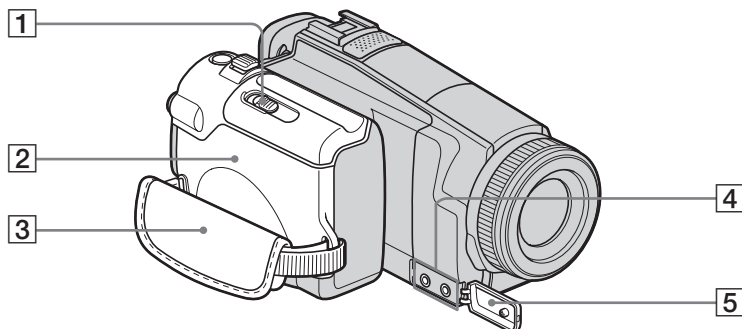
10 **LANC端子（青色）**
LANC端子は、ビデオ機器と周辺機器をつなぎ、テープ走行などをコントロールできるようにした端子です。

11 **(USB)端子**

12 **DV端子（84ページ）**

13 **映像・音声端子（51、84ページ）**

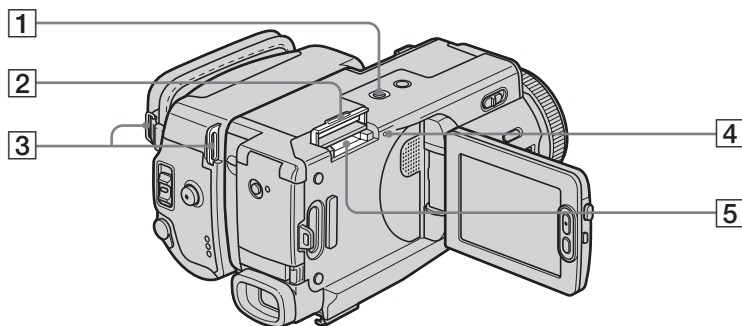
14 **DC IN端子（13ページ）**

15 **DC IN端子カバー**

1 **⏏ 開く／カセット取出しつまみ（19ページ）**

2 **カセットカバー**

3 **グリップベルト（3ページ）**

4 **MIC（マイク）端子**
REAR（黒）／FRONT（赤）（26、96ページ）
MIC（PLUG IN POWER）端子はプラグインパワー方式の外部マイク用電源端子とマイク入力端子が兼用になった端子です。外部マイクを接続すると外部マイクが優先されます。

5 **MIC（マイク）端子カバー**

1 **三脚用ネジ穴**
三脚を使うときは、ネジの長さが5.5mm以下のものを使ってください。ネジの長い三脚ではしっかり固定できず、本機を傷付けることがあります。

2 **“ メモリースティック　デュオ ” カバー（20ページ）**

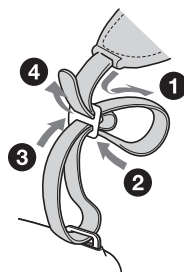
3 **ショルダーストラップ取り付け部**

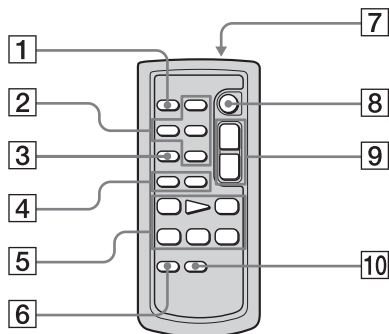
4 **アクセスランプ（20、122ページ）**

5 **“ メモリースティック　デュオ ” スロット（20ページ）**

◆ショルダーストラップ（別売り）を取り付けるには

ショルダーストラップの取り付け部に図のように取り付けてください。

各部のなまえ・索引

ワイヤレスリモコン

絶縁シートを引き抜いてからリモコンを使ってください。

1 **フォトボタン（28ページ）**

2 **メモリー操作ボタン（インデックス・－/＋・再生）（46ページ）**

3 **サーチ選択ボタン（52、53ページ）**

4 **⏮ ⏭ボタン（52、53ページ）**

5 **ビデオ操作ボタン（巻き戻し・再生・早送り・停止・一時停止・スロー）（44ページ）**

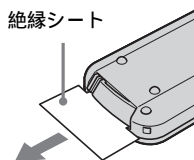
6 **ゼロセットメモリーボタン（52ページ）**

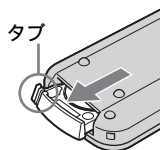
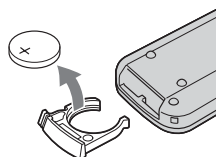
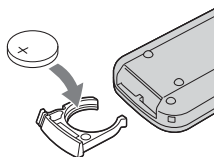
7 **リモコン発光部**
本機のリモコン受光部と向かい合わせてください。

8 **録画スタート／ストップボタン（21ページ）**

9 **ズームボタン（23ページ）**

10 **画面表示ボタン（49ページ）**

◆絶縁シートの抜きかた

◆電池を交換するには

1 電池ケースのタブを内側に押しながら、溝に爪をかけて引き出す。

2 ボタン型リチウム電池を取り出す。

3 ＋面を上にして新しいボタン型リチウム電池を入れる。

4 電池ケースを本体に戻す。「カチッ」と音がするまで差し込む。

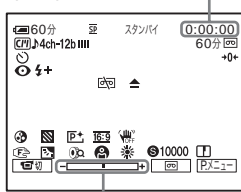
リモコンについてのご注意

- リモコンには、ボタン型リチウム電池（CR2025）が内蔵されています。CR2025以外の電池を使用しないでください。
- 本体のリモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たらないようにしてください。リモコン操作ができないことがあります。
- コンバージョンレンズ（別売り）を付けていると、リモコン受光部をさまたげ、リモコンが正しく動作しないことがあります。
- 付属のリモコンで本機を操作しているときに、ほかのビデオデッキが誤動作することがあります。その場合、ビデオデッキのリモコンモードスイッチをVTR2以外のモードに切り換えるか、黒い紙でリモコン受光部をふさいでください。

ファインダーと液晶画面の表示

撮影中や再生中、下記の表示やアイコンが出ます。( ) 内は参照ページです。

例：電源スイッチが「撮る-テープ」のとき

タイムコード（49）/テープカウンター（22）/自己診断（113）/ファイル番号（47）

調節バー

表示	意味
60分	バッテリー残量（22）
SP、LP	録画モード（23）
スタンバイ／●録画	撮影スタンバイ／撮影中
FINE STD	画質（29）
1152 640	画像サイズ（29）
320 160	画像サイズ（23）
101 101	記録先フォルダ（66）/再生フォルダ（66）
C///	カセットメモリー（120）
♪4ch-12b	4CHマイク記録（26）
	入力レベルメーター（76）
♪16b	音声モード（75）
60分	テープ残量（22）
BRK	連写（63）
	セルフタイマー録画（24、31）
	インターバル録画（69）
	インターバル静止画記録（70）
	フラッシュ（30） 発光時のみ表示
	コマ撮り（69）

表示	意味
A/V▶DV	A/V→DV出力（77）
DV IN	DV入力（86）
→0←	ゼロセットメモリー（52）
	警告（113）
P	ピクチャーエフェクト（67）
D	デジタルエフェクト（37）
M	メモリーミックス（39）
	手動フォーカス／拡大フォーカス（34）
	プログラムAE（56）
	逆光補正（32）
	ホワイトバランス（57）
	シャープネス（58）
AS	AEシフト（59）
	カメラ色のこさ（59）
16:9	ワイドTV（61）
OFF	手ぶれ補正（62）
S	シャッタースピード（58）
	ゼブラ（60）
	プロテクト（99）
	プリントマーク（100）
all 1	スライドショー（68）
OFF	液晶画面バックライト 切（16）
	画像削除（98）
	PictBridge 接続中（101）
	ズームリング（24）

索引

数字

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ラ行

ワ行

アルファベット順

カスタマー登録のご案内

ソニーではハンディカムをお買い上げの皆様へのサポートをより充実させていくため、お客様に「カスタマー登録」をお勧めしています。
詳しくは付属の「デジタルイメージング カスタマー登録のお勧め」をご覧ください。

■ カスタマー登録および登録内容の変更はこちらのホームページから
http://www.sony.co.jp/di-regi/

■ カスタマー登録に関するお問い合わせは
ソニーマーケティング（株）カスタマー専用デスク
電話：　0466-38-1410
受付時間：　月～金曜日　午前10時～午後6時
（ただし、年末、年始、祝日を除く）

電話のおかけ間違いにご注意ください。

お問い合わせ窓口のご案内

■ デジタルイメージングカスタマーサポート
デジタルハンディカムとパソコンの接続方法や、最新サポート情報をご案内するホームページです。
http://www.sony.co.jp/support-di/

■ テクニカルインフォメーションセンター
ご使用上での不明な点や技術的なご質問のご相談、および修理受付の窓口です。
製品の品質には万全を期しておりますが、万一不具合が生じた場合は、「テクニカルインフォメーションセンター」までご連絡ください。修理に関するご案内をさせていただきます。
また修理が必要な場合は、お客様のお宅まで指定宅配便にて集荷にうかがいますので、まずお電話ください。

電話：0564-62-4979
受付時間：月～金曜日　午前9時～午後5時
（ただし、年末、年始、祝日を除く）
お電話される前にあらかじめ以下の内容をご用意いただきますとより迅速な対応が可能になります。

① **お客様のデジタルイメージングカスタマー ID**
（既にカスタマー登録されたお客様にはカスタマー IDが発行されています）
② **本機の型名DCR-HC1000、および製造番号**
（保証書などに記載されています）

電話のおかけ間違いにご注意ください。

■ ハンディカムホームページ
ハンディカムの活用法やアクセサリー情報、パソコンへの画像取り込み方法を掲載しています。
http://www.sony.co.jp/cam/

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川6-7-35

http://www.sony.co.jp/

この説明書は100%古紙再生紙とVOC (揮発性有機化合物)ゼロ植物油型インキを使用しています。

Printed in Japan